

特別
3820
2



312
3820
2



申第拾九雜

屯田兵編成爲ノ定額金増加ノ義ニ付建議

屯田兵編成爲ノ昨年増加セウシタル金額ヲ以テ徵募カスル
所ノ人負ニテ四拾戸ノ豫定ノ有ニ知今般御達ニ依テ
各府縣ヨリ上申ノ名簿人負ニ四千九拾貳名有之模査ノ上
不合格者ヲ其一割ト概算シ四百九名ヲ除去シ全ク徵募
ス可キ者三千六百八拾三名ヲ豫定ノ千四拾名
ノ内ニ尚或千六百四拾三名ノ應募者アリ之ヲ空名
却候テ志願者ノ失望ノニテ御達ニ依テ差出タル上
對ニ何トテ御處置無ニテ不相成義ニ付聊自付目
左ニ開東
志願者如斯ノ多キ中ニ目
之ノ多カレリト云又自
可有之政畧上ヨリ見

者
 難野
 因者之ヲ撫恤セザルヘカ
 願意ヲ許シ可シ屯田兵
 士氣本々
 之ノ荒廢、地ヲ開拓シテ物産ヲ興スルヲ得ヘク加ヘテ近
 金融運迫處、場態本、如キ兵變ニ當テタル城ニ士族、
 別シテ田樂ニ迫リテ事實有テ或他日且モ等ヲ廢置
 為シテ要スルノ費ナキヲ期スリテ今日之ヲ北海道ニ移住セ
 其タル所至ル所、地方内ナリテ益アルノコトヲ示シ遊民ヲ驅テ
 民ヲウシムヘシ邦家ノ為ニ實ニ緊急ノ事業矣ス可ラカ
 標合ト思考仕候依テ前陳載千六百四十三名ヲ徵募ス
 ルノ費額概算別紙ノ通、金百六十一万六千七百三拾五圓
 貳銭九厘本年度以降五年ニ割合特別沛ニ附相成、
 標其筋ハ沛申請相成度共改建議仕物也

明治十八年四月十八日

屯田事務局長

准陸軍大佐永山武四郎

陸軍卿伯爵大山巖殿

別

屯

及三十四年間信共諸費概算

一金百六拾元 七百三拾元 計錢九厘

是二屯田兵武千六百四拾三石徵募費及三十四年間信共諸費
但遠近平均志石付金二百拾元七拾錢三厘

内

金六百拾元 園七拾錢三厘 屯田兵志戶分費額

内

金貳百四拾三圓七拾八錢

兵屋及井戶共新設費

同七拾四圓貳拾八錢五厘

徵募旅費

同拾三圓七拾錢貳厘

農具代

同五圓九拾八錢壹厘

家具代

同拾七圓八拾錢貳厘

夜具代

同百五拾壹圓拾貳錢

扶助米代

同五拾八圓五拾錢

塩菜代

同拾八圓九錢

惠者費

同貳圓拾三錢三厘

埋葬料

同貳拾五圓八拾錢

授產費

屯田兵増員ノ義ニ付上申

夫北海道ハ沃野千里河海漁魚ノ利ニ富ミ所謂天
 府ノ國ニミテ又 皇國北門ノ鎖鑰ナリ開拓敢言
 備兩十カラ忽諸スヘカラス旅是リ政府早ニ屯田
 兵ヲ設置セラシム今又一千人餘徵募ノ令アリ右
 府縣士族ノ外恩命ヲ拜スルマ存口ツテ其募ニ應
 スル者無慮四千餘名ノ多キニ至リ候趣然レニ若夫
 豫定人員ノ外都テモ招募セラシムカテテテテテテ
 志願者ノ其數望ラ空ヲスルノミナラス其海外
 多事ノ日ヨリ開拓ノ要警備ノ急ニ於テ最モ遺
 憾トスル 依テ右増員ノ義付別紙寫之
 通屯田 武四郎ヲ曾テ其勅ノ及身ニ候候

廢柳也

規則

地望耕：從事スルヤ爾然一定
其事業、進度自カウ他
烏台移任、企テ及フ所ニマウザルハ從来、實
驗ニ徴シ明瞭ナルニ我ニテ之ヲ増加スルハ必要ニ當
北門、警備ニ止マラズ松官等ニ於テモ至極同感ニ
有之拓地殖民ニ關シ地方政權上難點止存ニ候條
右建議ニ趣至急ニ決裁可相成候様仕度也
段上申候也

明治十八年五月十二日

今湯地定基代理

根室縣少書記官廣田千秋

今調所廣文代理

札幌縣大書記官佐藤秀顯

今時任為基代理

函館縣大書記官堀金山

内務卿伯爵山縣有朋殿
大藏卿伯爵松方正義殿
農商務卿伯爵野田道毅

北海道へ士族移住之義付上陳

北海道移住士族保護之件農商務省ニ於テ取扱、
慶先般陸軍省へ移管相成屯田兵之組織ニ依リ
保護スヘキ様御制定ニ付テ各府縣ヨリ移住志願
者四千九百餘名ノ多キニ至リ候得共農商務省ヨリ
陸軍省へ引継ノ經費ニ相与セシメテ豫定々分
僅々一千四百戸ニ過キス而シテ志願者中不合格ニ者
及ヒ右豫定ノ人数ヲ引去ルハ尚募集ニ應ムヘキ
志願者無慮二千六百餘名ニ至リ非常ヲシテ移住
ノ致度皆北海道ニ歸ス各地方官ヨリ別紙之通
繕々建議
開録上ニ敬言

審考候處柳該道ニ北門ノ領鑑ニ
ツナカウ忽諸ニ付スヘカウ廿八樞要ノ

殖民地ニシテ

ニス可キハ今

急務タルハ

要也ス漸次人烟稠密ノ

國ヲ施コシ物産増殖ノ基ヲ立テ國家ノ威カヲシテ大ニ

權揮セシメスハカラス輓近士族生理ニ困難

ナル日一日より其窮ラ告ゲ偶就産ノ業務ニ從事スル

モ多クハ姑息不慣ノ事業ニ着手スルヨリ失敗ヲ來ス者

故弊中ニ違アラス且月下世上之不景氣ニ由リ後ヲ業界

モ亦活況ナリテ得ス益疲弊ヲ極シ各地方官モ之ヲ救

濟ノ方法ヲ審按シ日夜若慮ミテ措ク能ハス然ルニ屯田

兵募集ヲ移任ニ舉一タヒ行ヒテヨリ皆之ヲ屈免

適切ナル業務トナシ士族常モ亦抵言ツテ其亦分テ盡テ

ント款ニ陸續志願スルノ氣勢カニシテ之ヲ保護セ一一彼

輩ニ確實ナル産業ヲ与ヘテ以テ生計ノ道ヲ得セシメ地方

地方ノ政柄其宜キヲ得ハク一ニ獨リ護兵ノ警備ニ止マラ

ズ拓地ノ實業頓ニ舉リ國カヲ増進スルニ臻ルハク是ニ

一舉ニ兩得ノ便方ト謂フヘキナリ本議殖民地上頗ル國

係ヲ有スルヲ以テ實施ノ計畫ヲ輸ス可キハ執一也五スル

所ニ候得共之ヲ為スハ應分ノ費用ヲ要スルナリ夫士族

勸業資本金五トシテ農商務省ハ年々法ト附相成候

五十萬圓ノ内内務省儀ニ既ニ陸軍省ハ引継キ乙部ニ

各府縣ハ割賦ノ計畫定マリ甲部ニ家祿ニ處分ニ

賄賂ニタル請願者ノ貸方ニ引當ラ準備金ハ殆ト支

出し而シテ普通ノ殖民保護費ニ僅カニ三万圓ニシテ常

ニ不足ラ者ルノ現状ニ付到底士族移任ニ費用ニ流用支

弁ニ道無ニ 以府知事縣令建議ニ至者ニ至極

適切ヲ早ニ 也ハルヘカウカニ義ト確認候條

陳之事情
 本議涉採
 書類相添此段上陳仕候也
 中洞案ノ上此際出格ノ御註議
 一ノシク希望上ノ至ニ堪ハス依リ別
 明治十八年八月九日

農商務卿 西御從道
 陸軍卿 大山 巖
 内務卿 山原 有明

古波大臣三條實義殿

上陳之敷金額前途下附之義
 目守難及詮議候事

明治十八年十月三十日



屯田兵増殖豫定表

| 年 度 | 移住年月 | 戸 数 | 地 名 | 金 額 |
|-----|--------|-------|---------------|-----------------------------|
| 十七年 | 十八年五月 | 百九十三 | 江 別 | 九万七千二百八拾七圓五拾錢 松武万九千五百十二圓 |
| 十九年 | 十九年五月 | 三百四十五 | 二百廿根 百廿五江別 | 拾七万五千圓 |
| 二十年 | 二十年五月 | 二百五十六 | 百十室 百十六琴似 | 拾五万圓 |
| 廿一年 | 二十一年五月 | 百四十七 | 百廿根 廿七琴似 | 拾五万圓 |
| 廿二年 | 二十二年五月 | 百 | 根 室 | 拾五万圓 四万三千七百七拾七圓五拾錢 |
| 合 計 | | 千四拾壹 | | 八拾九万五千三百七拾五圓 |

備考十七年度以降廿二年度迄ニ付セシタル士族授産金ハ八拾
 八万六千七百七拾五圓ニシテ之本省ヨリ曾テ操替ヲ受ケタル金員返納
 ニ及ニ廿七モ九千貳百五拾圓ヲ加ヘ新募増殖ニシテ豫定額トシ屯田兵本
 部ノ経費ニ別
 直定額金アルヲ以積算セリ廿二年度ニ記入セル四万
 三千七百七拾五圓
 年度改正付十八年度ヨリ三月分ヲ繰下

屯田兵之義ニ付建議

士族ヲ徵募シ屯田兵ニ編成之義本軍陸軍省
達甲第六師ヲ以テ相達セラルルニ付之ヲ管下ニ布
達スルヤ士族之輩恩ニ感ニ命ニ赴キ奮テ其募ニ
應セント請願スルモノ總計四千三百餘人ノ多キニ至リ
其熱望ノ切ナル事士族本分ノ名實ヲニツナガラ
表彰セントノ精神ニ之レアリ素ヨリ傍ラ目下ノ飢渴
ヲ凌クノ目的ヲ達セントノ意モ之レアルヘクト雖國家ニ
盡スノ精神ニ未ダ飢ハナルノ致ス処ニシテ本職等ハ
勉メテ其良心ヲ豫テ贊助スル所ニ候當カニ屯田兵設
置ノ御旨敬
不スルニ北門ノ類簡ヲ嚴ニ國家ノ威カ
ヲ擁護セ
士族ヲ以テ之ニ充テラルルハ從來國

家ニ盡スルニ富ミタルモノヲ御撰撰キ之御取ニ
シテ傍ラ士ニ因窮ヲ救助シ授産ノ基礎ヲ御設置ニ
外ナラザルヘシ然レニ今傳聞スル所ニ依ルニ五ヶ年間ニ
シテ僅々千四拾五徵募ノ豫算亦十八由里ニテ然ルハ徵
募者ニ請願者全數ノ四分一ニシテ失望之輩甚キ過キ波
哥ノ哀情察知スヘキナリ聞ク近頃徵募増員ノ義屯
田兵本部々長ヨリ建議セシ趣ナレバ之ヲ深ク
御詮議可有シト思考候得共徵募者僅々千餘人
ナルヲ傳聞スルハ本職等ニ於テ請願之哀情ヲ察シ
黙止スヘカラス抑今日地方士族ノ景況ヲ通觀スルニ日
一日ナリ其窮ヲ増シ往々就産ノ業務ニ従事セシモ
目下世上ノ不景氣ヨリ從ワテ活流ハ業務モ逐日少
少到底今ヨリ確實ナル救済方法ヲ以テ其事業ヲ

設ケサルヘカラスト日夜若慮罷在候批柄該兵備成ノ
達ヲ奏セラシタルニ付該等ハ士族ニ居意ナル業務ニ
シテ各其本分ヲ盡シ傍ラ自活ノ目的ヲ達シ而シテ北
門ノ鎖鑰其嚴ヲ増シ國家之威力其光ヲ加ヘ又一ハ荒
蕪地ヲ開拓シ將來國產ヲ播殖スルノ根基ニシテ營ニ
一舉兩全ナルノミナラズ其効其益枚舉ムヘカラスル
ナリ爰ニ於テ徵募増員ニ義深ク冀望ニ堪ヘサル所以
ナリ仰冀クハ本職ノ意見御洞察深ク御詮議之上御採
用アラントテ以隨建議候也

東京府
神奈川縣
兵庫縣

石川縣
福井縣
鳥取縣
岡山縣
廣島縣
山口縣
和歌山縣
德島縣
高知縣
愛媛縣
福岡縣
大分縣
佐賀縣

新瀉縣
群馬縣
千葉縣
茨城縣
栃木縣
三重縣
愛知縣
山梨縣
宮城縣
長野縣
福島縣
岩手縣
青森縣

宮崎縣

右府知事原令経代

東京府知事渡邊洪基

明治十八年六月

内務卿伯爵山縣有朋殿

陸軍卿伯爵大山巖殿

農商務卿伯爵西御從道殿

北海道屯田兵増置ノ議

夫シ北海道ノ兵備ハ地形上尤モ忽カセニス可ラザル
 所ニシテ廟議ノ常ニ以テ憂トナス所ナリ是ヲ以テ維
 新ノ初ノ乃チ秋田等奥羽四藩ニ命シテ函館ヲ警守セ
 シメ爾テ函館函館隊ヲ置キ守テ改メテ護衛兵ト称シ
 明治六年ニ至テ始メテ黒田閑拓次官ノ建議ヲ用ヒテ
 屯田兵ノ制ニ倣フテ民ヲ移シテ之ニ充テ且耕且守
 リ拓地兵備兩ツテガ其便ヲ得セシムルモノトシ明
 治八年始メテ屯田兵ヲ宮城青森秋田三原ニ算リテ之
 ヲ札幌郡琴似村ニ移セシコリ以來昨明治十八年ニ至
 ル迄屯田兵ヲ移スル已ニ八百戸ニ及ベリ但シ此ノ本
 年五月根室 屯田兵ヲ移スル第一大隊第一中隊ヲ除キ
 是度親シク琴似山鼻江別及根室ノ

兵移住地... 見其演習開墾ヨリシテ兵屋楹制
規律等ニ至... 一、就テ之ヲ觀察シタルニ實ニ成績
粲然トシテ頭ハ本大臣等ヲ満足セシメタリ茲ニ其概
ヲ陳セシニ凡ソ屯田兵ハ入隊ノ時家宅一戸ニ付一宇
ヲ給ス其独身ニシテ家族ナキ者ハ一四人ニ一宇ヲ給
ス(家具夜具垢地)一戸一万坪迄ヲ給シ暇役中ハ勿論免
後ノ後十ヶ年間ハ仍ホ除租トス(農具等ヲ支給シ尔後
滿三ヶ年間被服食料等從テ給助スルモノトシ六ヶ月
間ニ生兵學課ヲ卒業セシメ逐次ニ中隊運動及ヒ野外
演習等ヲ訓練シ毎月一日ヲ以テ演習日トナシ一過シ
タル所ノ體操運動等ヲ逐次ニ復習セシメ右演習日及
空例ノ休日ヲ除クノ外ハ日々開墾地ニ出テ服業セシ
ムルモノトシ四月一日ヨリ九月三十日ニ至ル迄ハ

午前四時ニ起床セシメ六時ヨリ就業セシメ昼食一時間
休息ヲ除クノ外ハ午後六時ヨリ休息引上ルヲ許サズ
通シテ十一時間就業セシム(十一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル間ハ
午前五時起床セシメ七時ヨリ就業シ午後五時ニ引揚ゲル
モノトス)而シテ其演習等ニ就業中ハ勿論各身兵屋ニ在リ
間ト雖モ總テ軍紀ヲ以テ之ヲ懲罰シ殊ニ其毎日就業
中ニ中隊長及ヒ小隊長之ヲ巡檢シテ其勤惰ヲ監督シ
之ハ日報表週表月報及季報ヲ作りテ大隊長ニ報
告シ又毎月最後ノ月曜日ニ各中隊長ニ同大隊長本部
召集シ兵務及農桑事業ニ關スル意見ヲ大隊長ニ具
申シ之ヲ審議スルモノトシ士官ト下士兵卒ト相敬愛シ隊兵
各々親睦シ和一致砥礪勉強シ殊ニ其常ニ田疇ニ出
新鮮大氣ヲ呼吸シテ力作スル故ヲ以テ身体亦自ラ強

健ニテ皆善ノ馬ニ騎リ馳馳ニ殆ニト露國コサツク兵ノ
風アリ又其開墾耕作ニ至テハ之ヲ督スルニ規律勞働法ヲ
以テシ加フルニ士官下士等ノ指揮獎勵丁寧周到ヲ以テスルニ
ヨリ給與ノ地悉ク善ク墾闢シ桑麻菜蔬鬱然トシテ繁
茂シ其本年始テ移リタル地即チ根室ノ如キモ一望尽ク新畦
トナリテ各種植物ヲ種付ケ殆ニト已ニ一兩年ヲ経過シタルカ
如ク育ユル程ニテ明治十八年屯田兵稼穡一覽表ニ據ルニ
土地ノ開墾土ルニ合計一千百五町餘步(但シ此ニ本年根室開墾
地ヲ除キタルカ)貯蓄金金計凡ソ六萬餘ク有セリ蓋シ後チ
北海道ノ施設シタル各事業ノ中ニ於テ其成績ノ著ルシヤク未ダ
如キ者アラズ但シ惜ムラクハ其兵負猶ククシテ未ダ充分拓地
兵備ノ兩目的ヲ達スルニ足ラザルハ本大臣等之ヲ當該將
校ノ言ニ聞クニ元來現行屯田兵規則ニ依テ北海道ニ移住

セシム可キ該兵總テ數見込高ハ千六百戸ニシテ之ニ
関スル一切費用ノ豫算金額ハ八十八万六千百二十五
圓トシ(一戸ニ付移住ヨリ給與年限ヲ終ル迄一切ノ費
用六百圓トス)特ニ士族授産金ノ中ヨリ支出シ明年ヨ
リ向キ三ヶ年間ニ悉ク移住セシメ訖ル見込ナリト即
チ明治二十三年ニ至ルニ北海道屯田兵ノ數ハ合セテ
二大隊トナルベシト虽僅ニ二大隊ノ兵ヲ以テ北海道全
道十一ヶ國ノ兵備ニ充ツルモノトスルニ其厚薄必カ
シク言テ俟タズシテ知ル可キナリ且ツ該屯田兵ニ係
セラ開墾ノ業ニ服セシメ其勞働規律アリ耕作法アル
ハ頗ル以テ一般開墾者ノ模範トナスニ足ルモノアリ
ハ之ヲ增加スルニ獨リ兵備上ニ於テ必要トスルノミ
ナラズ實ニ北海道開墾ノ進歩ニ於テ關係アリトス

本大臣等、右見込高千六百戸、外更ニ屯田兵一
大隊若クハ二大隊ヲ増加スルコトヲ以テ急ニナシ
之ヲ提出シテ各大臣ノ議ヲ請フコト欲スルナリ其費
用支出ノ法ニ至テハ別ニ之ヲ議シテ可ナリ且ツ往來
屯田兵ノ入費ハ前ニ之ヲ掲ゲタルオ如ク一戸ニ付平
均六百圓トスルモ如クハ始メテ該兵ヲ置キタル時ノ
預算ニ係ルモノナシ今日ニ至テハ諸品ノ價格七之
ヲ當時ニ比シテ頗ル低廉トナリ加之ルニ亦未施設上
ノ経験及ヒ結果モ多少因テ其費ヲ省約スルコト得ル
モノ有ル可ク譬之ハ創置ノ初メニ於テハ大工泥工等
迄モ恣テ特ニ之ヲ内地ヨリ呼寄スルコトヲ要シタル程
ナシモ今日ニ至テハ右等職工ノ如キモ彼地ニ於テ旬
ヲ并ス可ク其他大抵以割合ニ準スル訳ケナシハ今日

之ヲ増加スルハ其費用ハ必ズシテ最初創置シタル豫
算ノ割合ニマダ止ルコトヲ要セス凡ソ一戸ニ付四百圓
ニテ是レ下シ又之ヲ管スル規則ノ如キハ元來該兵ハ
且ツ耕シ且ツ守ラシムル為メニシテ常備兵等ト同シ
ク論シ難キモノアリハ應リニ概シテ一般陸軍規律ヲ
施及スヘカラス且ク之ヲ適宜ニシ實地用望ノ業ニ服
スルニ便ニシ成ル丈ケ多ク特典ヲ之ニ與フル様故ニ
設定ス可シ誠ニ如故ナリナシハ度クハ稍々最初ノ目的
ヲ達スルコトヲ得ン願クハ各大臣之ヲ熟圖セラレ屯
田兵増置ノ議ニ一致セラレシコトヲ

明治十九年十二月
外務大臣伯井上馨
内務大臣伯山縣有用

屯田兵増殖方案

屯田兵増殖

出回兵増殖方案

北海道出回兵ハ従来増殖セシ者現在在り四回兵人
ニシテ今後増殖方案ハキ者本年一十月四日以前
松人ナリ蓋シ政府既定ノ計畫ハ古令討ふハ而
四回兵人止リ到る出回兵ノ實効ヲ察ス難シトス故今
後増殖方案ニ關シテ其全キヲ得セシメント欲セハ
更ニ多額ノ出回兵ヲ増殖セカスヘカラス物ルニ従来ノ方
法ニ依ルニ終業ヲ要スルノ頗ル多額ナレハ容易ク
之ヲ実行スヘカラス者アリ因テ熟シテ昔用ヲ節
減シ兵員ヲ増殖シ得ヘキ方法ヲ考案スルニ因テ
使役シ兵員増殖ノ準備一切ノ事ヲ反
撥セシメ其但兵員増殖ノ準備ヲ

男スル中ハ自カウ勤役ニシテ成効アル者トス今其
才力ノ大要ヲテ、叙シテ指揮ヲ請フ

一囚徒ハ現ニ本道各監獄ニ在ル者ハ既ニ使役ノ方法
ヲ設ケ餘カキテ以テ各集治監ニ郵送テ前府縣ノ
監獄ニ假留スル者及ヒ各集治監迄到ル囚徒ヲ
道前ニ交附セウレシテ請ハントス其是又配
送時期ハ如クシ

囚徒貳千人

明治二十一年十月

日 千人

日 二十二年十月

日 千人

日 二十七年十月

一囚徒ニ関スル経費ハ府縣ノ監獄ニ假留スル者ヲ
總算シ四分トシ其費用ハ年規ノ如ク囚一百名毎
各集治監迄到ル囚徒ハ日ト六分トシ其費用ハ

各集治監経費一囚當リノ平均金額ヲ以テ道
廳ニ交付セウレ且囚徒押送費ハ本道舊集治監
ニ押送ノ例ニ拠リ別途支出ヲ請フレトス

一囚徒ニ関スル経費收支簿算ハ明治二十二年迄
日三十四年迄迄十四年間ニ於テ収入係計全
額而シテ四万六千三百九十九圓九拾四角八分ニテ支出
係計全額而シテ六万六千七百七十四圓四角四分
トス故ニ差引金七万九千四百三十七圓四角四分
ハ屆後ニ在リ一監獄四者ヲ新設スル等ノ費用
ニ充レトス

一囚徒使役上ノ便ヲ計リ屯田兵士安否等ヲ以テ
典獄看守押丁等並務セシメ得ル法令ノ發布
ヲ請ハントス其是再務中ノ俸給施設等當ホ

ハ然テ因徒費ヨリ支辨スヘシ但因徒千人對
 シ中田兵二小隊ヲ充テ之ヲ監督セシメ守
 押丁ヲ兼ヌル下士以テ之ヲ統ヲ推カヘ之ヲ
 護セシムル者トス

一 中田兵六因徒ノ為シタル准十傷五事一終ルニ
 隨ヒ移住セシムル者トシ其割合ハ明治二十二年
 三月 初月 二年 月 冬 年 以 三 年 月 四 年 月 各
 三 中 協 七 年 月 十 年 月 迄 各 中 隊 十 一 年 月
 十 二 年 月 各 之 中 協 三 十 四 年 月 迄 十 六
 隊ノ移住ヲ完了セシトス

一 此方法ヲ以テ中田兵十中隊ヲ移住スルニ要スル
 經費總額ト從來ノ方法ニ基キ積算スル
 經費ト比較對照スレハ其差九如シ

| 費目 | 本案ノ如クニ | 從來ノ方法ニ | 差額 |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 給與費 | 二六三、八九〇〇 | 四、一四七、一三〇 | 一、五〇八、二三〇 |
| 通上常費 | 二、九九九、九〇六 | 四、四六六、九四〇 | 一、四六七、〇三四 |
| 計 | 五、六三三、八〇六 | 八、六一四、〇七〇 | 二、九七九、二六四 |

一 中田兵給與費ハ新ニ公債ヲ募集シ以テ支辨シ
 国库ノ支出ヲ仰カス其公債金額ハ凡五百万圓
 トシ給與費ニ充ルノ殘餘ハ新起事ノ算中一時
 ニ多額ヲ要スルニ事ノ費用ニ充ントス其募集
 ノ割合ハ如シ

金百五拾万圓 明治二十一年度募集
 金貳百万圓 同二十五年一度募集
 金百五拾万圓 同三十年一度募集
 此募集八年五厘ノ利子ヲ附シ各五十年ニ據置

六ヶ年同ヨリ二十年間ニ償却スル者トシ其償
 還元資利子、證書、製紙、造幣、取扱銀行手數
 料等ハ、然テ道ニ應テ其定額内新起事業
 費中ヨリ支辨セリトス

一 屯田兵道ニ滞留員ハ、總テ別途支出ヲ請ハント
 ス其務員全額ナリ如シ

| | |
|-----------|---------|
| 全一〇万五〇〇〇圓 | 明治二十一年度 |
| 全一四万五〇〇〇圓 | 日二十二年度 |
| 全一四万九〇〇〇圓 | 日二十三年度 |
| 全一四万九〇〇〇圓 | 日二十四年度 |
| 全一四万九〇〇〇圓 | 日二十五年度 |
| 全一四万九〇〇〇圓 | 日二十六年度 |
| 全一四万九〇〇〇圓 | 日二十七年度 |

| | |
|-----------|--------|
| 全一〇万七千五百圓 | 日二十八年度 |
| 全一〇万七千五百圓 | 日二十九年度 |
| 全一〇万七千五百圓 | 日三十年度 |
| 全一〇万七千五百圓 | 日三十一年度 |
| 全一〇万七千五百圓 | 日三十二年度 |
| 全一〇万七千五百圓 | 日三十三年度 |
| 全一〇万七千五百圓 | 日三十四年度 |
| 全一〇万七千五百圓 | 日三十五年度 |
| 全一〇万七千五百圓 | 日三十六年度 |

此支出ヲ請フ所以北海國疆ノ警備ハ固ヨリ
 忽テ請ニ附スヘキカナル者ナレハ政府ニ於テモ必ス
 早晚鎮其臺ヲ設置セラルヘシ果シテ然ラハ其

創設費ニ多額ヲ要スルハ勿論通帯經費ノ如キ
モ亦更ニタカクササルヲ得ス若シ此方案ニ拠レハ
費用ヲ節減シ敬言備ノ実効ヲ奏スレ得ルヲ以
別途支出ヲ仰ク所以ナリ

以上列叙スル所ハ屯田兵増殖ニ係ル計画ノ大要
ナリ此方案ニシテ政府ノ允許ヲ得之ヲ実行セ
レメラルノ榮ヲ得ハ費ス所甚タ小ニシテ効ヲ成
ス尤モ大ナク信ス若シ夫レ其施設ノ順序
計等ノ詳細等ニ至テハ別ニ調査スル所アレハ
亦案採納ノ内定ヲ得ハ更ニ具申シテ裁可ヲ
請フヘシ

明治二十一年二月

移住兵員給与費白更定金額及事由ノ概要

一兵片及井戸新設費ノ算定ノ理由ハ右表附原書ニ詳シ

一招募者旅費之由度料ヲ取ルル改メ余ハ原書ノ通

十石以上以上 一人 全三四 他一人ハ二石以上

七石以上 以上 一人 全三四 他一人ハ二石以上

一舊果代ノ口古續ナルモノト認ムルモノ當場ニ設法

則ニ由リ改メタルモノ存ノ如シ余ハ原書ニ書割ヲ減セ

一平鉢 小平均 全三四 他二個分

一唐鉢 全 全三四 他三個分

一山口 全三四 他三個分

一鉢 全三四 他三個分

一鉢 全三四 他三個分

口米七升

但古りし

改米古石五斗二升七合

此代分五斗四升五合

但相傳、屬舊

三年同

(甲) 全

第三合

(乙) 全

不介合也

(丙) 全

第四合 但二合

(丁) 全

米吉合也

計米吉純一合

年計米吉四石三升七合

口米四升七合

但古りし

改米三石九斗七升七合

此代分五斗四升五合

但相傳、屬舊

合全石五斗三升七合

一握家料之數、後杖兩米、其下減少、丁起、如

神年同

(甲)

十五斗以上

廿一人

一日全米五斗

但三人

(乙)

十斗以上、十五斗以下

廿一人

一日全米三斗八合

但一人

(丙)

七斗以上、十斗以下

廿一人

一日全米七合

計全石五斗

年計全石八斗五升七合

口全米四斗七合

但相傳、屬舊

改全石八斗四升七合

二年同

(甲)

內訳前二日

全米五斗

但三人

(乙)

全

全米五斗

但三人

(丙) 全

全五石

計全四石

年計全松四石

口全松四石

他松四石

及全松四石

(甲) 全

全五石

(乙) 全

全五石

(丙) 全

全五石

計全五石

年計全松四石

口全九石

他松四石

及全松四石

全五石

一 惠者景ノ口自完積料一日口所積石を以て之を全

改ノ全ノ原書ノ通リ

一 揮葉料ハ市表附爲ニ述ルカ如シ

一 積物代ノ内九ノ三減リ以テ全ノ原書ノ通リ

一 麻代ハ全ノ通

一 古書ハ全ノ通

一 小書ハ全ノ通

ノ

一 檢査其ノ内培養桶 昔爲全書同云積石ニ以テ全ノ原書

三分ノ二ヲ減少セリ但家族ノ多少又ハ土地ニ依リ過不

アルモノト見テ料酌減少セシ所以ナリ

屯田兵募集年別表

| 計 | 甲三四 | 丙二四 | 乙二四 | 甲二四 | 丙一四 | 乙一四 | 甲一四 | 年別 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|
| 二中隊 | | | | | | | 二中隊 | 二十三年 初年 |
| 二中隊 | | | | | | | 二中隊 | 二十四年 二年目 |
| 三中隊 | | | | | | 一中隊 | 二中隊 | 二十五年 三年目 |
| 三中隊 | | | | | | 一中隊 | 二中隊 | 二十六年 四年目 |
| 四中隊 | | | | 二中隊 | 一中隊 | 一中隊 | | 二十七年 五年目 |
| 四中隊 | | | | 二中隊 | 一中隊 | 一中隊 | | 二十八年 六年目 |
| 四中隊 | | | 一中隊 | 二中隊 | 一中隊 | | | 二十九年 七年目 |
| 四中隊 | | | 一中隊 | 二中隊 | 一中隊 | | | 三十年 八年目 |
| 四中隊 | 二中隊 | 一中隊 | 一中隊 | | | | | 三十一年 九年目 |
| 四中隊 | 二中隊 | 一中隊 | 一中隊 | | | | | 三十二年 十年目 |
| 三中隊 | 二中隊 | 一中隊 | | | | | | 三十三年 十一年目 |
| 三中隊 | 二中隊 | 一中隊 | | | | | | 三十四年 十二年目 |
| 十大隊 | 二大隊 | 一大隊 | 一大隊 | 二大隊 | 一大隊 | 一大隊 | 二大隊 | 計 |

説明

本表甲乙丙ハ囚徒人負年別表ニ記載スル如ク囚徒ノ區別ヲ用ヒタルモノトス

甲ニ属スル毎年ニ中隊移殖スルモノハ二ヶ所ニ
 一中隊ツ、移殖スルモノトス
 一ヶ所三中队トナル年ヲ以テ大隊ヲ編制スルモノ
 トス

七田兵募集ニ付一中隊ニ要スル諸給與調

| 費目 | 前々年度 | 前年度 | 初年度 | 二年度 | 三年度 | 小計 |
|-------|--------|-----------|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| 兵屋新設費 | 三九二二〇〇 | 七、五九七、七〇〇 | | | | 一、一、五、四、八、二〇〇 |
| 召募旅費 | | | 一、一〇、七、四、八〇〇 | | | 一、一〇、七、四、八〇〇 |
| 農具代 | | | 一、一〇、九、六、八〇 | | | 一、一〇、九、六、八〇 |
| 家具代 | | | 四、六、五、二、一〇 | | | 四、六、五、二、一〇 |
| 夜具代 | | | 二、六、四、〇、〇〇 | | | 二、六、四、〇、〇〇 |
| 扶助米代 | | | 八、六、七、三、九、四〇 | 七、五、五、八、三、三〇 | 四、八、九、四、七、八〇 | 二、一、一、一、七、〇、四、〇 |
| 塩菜代 | | | 四、〇、五、二、六〇 | 三、一、八、一、二、〇〇 | 二、三、〇、七、二、四〇 | 九、五、四、三、六〇 |
| 患者費 | | | 九、六、〇、七、四〇 | 九、六、〇、七、四〇 | 九、六、〇、七、四〇 | 二、八、八、二、二、〇 |
| 埋葬費 | | | 一、一、六、八、二〇 | 一、一、六、八、二〇 | 一、一、六、八、二〇 | 三、五、〇、四、六〇 |
| 種物代 | | | 三、三、三、五、〇〇 | 四、四、〇、〇、〇〇 | | 七、七、三、五、〇〇 |

| 投産費 | 運送費 | 合計 |
|------|-------|-------|
| 〇 | 〇 | 一七九〇 |
| 〇 | 〇 | 二四三三 |
| 三二〇〇 | 七〇一 | 一四三九九 |
| 〇 | 六一三五 | 六一八四九 |
| 〇 | 三九七三 | 四二六〇七 |
| 三二〇〇 | 一七一四九 | 二九七八五 |

説明

一各年度ニ割合タルハ家屋建築着手ノ順序及諸給
 與ノ都合ヲ酌量シ以テ分別掲載セリ

一兵屋ハ屯田兵本部ノ製圖ニ基キ囚人ヲシテ經營
 セシムル計畫ヲ以テ擇戸監獄署ノ仕様積書ニ披
 リ之ヲ掲載セリ

一井戸ハ屯田兵本部ノ調ニハ掘抜トアルモ實際井
 井戸ニテ害ナキモノト認メ而シテ之ヲ掘鑿スルニ
 囚人ヲ使用スル了前ニ同シ

一召募旅費中支度料ニ若干ヲ減シ余ハ同部ノ調各
 ニ基キ掲載セリ

一農具代家具代及種物代ハ其内農場開設方法準則
 中ニ掲載シアル物品ノ如キハ該價格ニ引直シ余

ハ同本部調書ニ壹割ヲ減セリ
一夜具代ハ同本部調書ノ金額ニ二割ヲ減シ以テ掲
出セリ蓋シ高價ナレハナリ
一扶助米代ハ同本部調書ニヨレハ壯年者男女ヲ問
ハス一日玄米七合五夕老幼之ニ準シ五合若シク
ハ三合ヲ給シ而シテ此給米ノ内ヲ以テ若干ノ積
立ヲ為サレムルノ方法ナリト云凡該積立方タル施
行上宜ヲ得タルモノニ非サレハ將來之ヲ廢シ且
實際ヲ酌量シ初年度ニアリテハ壯年者男一人一
日玄米五合五夕女一人四合五夕老幼之ニ準シ
減少ヲ為シ尚二年度三年度ニ至リテハ漸次成墾
スルニ從ヒ多少ノ收穫アルヲ以テ順次遞減ヲ為
シ而シテ石代ハ前調書ニ基キ算出シ以テ掲出セリ

一塩菜代ハ前項ニ準シ初年度ニ若干ヲ減シ更ニ年
々遞減シ以テ掲出セリ
一患者費ハ入院料一人一日金貳拾五錢ハ全本部調
書ノ通り据置自宅療養料一日六錢八厘ノ内五厘
ヲ減シタリ
一埋葬費ハ全本部調書ニヨレハ壯年者金拾叁圓ニ
シテ幼年者中セ田五拾錢若シクハ三四貳拾五錢
ヲ給スルノ方法ナリト云凡陸軍給與規程ニヨレ
ハ一兵卒ノ埋葬料金拾四ナルヲ以テ壯年者ヲ此
額ニ改メ而シ順次半減シ以テ掲出セリ
一授産費ハ養蚕ニ係ルモノハ三分ノ二ヲ減シ培養
ハ農場準則ニ準シ改算セリ
一運送費ハ扶助米ノ高ニ應シ石金壹圓替ニ改算

説明

一本表ハ廿三年度ヨリ廿四年度ニ至ル十二年間年々工事ノ都合ニ依リ二
 中隊乃至四中隊ヲ移殖シ以テ十大隊ヲ得ルノ豫定ニシテ該兵負ニ要ス
 ル諸給與費ヲ示スモノナリ
 一兵負ノ移着スルハ全ク十二年間ニアリト虽此費用ヲ要スルハ本表ニ掲
 載スルカ如ク廿一年度ニ起リ廿六年度ニ終ル所以ハ仮令ハ兵屋建築ノ
 如キ移着ノ前一年半則チ前々年度ヨリ着手スルノ類又扶助米塩菜代等
 ノ如キハ移着ノ年ヨリ満三年ニ跨カルモノアルカ故ナリ
 一本表合計金額百六拾三万九千八百四拾壹圓六拾錢内訳ハ別表ナリ而シテ田
 兵本部ニ於テ調製シタル最近ノ豫算昏ニヨレハ一戸ノ給與額四百五拾
 圓ニシテ之ヲ八千八百倍即チ十大隊ノ兵負ニ乘スレハ三百九拾六万円
 トナル之ニ加フルニ扶助米運搬費拾八万七千三百三拾貳圓九拾六錢ヲ以
 テスレハ合計四百拾四万七千三百三拾貳圓九拾六錢ニシテ本表金額ト比
 較スレハ本表ノ減スルノ百五拾萬七千貳百九拾壹圓余ナリ
但本支運搬費ヲ加算スル理由ハ抑運搬費ト扶助米代トハ密接ノモノニシテ之ヲ區別スヘキモノニアラス然レニ同本部一戸別ノ豫
 算ニハ之ヲ係キタルヲ以テナリ

囚徒一千人ニ関スル監獄署費豫算表

| 費目 | 囚徒一千人ニ関スル監獄署費豫算表 | | | | | 計 |
|-----|------------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------|
| | 廿三年度 前々年 | 廿二年度 前々年 | 廿三年度 初年 | 廿四年度 二年目 | 廿五年度 三年目 | |
| 俸給 | 1,940,000 | 3,210,000 | 3,120,000 | 3,120,000 | 3,120,000 | 1,290,000 |
| 給與 | 1,210,000 | 3,260,000 | 3,290,000 | 3,260,000 | 3,260,000 | 1,290,000 |
| 廳費 | 1,520,000 | 1,150,000 | 1,150,000 | 1,150,000 | 1,150,000 | 1,000,000 |
| 旅費 | 6,620,000 | 11,000,000 | 5,330,000 | 11,000,000 | 11,000,000 | 1,000,000 |
| 臨時費 | 3,000,000 | 4,000,000 | 4,000,000 | 4,000,000 | 4,000,000 | 1,000,000 |
| 計 | 10,290,000 | 22,630,000 | 17,910,000 | 22,630,000 | 22,630,000 | 10,000,000 |

屯田兵本部

囚徒使役仕譯表

囚徒延人員

| | | | | | | |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|
| 種目 | 前々年 | 前年 | 初年 | 二年 | 三年 | 計 |
| 延人員 | 一三三、九五 | 二七一、九〇 | 二七一、九〇 | 二七一、九〇 | 二七一、九〇 | 一三三、六六五 |
| 夏秋間人員 | 四〇、七五 | 一七五、二〇 | 一七五、二〇 | 一七五、二〇 | 一七五、二〇 | 一、四一、二〇五 |
| 積雪間人員 | 八三、三〇 | 九六、八〇 | 九六、八〇 | 九六、八〇 | 九六、八〇 | 四七〇、四六〇 |

事業上使役ノ仕譯

| | | | | | | |
|------------|--------------|------|-------|-------|--------------|--------|
| 種目 | 前々年 | 前年 | 初年 | 二年 | 三年 | 計 |
| | 数量人員 | 数量人員 | 数量人員 | 数量人員 | 数量人員 | |
| 囚徒小屋外六ヶ所建築 | 七棟 三三、〇六 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 三三、〇六 |
| 全修繕 | 〇 | 五〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、一〇〇 | 一、四〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 全敷開墾 | 三万坪 三、一五〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 三万坪 三、一五〇 | 三、一五〇 |
| 計 | 三五、八六 | 五〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、一〇〇 | 一、五〇〇 | 三九、三六六 |

| 全物置 | 四等官舎 | 五等官舎 | 副官廐 | 浴室 | 井戸 | 外便所 | 修繕 | 計 | 通計 | 差引残録 |
|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|------|
| 十六 | 六 | 九 | | 四 | 六 | 四 | | | | |
| 三三七 | 三三六 | 一七九五 | | 八四 | 一〇八 | 二四 | | 四二七 | 三九八 | 七八一 |
| 十六 | 六 | 九 | | 一四 | 三六 | 二四 | | 一〇八 | 七三 | 八七 |
| 一三五 | 三三八 | 三三〇 | | 二二 | 三三 | 一八 | | 四二七 | 一五 | 二二 |
| 十六 | 五 | 五 | | 三 | 七 | 二 | | 一〇 | 六 | 二 |
| 五〇八 | 一三三 | 九九二 | | 四三 | 二二 | 二八 | | 九〇 | 一五 | 一五 |
| 十二 | 四 | 一四五 | | 一 | 一 | 三 | | 二 | 八 | 二 |
| 一〇六 | 三三三 | 一九八 | | 九 | 二九 | 一八 | | 一〇 | 一 | 一 |
| 十二 | 四 | 四 | | 二 | 四 | 三 | | 一 | 一 | 一 |
| 二〇一 | 二七九 | 一五八 | | 〇 | 八 | 四 | | 一 | 一 | 一 |
| 四六 | 十五 | 十八 | | 一 | 十 | 十 | | 〇 | 〇 | 〇 |
| 三八九 | 八一七 | 三二〇 | | 四 | 一 | 一 | | 三 | 三 | 三 |
| 五 | 五 | 五 | | 五 | 五 | 五 | | 五 | 五 | 五 |
| 三〇〇 | 三〇〇 | 三〇〇 | | 三〇〇 | 三〇〇 | 三〇〇 | | 三〇〇 | 三〇〇 | 三〇〇 |

屯田兵本部

説明

一本表ハ 囚徒千人ヲ使役シ屯田兵一大隊ヲ四ヶ年間ニ移殖スル土木營繕ノ事業ヲ為シタル仕訳ヲ掲ケケケルモノトス

一 囚徒ハ屯田兵移住ノ年ヨリ一ヶ年半前ヨリ使役ス故ニ初テ屯田兵移住ノ時ヲ以テ初年トナシ其以前ノ前年又ハ前々年ト持称ス

一 前々年ハ十月ヨリ翌年三月迄前年以後ハ四月ヨリ翌年三月迄トス

一 囚徒延人員ハ總員千人ノ内放免死亡等ニテ減少スル人員一ヶ年間平均五拾人病氣炊事等ノ為メ常役ニ服セサル人員平均七拾人合テ百貳拾人ヲ除去シ其残八百八十人ヲ基本トシ左ノ日數ヲ以テ算出ス

但放免元亡等ノ人負百人ニ及ツトキハ之ヲ神填ス
ルモノトシ又前々年ハ半々年ナルヲ以テ放免死亡
等ノ減負モ亦半教トシ即チ二十五人ヲ以テ算出セ
リ

一前々年ノ夏秋間ハ十月十六日ヨリ十二月五日迄日
教五十一日ノ内日曜祭祀日等六日ヲ除去シ残四十
五日トス

一全積雪間ハ十二月六日ヨリ翌年三月迄百十六日ノ
内日曜祭祀日等十六日越年ノ際八日合二十四日ヲ
除去シ残九十二日トス

一前年以後夏秋間ハ毎年四月廿一日ヨリ十二月五日
ニ至ル七ヶ月半此日教二百廿九日内日曜祭祀日等
三十日ヲ除去シ残百九十九日トス

一全積雪間ハ四月中二十日十二月六日ヨリ翌年三月
三十一日迄合テ四ヶ月半此日教百三十六日内日曜
祭祀日等十八日仍ホ越年ノ際八日合廿六日ヲ除去
シ残百十日トス

一積雪間ニ係ル人員ハ總テ朱字ヲ以テ記載セリ
一建築事業ハ積雪中ニ用材ヲ調ヘ翌年之ヲ建築スル
ヲ例トス故ニ数量ノ欄ニ朱字ニテ幾棟其次年黒字
ニテ幾棟ト記載スルハ元一工事ヲニケ年ニ分ケタ
ルモノトス

一毎年因徒使役残餘ノ人負積雪間ノ分ハ抹薪等ノ業
ニ其他ハ一般公益ノ事業ニ使用スルヲ得ハシト
虽此茲ニ之レヲ豫定セス右三年目残餘ノ人負ハ第
二次大隊移殖ノ為ノ前々年ノ如ク使用スルモノト

囚徒一十人ニ関スル監獄署費豫算表

| 費目 | 前二年度 | 前年度 | 初年度 | 二年度 | 三年度 | 計 |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 俸給 | 一七五,〇〇〇 | 三六八,〇〇〇 | 三六三,〇〇〇 | 三六八,〇〇〇 | 三三四,〇〇〇 | 一,六〇〇,〇〇〇 |
| 給與 | 一八三,〇〇〇 | 三六六,〇〇〇 | 三九九,〇〇〇 | 三六六,〇〇〇 | 三二九,〇〇〇 | 一,六〇〇,〇〇〇 |
| 廳費 | 一七四,〇〇〇 | 一七四,〇〇〇 | 一七四,〇〇〇 | 一七四,〇〇〇 | 一七四,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 旅費 | 六三,〇〇〇 | 一三三,〇〇〇 | 一三三,〇〇〇 | 一三三,〇〇〇 | 一三三,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 臨時費 | 三,〇〇〇 | 一,〇〇〇 | 一,〇〇〇 | 一,〇〇〇 | 一,〇〇〇 | 五,〇〇〇 |
| 計 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 五,〇〇〇,〇〇〇 |



上海道憲

| 首身出張 | 同月手當 | 押丁出張旅費 | 同月手當 | 雇員赴任旅費 | 右旅費計 | 臨時費 | 右臨時費計 | 合計 |
|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|
| 七六八〇 | 一九二〇〇 | 二八八〇〇 | 三九六〇〇 | 二二四〇 | 六六六〇〇 | 三〇〇〇〇 | 三〇〇〇〇 | 一〇六六〇〇 |
| 一四〇〇〇 | 二八四〇〇 | 二七六〇〇 | 七九六〇〇 | 〇 | 二〇三〇〇 | 六〇〇〇〇 | 六〇〇〇〇 | 一〇六六〇〇 |
| 五六〇〇 | 二六〇〇〇 | 二八八〇〇 | 三三〇〇〇 | 〇 | 五三三〇〇 | 六〇〇〇〇 | 六〇〇〇〇 | 一〇六六〇〇 |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 二四〇〇 | 六〇〇〇〇 | 六〇〇〇〇 | 一〇六六〇〇 |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 三三〇〇 | 三〇〇〇〇 | 三〇〇〇〇 | 一〇六六〇〇 |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 二四〇〇 | 二〇〇〇〇 | 二〇〇〇〇 | 一〇六六〇〇 |
| 二六八〇 | 三三六〇 | 四五二〇 | 五三〇〇 | 二二〇 | 三三三〇 | 二〇〇〇 | 二〇〇〇 | 一〇六六〇〇 |

一人里車馬賃夏秋九久春松野日當五
松野四人分ヲ算出方ハ洋ノ省守長ニ同トス
一人里車馬賃四日當五指點百十人分
算出方ハ省守ニ同シ
四里外ヨリ四人赴任ミルモノトシ其支給
額ハ省守ニ同シ
一月五拾圓ノ額ヲ以テ因越逃走其他豫
算外ノ費用ニ充ルモノトス

南田興本館

本表ハ第一回ノ費額ニシテ第二回目以下前々年ノ費用ハ左ノ如シ

| 俸給 | 諸給 | 廉費 | 雜費 | 臨時費 | 計 |
|---------|-----|-----------------------------|--------|-----|-----|
| 一九二四 | 一八三 | 八六三 | 六六八五 | 三〇〇 | 九九四 |
| 第一回ニ異ラス | 同断 | 番城器具費ハ第一回前年ノ額ニ拠リ他ハ皆第一回前年ニ全シ | 第一回ニ全シ | 全断 | |

右ノ外前年以下ハ第二回ト虽トモ第一回ノ費額ト同一ニ算當セリ

巨田兵太郎

囚徒人負年別表

| | 二十二年 | 二十三年 | 二十四年 | 二十五年 | 二十六年 | 二十七年 | 二十八年 | 二十九年 | 三十年 | 三十一年 | 三十二年 | 三十三年 | |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|
| 前々年 | 前々年 | 前年 | 初年 | 二年目 | 三年目 | 四年目 | 五年目 | 六年目 | 七年目 | 八年目 | 九年目 | 十年目 | 十一年目 |
| 甲一画 | 二千 | 二千 | 二千 | 二千 | 二千 | 二千 | 二千 | 二千 | 二千 | 二千 | 二千 | 二千 | 二千 |
| 乙一画 | | | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 | | | | | | | |
| 丙一画 | | | | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 | | | | | |
| 甲二画 | | | | 二千 | 二千 | 二千 | 二千 | 二千 | | | | | |
| 乙二画 | | | | | | 千人 | 千人 | 千人 | | | | | |
| 丙二画 | | | | | | 千人 | 千人 | 千人 | | | | | |
| 甲三画 | | | | | | | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 | 千人 |
| 計 | 二千 | 二千 | 三千 | 三千 | 四千 | 四千 | 四千 | 四千 | 四千 | 四千 | 四千 | 三千 | 三千 |

甲ハ最初ニ移ス囚徒乙ハ第二次丙ハ第三次ニ移ス
 囚徒ヲ云フ朱字ノ人負ハ大隊移殖ノ工事ヲ竣ヘ他

所ニ轉シテ前々年ノ場合ヲ為サシムル人負ナリト
ス

第二節

囚徒費國庫ヨリ受領スヘキ金高調書

前々年即チ明治廿一年度分

一金壹万三千。貳拾六圓

府縣預囚徒費ノ分

是ハ囚徒四百人内放免死亡ホノ人負十人ヲ除去シ

残三百九十人一囚一日金貳拾錢ツ、十月十六日ヨ

リ日數百六十七日分如斯

一金壹万七千七百六拾七圓八拾八錢七厘内地集治監囚徒費ノ分

是ハ囚徒六百人内同上ノ人負十五人ヲ除去シ残五

百八拾五人一囚一日金拾八錢七厘八七一日本數前同

斷ニテ如斯但一囚一日當ハ東京外三集治監平均一

囚當リ一ヶ年金六拾六圓三拾八錢三厘ヲ以テ算

出ス

合金三萬七百九拾三圓八拾八錢七厘

監獄署費總計年別表

| 囚人 移殖別 | 廿年度 | 廿一年度 | 廿二年度 | 廿三年度 | 廿四年度 | 廿五年度 | 廿六年度 | 廿七年度 | 廿八年度 | 廿九年度 | 卅年度 | 卅一年度 | 卅二年度 | 卅三年度 | 計 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 甲一 回 | 二二,三三〇 | 二六,六九〇 | 二九,三六六 | 三三,三八八 | 二二,六九四 | 一四,六九三 | 二二,三三六 | 二二,六九四 | 二二,三三六 | 二二,六九四 | 二二,三三六 | 二二,六九四 | 二二,三三六 | 二二,六九四 | 二二,三三六 |
| 乙一 回 | | | 一〇,六六五 | 一八,三四五 | 一四,六九三 | 一四,六九三 | 五,八四七 | | | | | | | | 六,一三四 |
| 丙一 回 | | | | | 一〇,七六五 | 一八,三四五 | | | | 九,八八八 | | | | | 六,一三四 |
| 甲二 回 | | | | | | 一九,八八八 | | | | | | | | | 二二,〇〇〇 |
| 乙二 回 | | | | | | | | 九,九四〇 | 一八,三四五 | 一四,六九三 | | | | | 六,〇五三 |
| 丙二 回 | | | | | | | | | | 九,九四〇 | | | | | 六,〇五三 |
| 甲一 回 | | | | | | | | | 一九,八八八 | 一八,三四五 | | | | | 二二,〇〇〇 |
| 計 | 二二,三三〇 | 二六,六九〇 | 四〇,〇三一 | 四七,七三三 | 五六,九四〇 | 六六,七三九 | 五九,八七〇 | 五,四二七 | 六二,〇六六 | 六六,七三九 | 四九,九六六 | 三六,八二二 | 一七,九四二 | 六八,一一四 | |

前年即明治廿二年度以後年々分

一金貳万七千七百四拾円

府縣預囚徒費ノ分

是ハ囚徒四百人内放免死亡等貳拾人ヲ除去シ残

三百八拾人一囚當金貳拾錢一ヶ年分如斯

一金參万七千八百三拾八円三拾壹錢 内地集治監囚徒費ノ分

是ハ囚徒六百人内同上ノ人負三十人ヲ除去シ残

五百七拾人一囚當リ一ヶ年金六十六円三十八錢三

厘ニテ如斯

合金六萬五千五百七拾八圓三拾壹錢

囚徒費總計表

| 移殖度敷 | 廿年度 | 廿一年度 | 廿二年度 | 廿三年度 | 廿四年度 | 廿五年度 | 廿六年度 | 廿七年度 | 廿八年度 | 廿九年度 | 三十年度 | 卅一年度 | 卅二年度 | 卅三年度 | 卅四年度 | 卅五年度 | 小計 |
|------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 甲一回 | 六五九八二 | 七五九九六 | 七五八八五 | 七五八八五 | 七五八八五 | 六六三三四三 | | | | | | | | | | | 五九八七〇 |
| 乙一回 | | | | 三〇五五五 | 三六三九九 | 三〇九四七 | 三六三九九 | 三〇九四七 | 三六三九九 | 三〇九四七 | | | | | | | 一六四九八 |
| 丙一回 | | | | | | 三〇五五五 | 三六三九九 | 三〇九四七 | 三六三九九 | 三〇九四七 | | | | | | | 一六四九八 |
| 甲二回 | | | | | | 二四三三〇 | 二八八八四 | 二五八四四 | 二八八八四 | 二四三三〇 | | | | | | | 一〇六〇五 |
| 乙二回 | | | | | | | 二七三六六 | 二七三六六 | 二七三六六 | 二七三六六 | | | | | | | 一〇六〇五 |
| 丙二回 | | | | | | | 二七三六六 | 二七三六六 | 二七三六六 | 二七三六六 | | | | | | | 一〇六〇五 |
| 甲三四 | | | | | | | 三三三三三 | 三三三三三 | 三三三三三 | 三三三三三 | | | | | | | 一〇六〇五 |
| 合計 | 六五九八二 | 七五九九六 | 七五八八五 | 一〇五五五 | 一三六三九九 | 一三〇九四七 | 一三六三九九 | 一三〇九四七 | 一三六三九九 | 一三〇九四七 | 一三六三九九 | 一三〇九四七 | 一三六三九九 | 一三〇九四七 | 一三六三九九 | 一三〇九四七 | 五九八七〇 |

説明

一囚徒人負年別表ニ學ケル所ノ人負ニ應レ食費其他囚徒ニ係ル一切ノ費用及其年割ヲ示スモノナリ 但内訳別表ニ詳カナリ

囚徒一千名ニ係ル諸費内譯表

| 費目 | 甲 | | | 乙 | | | 計 |
|--------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|---|
| | 前々年 | 前年 | 初年 | 二年 | 三年 | | |
| 米穀及雜穀代 | 九,五三五・二五 | 九,〇七〇・二五 | 九,〇七〇・二五 | 九,〇七〇・二五 | 九,五三五・二五 | 七六,二八一・二五 | |
| 菜代 | 二,〇八六・二〇 | 四,六一一・〇〇 | 四,六一一・〇〇 | 四,六一一・〇〇 | 二,〇八六・二〇 | 一六,六六五・四〇 | |
| 雜費 | 一,三九〇・八〇 | 二,九四一・〇〇 | 二,九四一・〇〇 | 二,九四一・〇〇 | 一,三九〇・八〇 | 一三,一〇三・〇〇 | |
| 通常被服一式 | 三,五九五・〇〇 | 三,三三三・五〇 | 三,三三三・五〇 | 三,三三三・五〇 | 三,三三三・五〇 | 一六,九三三・〇〇 | |
| 就役被服一式 | 二,八六〇・〇〇 | 二,九四一・〇〇 | 二,九四一・〇〇 | 二,九四一・〇〇 | 二,九四一・〇〇 | 一三,一五六・〇〇 | |
| 備品一切 | 三,二二〇・〇〇 | 一,〇四一・〇〇 | 二,〇一〇・〇〇 | 二,〇一〇・〇〇 | 二,〇一〇・〇〇 | 一〇,三九一・〇〇 | |
| 療養費 | 二,八五〇・〇〇 | 五七〇・〇〇 | 五七〇・〇〇 | 五七〇・〇〇 | 二,八五〇・〇〇 | 二,二八〇・〇〇 | |
| 押送費 | 二,五五三・三四 | 二,五六五・三三 | 二,五六五・三三 | 二,五六五・三三 | 二,五六五・三三 | 三,五九一・四六 | |
| 器具費 | 三,二六四・二六 | 三,二四二・九 | 六,三二一・八五七 | 六,三二一・八五七 | 六,三二一・八五七 | 五,二七九・二八六 | |
| 運搬費 | 一,五〇二・七〇 | 二,三〇八・四〇二 | 二,三〇八・四〇二 | 二,三〇八・四〇二 | 二,五二七・〇一 | 九,五八〇・六〇八 | |
| 合計 | 三〇,二五四・九四六 | 三六,三三九・九八九 | 三七,五九二・四一七 | 三七,五九二・四一七 | 三三,一九九・二二六 | 一六四,九三六・九八五 | |

| 費目 | 乙 | | 前年 | | 前年 | | 初年 | | 二年 | | 三年 | | 計 | |
|--------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-----------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-----------|-----------|-------------------|
| | 前々年 | 前年 | 前年 | 前年 | 初年 | 初年 | 二年 | 二年 | 三年 | 三年 | 三年 | | | |
| 米穀及雜穀代 | 九五五 | 六二五 | 一九〇 | 七〇 | 二二五 | 一九〇 | 七〇 | 二二五 | 一九〇 | 七〇 | 二二五 | 一九〇 | 七〇 | 七六、二八一 |
| 菜代 | 二〇八 | 二〇〇 | 四一六 | 一〇〇 | 一〇〇 | 四一六 | 一〇〇 | 一〇〇 | 四一六 | 一〇〇 | 一〇〇 | 四一六 | 一〇〇 | 一、六、一、五、五〇〇 |
| 雜費 | 二二九 | 八〇〇 | 二、七、七、〇 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 二、七、七、〇 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 二、七、七、〇 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 二、七、七、〇 | 〇〇〇 | 一、一、〇、一、三、〇〇〇 |
| 通常被服式 | 〇 | 〇 | 三、三、五、五 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 三、三、五、五 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 三、三、五、五 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 三、三、五、五 | 〇〇〇 | 一、一、〇、九、四、二、〇〇〇 |
| 就役被服式 | 〇 | 〇 | 二、五、七、四 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 二、五、七、四 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 二、五、七、四 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 二、五、七、四 | 〇〇〇 | 一、〇、二、九、六、〇〇〇 |
| 備品一切 | 〇 | 〇 | 二、〇、一、〇、〇 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 二、〇、一、〇、〇 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 二、〇、一、〇、〇 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 二、〇、一、〇、〇 | 〇〇〇 | 八、〇、四、〇、〇〇〇 |
| 療養費 | 二八五 | 〇〇〇 | 五七〇 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 五七〇 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 五七〇 | 〇〇〇 | 〇〇〇 | 五七〇 | 〇〇〇 | 二、二、八、〇、〇〇〇 |
| 押送費 | 二、五、五 | 三、三、四 | 二、五、六 | 五、三、三 | 二、五、六 | 五、三、三 | 二、五、六 | 五、三、三 | 二、五、六 | 五、三、三 | 二、五、六 | 五、三、三 | 二、五、六 | 三、五、九、二、四、六、六 |
| 器具費 | 〇 | 〇 | 六、三、二 | 八、五、七 | 六、三、二 | 八、五、七 | 六、三、二 | 八、五、七 | 六、三、二 | 八、五、七 | 六、三、二 | 八、五、七 | 六、三、二 | 二、五、三、二、四、二、八 |
| 運搬費 | 二、五、〇 | 二、七、〇 | 二、五、〇 | 二、七、〇 | 二、五、〇 | 二、七、〇 | 二、五、〇 | 二、七、〇 | 二、五、〇 | 二、七、〇 | 二、五、〇 | 二、七、〇 | 二、五、〇 | 九、五、八、〇、六〇八 |
| 合計 | 二、七、三、六、五 | 六、六、〇 | 三、七、五、九、二 | 四、二、七 | 三、七、五、九、二 | 四、二、七 | 三、七、五、九、二 | 四、二、七 | 三、七、五、九、二 | 四、二、七 | 三、七、五、九、二 | 四、二、七 | 三、七、五、九、二 | 一、五、三、三、〇、二、一、二、七 |

説明

一本表中甲之部ハ内地ヨリ新ニ移殖スル囚徒ニ係ル費用乙之部ハ既ニ移殖セシ囚徒ニシテ甲外役場ヨリ乙外役場ニ移轉スルモノニ係ル費用ナリ

一本表ハ千名ニ係ルモノナリト雖モ米穀及雜穀代菜代雜費療養費ノ如キハ現人負ニ由テ算セリ仮令ハ死亡又ハ放免等ニ依リ総人負ノ五分ヲ減スルモノト見做シ而シテ之ヲ補填スルニ年々下年々於テ百名ヲ以テスルノ豫定ニシテ差引平年ニアリテハ平均九百五拾人當初又ハ他方移轉ノ年ハ半ケ年間ニ属スルヲ以テ前年負ノ半額則チ四百七拾五人トナレリ

一被服ハ當初ニ於テハ千名ニ要スルモノ、費用金額ヲ以テ翌年度ハ前年ヨリ繰越ノ九百五拾名ト当

年移殖スル百名ノ内五拾名他ノ五十名ハ古衣ヲ使用セシムルモノト見做ス
ト合テ千名ニ係ルモノヲ要スト至前年ニ於テ調
製セシモノノ内補綴修理レ再ニ使用シ得ヘキモノ
アルヲ見込金額ニ對シ是割ヲ減少セリ

一 備品ハ當初ハ下半年間ニ係ルヲ以テ金額ノ内故帳
代金七百五拾円監獄署調ニ草額判明ナラカレテ以テ
見込額ニ係ルモノト見做ス釣五拾張モ張金拾五
圓ト前年ニ於テ購入セシモノハ修繕トシテ其十分
一金額ヲ合セテ揚ケタリ翌々年度以降ハ年々修理
トシテ金額ノ半数ヲ以テセリ

一 押送費ハ當初又ハ外役場移轉ノ年ハ千名其他ハ百
名ヲ凡ソ四十里間押送シ得ルノ金額ヲ以テセリ
但東京ヨリ北海道沿岸マテノ押送費ハ内務省ノ負

擔スルモノトシ之ヲ笑入セス

一 器具費ハ當初ハ金額ヲ以テシ翌年ハ修理費トシ
テ十分ノ一翌々年以降ハ五分一ノ金額ヲ揚ケ
タリ

一 運搬費ハ米穀ニ係ルモノハ其石数ニ應シ器具ニ係
ルモノハ前々年ニアリテハ三百五拾圓其外ハ七拾
五圓トハ合テ揚上セリ
但三年度ハ器具ニ係ルモノヲ除ク

仮監獄ニ係ル土木学繕費總計年別表

| 計 | 甲三回 | 丙二回 | 乙二回 | 甲二回 | 丙一回 | 乙一回 | 甲一回 | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 三三三三八 | | | | | | | 二二五八八 | 廿年度 |
| 一八四七二 | | | | | | | 一八四七二 | 廿一年度 |
| 三九六四八 | | | | | | 三六〇六四 | 三九六四八 | 廿二年度 |
| 三六九五四 | | | | | | 九三三八八 | 三六九五四 | 廿三年度 |
| 一八四七二 | | | | 二二五八八 | 三六〇六四 | 一八四七二 | 一八四七二 | 廿四年度 |
| 一八四七二 | | | | 一八四七二 | 九三三八八 | 一八四七二 | 一八四七二 | 廿五年度 |
| 九三三八八 | | | 五三三九九 | 三六九五四 | 一八四七二 | 九三三八八 | 九三三八八 | 廿六年度 |
| 一八四七二 | | | 九三三八八 | 三六九五四 | 一八四七二 | 一八四七二 | 一八四七二 | 廿七年度 |
| 一八四七二 | 二二五八八 | 三六〇六四 | 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | | | 廿八年度 |
| 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | 一八四七二 | | | | | 廿九年度 |
| 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | 九三三八八 | | | | | 卅年度 |
| 三三三三八 | 二二五八八 | 三六〇六四 | 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | | | 卅一年度 |
| 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | 九三三八八 | | | | | 卅二年度 |
| 三三三三八 | 二二五八八 | 三六〇六四 | 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | | | 卅三年度 |
| 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | 九三三八八 | | | | | 卅四年度 |
| 三三三三八 | 二二五八八 | 三六〇六四 | 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | | | 卅五年度 |
| 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | 九三三八八 | | | | | 卅六年度 |
| 三三三三八 | 二二五八八 | 三六〇六四 | 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | | | 卅七年度 |
| 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | 九三三八八 | | | | | 卅八年度 |
| 三三三三八 | 二二五八八 | 三六〇六四 | 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | | | 卅九年度 |
| 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | 九三三八八 | | | | | 卅年度 |
| 三三三三八 | 二二五八八 | 三六〇六四 | 一八四七二 | 一八四七二 | 九三三八八 | | | 計 |

Blank ledger page with vertical red lines for writing.

囚徒千人ニ對スル仮監獄署建築費調書

| 種目 | 數量 | 囚徒給与金 | 材料代金 | 費用計 | 事由 |
|--------|----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 囚徒居小屋 | 三棟 | 一、四四七、七〇〇 | 七、四四、五二〇 | 二、一九二、二二〇 | 建坪百八拾坪三棟 |
| 假事務所 | 志棟 | 六三、〇〇〇 | 九、〇〇〇 | 一、一三四、〇〇〇 | 建坪三拾坪 |
| 官吏宿泊所 | 二棟 | 三六、〇〇〇 | 一、三九五、〇〇〇 | 四、九九五、〇〇〇 | 六拾坪一棟三十坪一棟 |
| 炊所 | 二棟 | 一六、二〇〇 | 二、一四〇、〇〇 | 三、八四〇、〇〇 | 全上 |
| 作車小屋 | 拾二棟 | 四、九三二、〇〇 | 三、七二四、二二 | 八、六五六、二二 | 三十坪ツハ拾五坪是棟 |
| 器械及物置場 | 五棟 | 五、九七〇、〇〇 | 二、七六八、五二 | 八、七三八、五二 | 全貳百拾坪 |
| 浴湯場 | 二棟 | 一、〇八〇、〇〇 | 九、四八〇、〇〇 | 二、〇二八、〇〇 | 全三十坪 |
| 中間繩 | 二千八百五十七把 | 〇 | 一、四一四、二〇 | 一、四一四、二〇 | 建物修繕其他ニ使用 |
| 蓮 | 千七百拾四枚 | 〇 | 二、五八〇、〇〇 | 二、五八〇、〇〇 | 全上 |
| 計 | | 三、三三三、六〇〇 | 二、四一四、〇九〇 | 五、七四七、六九〇 | |

説明

本表ハ囚徒ヲシテ建築ノ事業ニ從ハシメテ專ラ費用ノ減少ヲ企圖スト虽凡中ニハ囚徒到着前常人ヲ使用セサルヲ得サルモノアリ其區分豫定シ難キニ依リ左ノ斟酌ヲ加ヘテ之ヲ算出セリ

一 囚徒給與錢ハ尋常一囚一日金ニ裁ツ、ナルモ之ヲ拾捌ツ、トス

一 材料代價モ囚徒ヲシテ伐木等悉皆從事セシムル費額ノ二倍トス

屯田兵十大隊從來ノ慣行ニ從ヒ積算シタル經費豫算表

| | 二十年度 | 二十一年度 | 二十二年度 | 二十三年度 | 二十四年度 | 二十五年 | 二十六年 | 二十七年 | 二十八年 | 二十九年 | 三十年度 | 三十一年度 | 三十二年 | 三十三年 | 三十四年 | 三十五年 | 計 | 三十九年度 |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|
| 甲一四 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 五九、三八二 | 二一八、六〇〇 |
| 乙一四 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 三二、五五〇 | 一、二八六、〇〇〇 |
| 丙一四 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六四、三〇〇 | 六、四三〇、〇〇〇 |
| 甲二四 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九六、四五〇 | 九、四八八、三八 |
| 乙二四 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一六、〇七五 | 一、二八六、〇〇〇 |
| 丙二四 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三三、一五〇 | 三、三三三、三三 |
| 甲三四 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二二、九、五九八 | 二、二八六、〇〇〇 |
| 計 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 九、九、三、八二 | 六、四三〇、〇〇〇 |

本表朱点ヲ附シタルモノハ移殖初年ノ經費ニシテ別表一大隊ニ係ル經費ヲ四分シ之平均一ヶ年分トス又朱点ナキモノハ移殖ノ二年目以後ノ經費ニシテ別表一大隊ノ經費九ヶ年平均シタル一ヶ年分ヲ四分シ之平均一中隊ノ經費トシテ積算シタルモノトス

屯田兵一大隊従来ノ慣行ニ從テ取調タル經費豫算表

| 科目 | 初年 | 二年目 | 三年目 | 四年目 | 五年目 | 六年目 | 七年目 | 八年目 | 九年目 | 十年目 | 二年目以下 九年目合計 | 右平均 十年分 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----------------|------------|
| 俸給及諸給 | 10100 | 10200 | 10300 | 10400 | 10500 | 10600 | 10700 | 10800 | 10900 | 11000 | 10500 | 10500 |
| 廳費 | 19100 | 18800 | 18500 | 18200 | 17900 | 17600 | 17300 | 17000 | 16700 | 16400 | 17500 | 17500 |
| 旅費 | 9500 | 9400 | 9300 | 9200 | 9100 | 9000 | 8900 | 8800 | 8700 | 8600 | 9100 | 9100 |
| 被服常費 | 33200 | 33000 | 32800 | 32600 | 32400 | 32200 | 32000 | 31800 | 31600 | 31400 | 32500 | 32500 |
| 囚徒費 | 2970 | 2950 | 2930 | 2910 | 2890 | 2870 | 2850 | 2830 | 2810 | 2790 | 2850 | 2850 |
| 米穀運搬 | 35000 | 34800 | 34600 | 34400 | 34200 | 34000 | 33800 | 33600 | 33400 | 33200 | 34200 | 34200 |
| 計 | 217600 | 216600 | 215600 | 214600 | 213600 | 212600 | 211600 | 210600 | 209600 | 208600 | 214600 | 214600 |

本表ハ屯田兵本部ニテ調ヘタル豫算ニ對シ俸給及諸給ノ内扶助
米塩料理并ノ二項廳費ノ内米穀運搬費入院費撞物給与費
ノ三項土木營繕費ノ内兵屋八百八十戸建築費ノ一項ハ屯田兵給与

下士官以上赴任旅費及囚徒ノ附属シ居ル年度(即チ甲一回ニ在テハ四年目迄其他皆比例シテ)ノ体給ハ囚徒ノ為メニ國庫ヨリ受領スル金員ヲ以テ支辨スルニ依リ本表中ニ加算セス
 従来製糸紡織製麻等工場ヲ設ケ器械器具備附シ兵員家族ヲレテ之ニ從事セシメクリシモ斯ル初業事項ハ敢テ該兵ニ必要ト云可カラサルニ依リ是等ノ費用ハ一切之ヲ削除シ其他ノ諸費モ夫々節減ヲ加ヘツリ
 經費細科目ノ如キハ別紙ニ詳ナリ

屯田兵一大隊ニ要スル經費豫算表

| 被服及帶具費 | 旅費 | | | 廳費 | | | 俸給及諸給 | | 初年 | 二年目 | 三年目 | 四年目 | 五年目 | 合計 |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|-------|---------|---------|-------|---------|
| | 乙 | 甲 | 計 | 乙 | 甲 | 計 | 乙 | 甲 | | | | | | |
| | 七、〇五九 | 一、〇六九 | 一、〇六九 | | | 三、三三五 | 一、〇九五 | 一、〇九五 | 一、〇九五 | 九六五 | 二、〇八六 | 九八六 | 〇 | 五、三三〇 |
| | 七、〇五九 | 二、〇九二 | 一、〇六九 | 一、〇六九 | 三、七九八 | 二、二九六 | 二、二九二 | 二、二九五 | 九六五 | 二、〇八六 | 二、五三二 | 四、三九六 | 六、一〇七 | 一、四、三六〇 |
| | 七、〇五九 | 二、〇九二 | 二、一三二 | 二、一三二 | 七、五九六 | 四、六五五 | 四、六一八 | 四、六一八 | 二、〇八六 | 二、〇八六 | 二、五三二 | 四、三九六 | 六、一〇七 | 一、四、三六〇 |
| | 七、〇五九 | 七、〇五九 | 二、一三二 | 二、一三二 | 二、三九四 | 二、二九八 | 六、三三二 | 六、三三二 | 九八六 | 九八六 | 二、五三二 | 四、三九六 | 六、一〇七 | 一、四、三六〇 |
| | 〇 | 七、〇五九 | 二、一三二 | 二、一三二 | 一、五九二 | 一、五九二 | 六、三三二 | 六、三三二 | 〇 | 〇 | 二、五三二 | 四、三九六 | 六、一〇七 | 一、四、三六〇 |
| | 二、八、三三六 | 一、〇、六六〇 | 一、〇、六六〇 | 一、〇、六六〇 | 三、七、九八〇 | 一、二、五八四 | 一、二、五八四 | 一、二、五八四 | 五、三三〇 | 五、三三〇 | 一、四、三六〇 | 一、四、三六〇 | 五、三三〇 | 二、八、三三六 |

| 合計 | 因徒費 | | 合計 | 合計 | |
|------------|----------|----------|-------|-------|----------|
| | 乙 | 甲 | | 乙 | 甲 |
| 計 | 乙 | 甲 | 計 | 乙 | 甲 |
| 一、二、六一三 | | 二、六、六一三 | 五五 | | 七、〇、九九 |
| 二、〇、六、六二 | 八、七、二七 | 二、四、四、五 | 一一二 | | 九、五、七〇 |
| 三、三、三、〇八 | 一、七、三、一六 | 一、五、九、九二 | 一、一、四 | 五五 | 一、二、〇、八一 |
| 三、八、〇、三九 | 二、六、五、七二 | 二、四、六、七 | 二、二、六 | 一、七、一 | 一、四、五、九二 |
| 三、五、六、七五 | 三、五、六、七五 | 〇 | 二、二、八 | 二、二、八 | 一、〇、〇、四 |
| 一、三、九、七、九七 | 八、八、二、八〇 | 五、五、一、七 | 七、九、〇 | 五、七、〇 | 五、三、三、六 |

甲、兵負移住ノ年度ニ係ル經費費ハ移住翌年已後ノ
 經費トス甲ノ細費目ハ別帳ニ詳ナリ乙ハ屯田兵本部
 ニテ調タル二年目ヨリ十年目ニ至ル九ヶ年間ノ費額
 平均算出シタルモノニテ其算出方等ハ別紙ニ詳ナ
 リ

| 土木營繕費 | 囚徒費 | 被服及帶具費 | 旅費 | 廳費 | 俸給及諸費 | 初年 | 二年目 | 三年目 | 四年目 | 五年目 | 六年目 | 七年目 | 八年目 | 九年目 | 十年目 | 合計 | 九年平均 |
|-------|-------|--------|-------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|
| 三五〇三 | 二、四、九 | 九、二、二 | 九、九、〇 | 七、七、〇 | 二、〇、三、八 | 三、一、二、八 | 三、一、二、八 | 三、一、二、八 | 三、一、二、八 | 三、一、二、八 | 三、一、二、八 | 三、一、二、八 | 三、一、二、八 | 三、一、二、八 | 三、一、二、八 | 六、三、二、五、四 | 九、五、平均 |
| | 二、四、九 | 九、二、二 | 九、九、〇 | 七、七、〇 | 二、〇、三、八 | | | | | | | | | | | | 一、五、一、九 |
| | 二、四、九 | 九、二、二 | 九、九、〇 | 七、七、〇 | 二、〇、三、八 | | | | | | | | | | | | 二、五、四 |
| | 二、四、九 | 九、二、二 | 九、九、〇 | 七、七、〇 | 二、〇、三、八 | | | | | | | | | | | | 二、一、〇、四 |
| | 二、四、九 | 九、二、二 | 九、九、〇 | 七、七、〇 | 二、〇、三、八 | | | | | | | | | | | | 二、二、九 |

初年廳費ノ率ヲ算出セシハ本文墨書金額ヨリ開墾費三千
 三百七拾五内ヲ除キタル高ニ對シ改正豫算ヲ比較計算ス
 二年目以降ノ旅費ニハ歸郷旅費ヲ加算スヘシ

以降合計平均セリ

| | | | | | | | |
|-------|-----|-------|-------|-------|-------|---------------------------------------|--------------|
| 會計等書記 | 一 | 九六三六〇 | 九六三六〇 | 九六三六〇 | 九六三六〇 | 一 | 一等月額八円〇三銭 |
| 一等看護長 | 一 | 九三三六〇 | 九三三六〇 | 九三三六〇 | 九三三六〇 | 三 | 三前 |
| 會計等書記 | 一 | 六六七九二 | 六六七九二 | 六六七九二 | 六六七九二 | 一 | 一等月額五円五拾六銭六厘 |
| 會計等書記 | 一 | 六六七九二 | 六六七九二 | 六六七九二 | 六六七九二 | 一 | 一等月額三円四拾三銭七厘 |
| 屬 | 二 | 四二二四 | 四二二四 | 四二二四 | 四二二四 | 初年二年共三前四名十五円一名三年四年八 同前二名ワレ且初年七月分トス | |
| 計 | 三三六 | 一〇〇〇 | 九九二 | 二八八 | 一四三 | | |

一本表ハ屯田兵一大隊ニ係ル大隊長以下役負ノ俸
給ヲ年別預算セシモノトス
一少佐ニ典獄ヲ大尉ニ副典獄ヲ中尉少尉ニ看守長
ヲ兼務セシムルモノトス然レモ元道廳一經濟
ニ屬スル官職ニ付別ニ増俸ヲ給セズ

屯田兵一大隊付官負赴任旅費豫算表

| 官名 | 初年 | 二年目 | 三年目 | 四年目 | 算出方法 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-----------------------------------|
| 大隊長 | 一七九〇〇 | 二二二〇〇 | 一七九〇〇 | 一七九〇〇 | 東京ヨリ札幌ヲ距千里外ニ赴任日教 トス |
| 中隊長 | 二〇二六〇 | 三三三八〇 | 二〇二六〇 | 三三三八〇 | 全前但二年目一名札幌ヨリ赴任日教四日 トス |
| 少尉 | 二〇二六〇 | 二〇二六〇 | 二〇二六〇 | 二〇二六〇 | 全前但初年三年内一名ワレ札幌ヨリ 赴任日教四日トス |
| 中尉 | 二〇二六〇 | 二〇二六〇 | 二〇二六〇 | 二〇二六〇 | 但各前日新且三年四年内一名ワレ 新任者トシテ旅費トス |
| 副官 | 九二〇〇 | 一七九〇〇 | 九二〇〇 | 九二〇〇 | 少佐ニ同シ |
| 曹長 | 九二〇〇 | 一七九〇〇 | 九二〇〇 | 九二〇〇 | 全前但初年三年一人ワレ札幌ヨリ赴任二 年一人新特命並旅費トス |
| 一等軍曹 | 三三三八〇 | 三三三八〇 | 三三三八〇 | 三三三八〇 | 全前但初年二年三人新特命並旅費トス 札幌ヨリ赴任トス |
| 二等軍曹 | 三三三八〇 | 三三三八〇 | 三三三八〇 | 三三三八〇 | 前項ニ同シ但三年目二人新特命並 札幌ヨリ赴任トス |
| 會計等軍吏 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 新特命トス |
| 會計等軍吏 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 札幌ヨリ赴任トス |
| 二等軍医 | 七九六〇 | 七九六〇 | 七九六〇 | 七九六〇 | 新任者トス |

囚徒費收支總計年別表

| 年度 | 收入 | 支出 |
|-------|-------|-------|
| 二十一年度 | 六千五百圓 | 三千三百圓 |
| 二十二年度 | 三千五百圓 | 三千四百圓 |
| 二十三年度 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |
| 二十四年度 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |
| 二十五年度 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |
| 二十六年度 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |
| 二十七年 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |
| 二十八年 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |
| 二十九年 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |
| 三十年度 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |
| 三十一年度 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |
| 三十二年度 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |
| 三十三年度 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |
| 三十四年度 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |
| 計 | 三千四百圓 | 三千四百圓 |

| 年度 | 監獄署費 | 囚徒費 | 未償費 | 計 | 田舎下土 上作給 | 計 | 計 | 合計 | 引残 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|
| 二十一年度 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 二十二年度 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 二十三年度 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 二十四年度 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 二十五年度 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 二十六年度 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 二十七年 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 二十八年 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 二十九年 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 三十年度 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 三十一年度 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 三十二年度 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 三十三年度 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 三十四年度 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |
| 計 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 〇 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 | 二千三百圓 |

國庫受領金ハ別紙一號表、入負ニ對シ二號調書、金負ヲ積算セシモノトス

監獄署費ハ別紙三號表囚徒費、四號表土木營繕費、五號表田舎下土以上條給、六號表全赴任旅費、七號表ヨリ積算セリ

屯田兵一大隊移殖ニ係ル土木營繕費豫算表

| 種目區別 | 前々年 | | 前年 | | 初年 | | 二年 | | 三年 | | 計 |
|--------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|
| | 原材代金 | 因徒工費 | 原材代金 | 因徒工費 | 原材代金 | 因徒工費 | 原材代金 | 因徒工費 | 原材代金 | 因徒工費 | |
| 道路開築 | 九一八〇〇 | 九一八〇〇 | 九一八〇〇 | 九一八〇〇 | 九一八〇〇 | 九一八〇〇 | 九一八〇〇 | 九一八〇〇 | 九一八〇〇 | 九一八〇〇 | 三六八〇〇 |
| 排水開築 | 〇 | 〇 | 五〇〇〇〇 | 五〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇 | 〇 | 〇 | 五〇〇〇〇 | 五〇〇〇〇 | 二〇〇〇〇〇 |
| 土橋架渡 | 七五〇〇〇 | 一五〇〇〇 | 七五〇〇〇 | 一五〇〇〇 | 七五〇〇〇 | 一五〇〇〇 | 七五〇〇〇 | 一五〇〇〇 | 七五〇〇〇 | 一五〇〇〇 | 三〇〇〇〇〇 |
| 中隊本部建築 | 一九八四〇 | 一九八四〇 | 一九八四〇 | 一九八四〇 | 一九八四〇 | 一九八四〇 | 一九八四〇 | 一九八四〇 | 一九八四〇 | 一九八四〇 | 一九八四〇 |
| 大隊本建築 | 〇 | 〇 | 八九二五〇 | 八九二五〇 | 八九二五〇 | 八九二五〇 | 八九二五〇 | 八九二五〇 | 八九二五〇 | 八九二五〇 | 三三六六〇 |
| 既建築 | 二八四〇〇 | 二八四〇〇 | 二八四〇〇 | 二八四〇〇 | 二八四〇〇 | 二八四〇〇 | 二八四〇〇 | 二八四〇〇 | 二八四〇〇 | 二八四〇〇 | 二八四〇〇 |
| 馬繋場 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 計 | 〇 | 〇 | 二〇〇〇〇 | 二〇〇〇〇 | 二〇〇〇〇 | 二〇〇〇〇 | 二〇〇〇〇 | 二〇〇〇〇 | 二〇〇〇〇 | 二〇〇〇〇 | 二〇〇〇〇 |

昔々より大々々々
本表ニ係ル費用並其計算等

| | | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 合計 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 甲三四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 乙三四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 丙三四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 甲二四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 乙二四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 丙二四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 甲一四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 乙一四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 丙一四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 甲一四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 乙一四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 丙一四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 計 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

| | | | | | | | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 會計簿記 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 全二等簿記 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 |
| 全三等簿記 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 計 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 | 九一〇 |

札帳ヨリ赴任トス

海軍兵隊

屯田兵三大隊徵募各三年間要之費額調

一金百四拾四萬四千六百四拾四圓

扶助期中三大隊三年間要之費額調

内訳

金百七萬九千九拾三圓

三大隊之戸敷六千六百四拾四

但し一戸三年間要之費額金三百圓於此九拾五錢也

金四拾三万三千六百九拾三圓

隊附官吏俸給諸給地諸費

一金五拾七万六千八百四拾四圓

扶助滿期三大隊三年間要之諸費

一金拾六万六千五百三拾六圓

扶助期七ヶ年目より三年間要之諸費

屯田兵本部

屯田兵三大隊徵募名三十七年間要之費額調

一金百四拾四萬四千六百四拾四圓

扶助期中三大隊三年間要之諸費

日訣

一金百七拾萬九千九拾三圓

三大隊戶數貳千二百四十九

此三戶三十七年間要之費額全三萬人存或同九千九拾三圓

一金四拾三萬三千六百五拾三圓

隊員官吏俸給諸費其他諸費

一金五拾七萬貳千貳百四拾四圓

扶助借期三三隊三年間要之諸費

一金拾六萬六千五百三拾六圓

扶助借期 三十七年三月三十七年間要之諸費

池田兵屯戸招募三ヶ年間に與諸費

一金六百拾壹圓七拾錢三厘

内

金貳百四拾三圓七拾八錢

兵屋及井戸共新設費

是、兵屋を棟新築費此金貳百拾三圓七拾八錢井戸八四戸一ヶ所ノ割此金三拾四圓合テ如此

金七拾四圓貳拾八錢五厘 招募旅費

是、兵屋平均一人内十五歳以上二人支度料一人金貳圓、此金四圓十五歳未満二人一人金壹圓、此金四圓七歳以上三人陸路旅費御里ヨリ移住地迄平均里程七十里此日數七日一人日当金三十三錢、此金六圓拾三錢七歳未満一人

全上日当金於六匁五厘此金壹口於五匁五厘全上
歟價一戶一日金壹口六於匁此金拾八口廿匁海路
乘船價平均一人金七口五於匁此金三於口各所帶
在日數十二日四人分此進人負四十八人旅蕪料一
日金壹於五匁此金於壹口合々如此

金七口於七錢六厘
是ハ平鉄壹挺此金壹口八十三匁唐鉄壹挺此金壹
口於七匁五厘荒鉄壹挺此金七匁八厘中鉄壹挺此
金九匁五厘山刀壹挺此金三於八匁五厘鉾壹挺此
金六匁八厘鑄壹挺此金八於壹匁五厘鑄壹挺此金
壹口五於五匁柴刈鑄壹挺此金三於壹匁五厘草刈
鑄壹挺此金七匁五厘筵十枚此金六十五匁合々
如此

金六口五拾貳錢六厘 農具修理

是ハ老戸分三ヶ年間農具修繕費
金五口九於八錢壹厘 家 具 代

是ハ大鍋壹枚此金六於三匁八厘中鍋壹枚此金四
十匁三厘小鍋壹枚此金七匁五厘三ッ挽三人
前此金五於五匁五厘手挿壹荷此金八十五匁擔桶
壹荷此金壹口八十七匁小桶壹組此金壹口三於八
匁合々如此

金拾七口八於貳錢貳厘 夜 具 代

是ハ十五歲以上三中一枚四中一枚ッ、七歲以上
十五歲未滿四中壹枚ッ、四中布圍三枚一枚金三
口八十九匁四厘此金拾壹口六十八匁五厘三布々
圍二枚一枚金三四七匁此金六口於四匁合々如此

金百五拾五圓五拾錢

扶 耶未代

是、市戸平均四人内十五歳以上二人一日一人米七合五夕、此延日数二千百五十日此米十六石四斗貳升五合七歳以上十五歳未満一日一人米五合、日数千九十五日此米五石四斗七升五合七歳未満一人一月米三合、日数全上此米三石二斗八升五合合米五石一斗八升五合一石 金六圓合々如此

金五拾八圓五拾錢

塩 菜 料

是、市戸平均四人内十五歳以上二人一人一月金五拾五、三十六ヶ月分此金三十六月七歳以上十五歳未満一人一ヶ月金三十七歳五歳以上、全上此金拾三圓五拾七文半滿一人一ヶ月金五拾

我、全上此金九圓合々如此

金八圓五拾九錢

患 者 費

是、人負百人、有患者二人五分、割一戸平均四人此患者人負一ト内十分ノ三此人負三重ハ入院日数千九十五日此延人負三十三人一日入院料金四十、此金十三圓世、十分ノ七此人負七重日数全上此延人負七十七人ハ自宅療養一日藥價金七、此金五圓三拾九、合々如此

金貳圓拾三錢三重

埋 葬 料

是、一戸平均四人ノ百分ノ三此人負一分二重ヲ死亡下看做、内十分ノ一此人負一重二毛ハ戸主埋葬料一人金十三圓、此金拾五、六重拾分ノ四此人負四重八毛ハ家族七歳以上一人金七圓五

於我、此金三於六步十分、五此人負六重八七
歲未滿一人金三四廿五步、此金十六步五重小
計金七於一重一重三々分合々如此

金於寺田七於我

苗木種物代

是八麻種五及步此石二斗五外一石金三十七口此
金加四廿五步大麥種三及步此石一斗五外一石金
五口此金七於五步十麥種三及步此石一斗五外一
石金五口此金八於二步土重大豆種二及步此石一
斗一石金五口土於我此金五十五步小豆種二及步
此石五外一石金六口五十五步此金三十二步土重合
々如此

金於田口於錢

投產費

是八蚕卵紙半枚一枚金三口此金寺田土於我蚕籠

廿五枚一枚金三於五步此金八口七十五步培養桶
一何此金三四八於五步合々如此

參考
毛)

也田兵志戶招募三年間始與諸費八訓書

但十七年歲丁丑三年交丁丑招募人分

北田兵吉戶招募之五年間給與諸費詔書

一金七十拾吉内七拾錢三厘

内

八金貳百四拾二内七拾八錢

兵屋及井戶新設費

其兵屋棟新築費此金貳百拾兩七拾八錢并戶四戶一戶町割

此金三拾兩八錢五分

八金七拾四内貳拾八錢五厘

招募旅費

是二戶人買二子内四人由十五歲以上二人及度科一人并全貳兩内
此金四兩十五歲未滿二人一人并全老内此金貳兩七歲以上二人
陸路旅費六兩里手移住地此二平約七十里此金數七兩一人并自當
八金三拾三錢五分此金六十兩九拾三錢七歲未滿一人全上自當八金
五兩此金六十兩五錢五分此金一兩一金貳兩六拾七錢七分此金

於向武指文海浩采船賃平因人全七四五版或此全三版四
於所帶五日每工百四人分延人宜四八人旅籠種言百全武版五文
此全拾貳四八分也如

全七四拾七錢五厘

農具代

是平鐵一板此全拾四八分三釐之唐鐵一板此全拾七五厘之唐鐵
一板此全七五厘中磁器此全九分五厘山口一板此全三十分八釐
五厘鉞一板此全八分八厘鑄一板此全九分五厘五厘鉞一板此全拾四
五厘五釐此全五厘一板此全三十分五厘單刀鑄一板此全拾五厘
五厘起十板此全拾五厘五釐五厘五釐也

全六四五拾貳錢五厘

農具修理

是平戶合三年同農具修理費

全五四九拾八錢五厘

衣具代

是火鍋一板此全八分三釐八厘中鍋一板此全四分五釐三厘中鍋

一板此全五厘五釐三厘三厘三人前此全五拾五釐五厘牛褲此全八厘
八拾五釐棉褲此全八厘拾七釐小褲此全拾七釐此全拾七釐此全拾七釐
八分也如

全拾七四八厘貳錢貳分

衣具代

是十五歲以上二十中一板中一板七歲以上十五歲未滿四中一板中
一板布團三板一板全拾四九分四釐此全拾七釐拾八釐或知也
一布布團二板一板全三十分七釐此全三十分四釐也如

全五十五拾壹錢拾五厘

技師米代

是二斤平桶中人四十五歲以上二人一斗米七分五厘此全二斤五厘
十兩此全拾六分四釐二升五合七歲以上十五歲未滿一斗八升五合四釐
十九升此全五石四斗七升五合七歲未滿一斗八升三合四釐日每
此全三石二斗八升五合全此全五石五斗八升五合一石五合四釐也
如

八金五拾八日五拾或

塩 菜 料

是八日午時申人內十五歲以上二人一人午八至五拾或門三十四日分
此金三拾八日七歲以上十五歲未滿一人一月金三拾七或五元全上此金
拾二日五拾或七歲未滿一人一月金三拾五或門全上此金九日全
是如也

八金貳月拾三或三斤

理 菜 料

是六日午時申人內各分之二人員一分二斤七斤者做し由十合一此
人員一石二斤八斤主理菜料一人金拾三門此金拾五或六即十合
四此人員四元之元家族七歲以上一人全七日五拾或門此金三拾或
十分五此人員六元七歲未滿一人全二日九或門此金拾九或
五即小計八金七拾或吉元二斤五分存于如也

八金拾八日五拾九或

忠 者 其 六

是人員四人自忠者二人分刻一戶中四人此忠者人員下内

十分之此人員三斤入院日數十九年吾此人員三十三人一日大改科
八金四拾或門此金拾八日或或八十分七此人員七元日數全上此人員
七十七人自忠燻炭一日菜價八金七或門此金五元二拾九或八分
是如也

八金拾七拾或

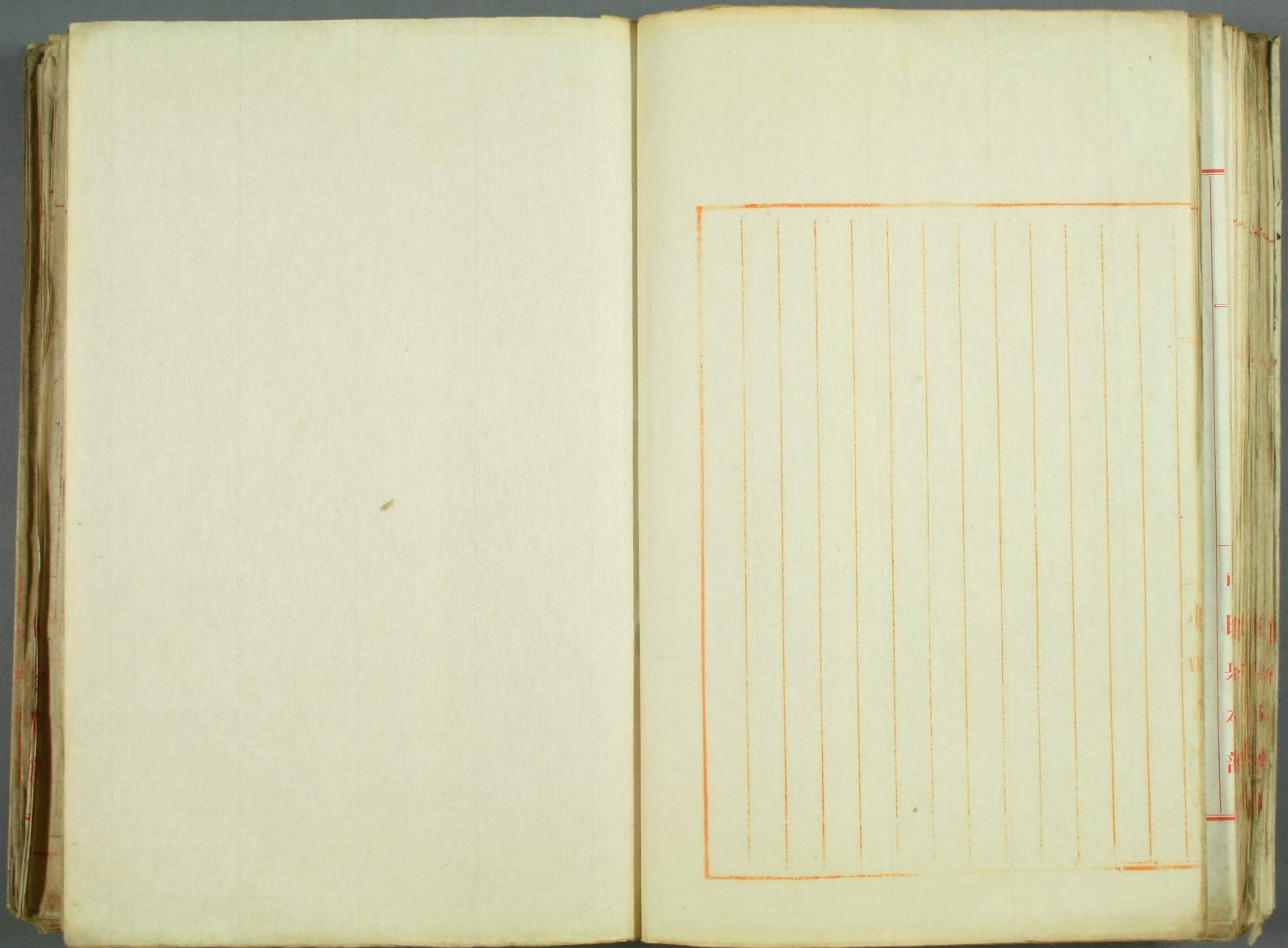
苗 木 種 柳 代

是二麻種五或步此石二斤五斤一石全三拾七門此金九日五或大或種
二或步此石吉步五斤一石全五元此全七拾五或門全種之五步此石
一石五斤一石全五元此全の或或五元大或種之五步此石五斤
一石全五元此全或或五元五拾或門全種之五步此石五斤一石全五元
五拾或此全三拾或或五元全存于如也

八金拾四拾或

授 産 其 其 八

是若卵找子故一或全三門此全吉日五或大或種力五或一或全
三拾或或此全八日五拾或或種養捕一個此全三門此全或或存于如也



比田兵二大隊
期扶助滿
后一々
年分經費豫算調書

比田兵本部

比田兵本部

此田兵一大隊扶助期滿一十年分經費豫算調書

一金貳萬三千八百貳拾七圓

俸給及諸給

内

金壹萬九拾貳圓

奏任俸給

金四千五百五拾六圓

判任俸給

金五千七百七拾七圓

卒俸給

金貳千七百六拾貳圓

諸手当

金千五百四拾圓

傭人料

金百圓

惠書

一金貳萬六千七百九拾七圓

廳費

内

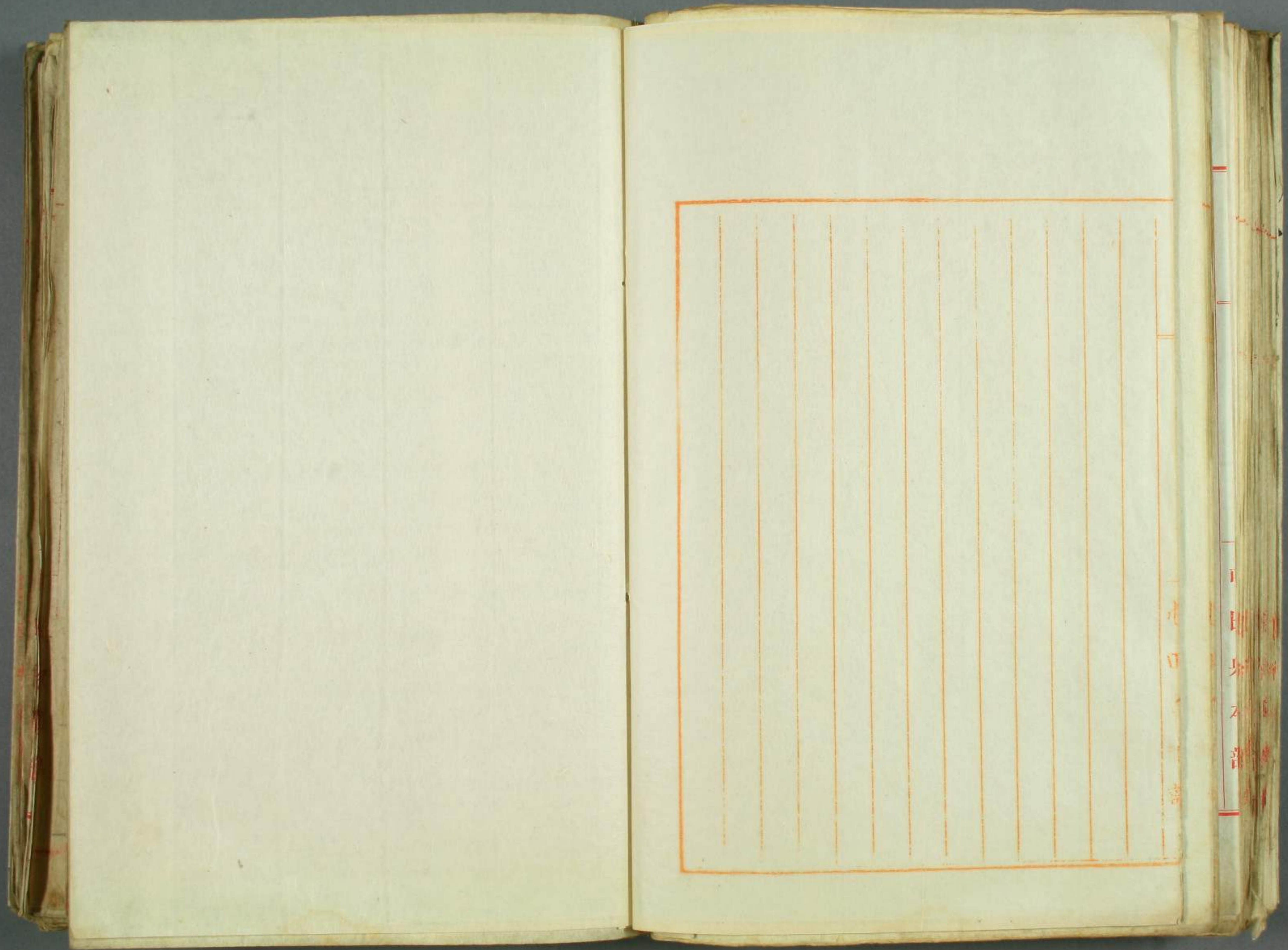
| | |
|------------|--------|
| 金百四拾九圓 | 諸君具費 |
| 金貳百拾四圓 | 諸君械費 |
| 金百七拾五圓 | 圖書及印刷費 |
| 金四百七拾三圓 | 筆紙墨文具 |
| 金五百六拾四圓 | 消耗品 |
| 金百三拾四圓 | 被服費 |
| 金千八百七拾四圓 | 通信運搬費 |
| 金四百六拾四圓 | 兵器彈藥費 |
| 金千拾七圓 | 入院費 |
| 金千三百貳拾七圓 | 開墾費 |
| 金貳百五拾四圓 | 刑事探偵費 |
| 金壹萬四千七百拾三圓 | 雜費 |
| 金四千五百貳拾貳圓 | 旅費 |

金貳百四拾九圓 囚徒費

一金壹萬四千貳百六拾九圓 被服費

一金三千百貳拾八圓 營繕土木費
是八諸建物修繕費

合金六萬八千貳拾七圓



也異大隊
期助一年分經費
隊算調書

也田兵本部

一
目
録
石
譜

當兵天隊期助一年分經費豫算調書

一 金貳萬千六百五拾七圓

俸給及諸給

內

金壹萬九拾貳圓

奏任俸給

是ハ 佐官 厨官 俸給

金四千五百五拾貳圓

判任俸給

是ハ 下士官及属官 俸給

金貳千七百七拾貳圓

二 半俸給

是ハ 上等兵 刺以卒 看護卒 俸給

金三千圓

諸手當

是ハ 元科 馬頭科 丹后下士官 中吉 海軍中吉 武裝中吉 十七

金千五百四拾圓

傭人料

是六小使 職工 定支 給印及 人吏俸支

人至百月

是六小使役人吏在係身支

惠 共

一金貳萬六千五百五拾三元

廳 費

人至千七百八拾八元

諸器具費

人至五百貳元

諸器械費

人至百七拾五元

圖書印刷費

人至四百九拾壹元

筆紙墨文具

人至五百六拾元

消 耗 品

人至百三拾四元

被 服 費

是六小使 祿 服

人至八千七百七拾四元

通信運搬費

是六小使和雇並其控脚運搬費

人至四拾貳元

馬匹賃上代

人至千百九拾五元

兵器庫葺費

人至貳千貳百五拾貳元

開 墾 費

人至貳百五拾元

刑事探偵費

人至四千五百四拾三元

雜 費

人至六千八百八拾貳元

旅 費

是六小使員指券官吏出張旅費

人至貳百六拾五元

囚 徒 費

一金志萬二千拾貳萬貳千

是下士年之止期結算ノ取服代

被服費

一金志萬二千七百八拾六圓

是兵屋自造ノ積累ノ水溝ノ天保ノ屋敷
ニ次年ヨリノ修繕費ニシテ全ノ千
之ヲ三分シ其一分ニテ如本支

修繕土木費

一金拾三萬貳千圓

是兵屋一戸取廢ニシテ年同ノ修費ノ積累ノ千三分シ其一分ニテ如本支
新金ノ年分ニテ如本支但此取明旧額ノ別依

合金貳拾萬七千七百八拾八圓

是六枚助期ノ千ニ年同ノ積費ヲ積累ノ千三分シ其一分ニテ如本支
是六枚助期ノ千ニ年同ノ積費ヲ積累ノ千三分シ其一分ニテ如本支
是六枚助期ノ千ニ年同ノ積費ヲ積累ノ千三分シ其一分ニテ如本支

此ニ年分

前計金六拾貳萬貳千八百五拾四圓

被服費

管絃土木費

天保三居元端座和齋宗端費合計三万五千七百五十九文
全二千四百九拾二圓二匁合全四万四千三百五拾八圓

移住費

瑞貴公嘉右五十四年此分十戸分金三十九石六斗四之七三三三
同調別紙詳す

八日

瑞貴之了三分し其一年之費又費六割又り以て次年三年分を

五拾四圓

一大阪三年間諸費比較

全三拾九万七千圓

是處同調別紙詳分三年間諸費

全五拾二万八千貳百九拾圓五匁

是處七年交り三年交止振舞分三年間諸費

是積全拾四万貳千貳百九拾八圓五匁

八石八十一斗一升平均
一戸分金四百五拾圓

八石八十一斗一升平均
一戸分金四百五拾圓

八石八十一斗一升平均
一戸分金四百五拾圓

屯田兵志戸招募二年間給與諸費調書

一人金四百五十拾円

内

金百拾円

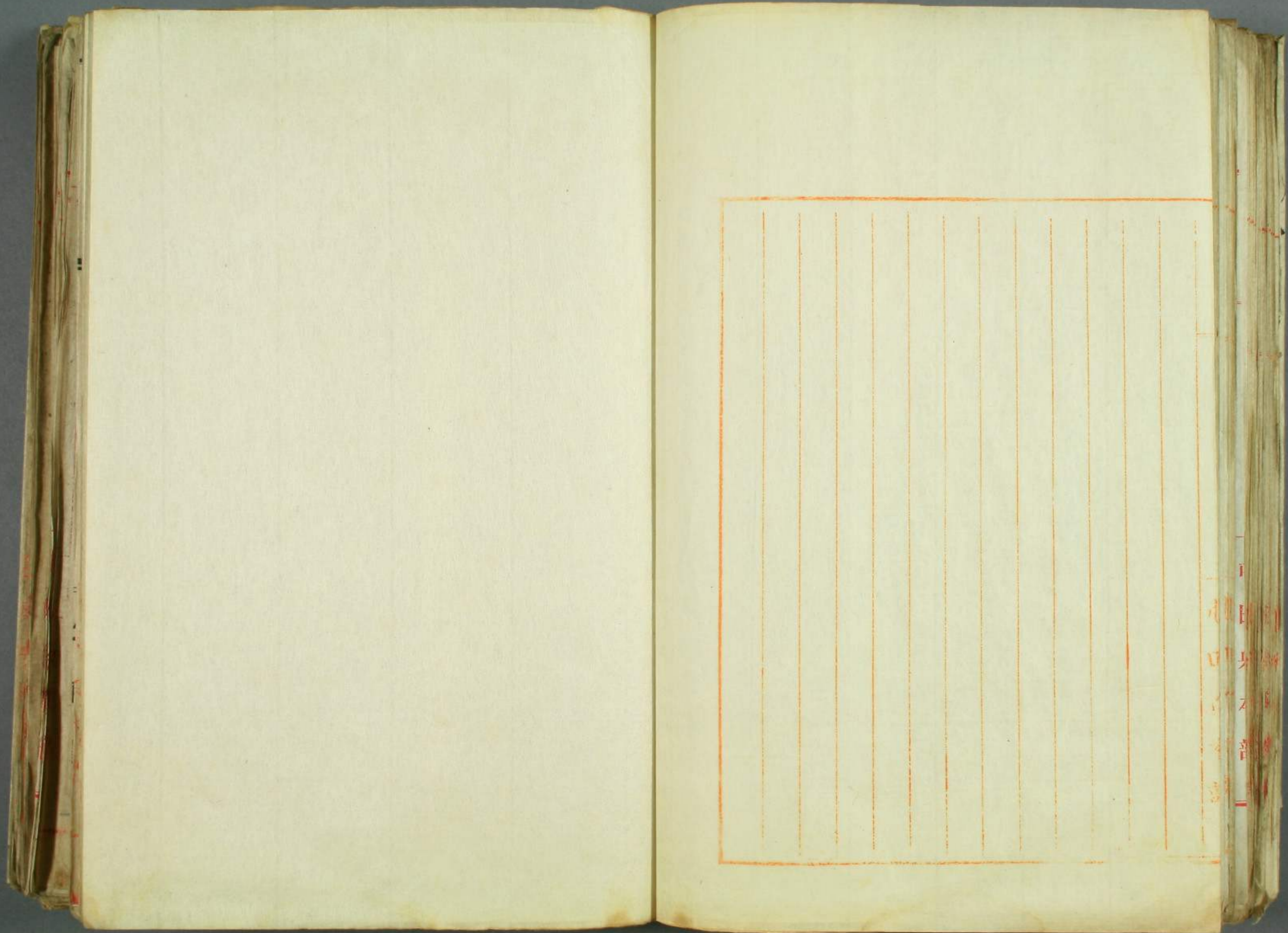
兵屋及井戸新設費

是兵屋棟新築費(此金百円并戸六尺志戸)到新設費其分一
此金拾円合七拾五

金五十拾貳円三拾四文

招募旅費

是二戸子内一人由十五歳以上二人又床料一人并金貳円七拾五文
十五歳未満一人一人自金志戸内此金三円七歳以上四人陸路旅費
舟里(舟程)他途(舟里)程四十里以口數四百一人(舟)日吉金三拾
二文(舟)此金五円九文七文未滿一人(舟)上日吉金拾五文五至(舟)金
三拾五文(舟)上駄賃一戸(舟)金貳円三拾五文(舟)此金拾四拾五



也田兵二大隊
期後備一年分
經費、豫算、調書

也田兵本部

也田兵本部

出田兵一大隊 投助構 一年分經費豫算調書

一 全貳萬二千八百貳拾七圓

俸給及諸給

四

八 全壹萬九拾貳圓

奏任俸給

八 全四千五百五拾六圓

判任俸給

八 全五千百七拾七圓

卒俸給

八 全貳千七百六拾貳圓

諸手當

八 全千五百四拾圓

偏人料

八 全百圓

惠共

一 全貳萬六千七百九拾七圓

廳

費

丙

八至八百四拾九日

諸器具費

八至其百拾日

諸器裁費

八至百七拾五日

圖書及印刷費

八至四百七拾三日

筆紙墨文具大

八至五百六拾日

備物

八至百三拾四日

被服費

八至千八百七拾日

通信運搬費

八至四百六拾日

兵器彈藥費

八至千拾九日

入院費

八至千三百貳拾九日

開墾費

八至貳百五拾日

刑事探偵費

八至貳萬四千七百拾三日

雜費

八至四千五百貳拾九日

旅費

八至貳百四拾九日

囚徒費

八至貳萬四千貳百六拾九日

被服費

八至三千百貳拾八日

汽鑪土木費

是諸處如修繕費

八至八千九百八拾九日

是諸處如修繕費

此田兵増殖豫定表

| 年 度 | 移任年月 | 戸 數 | 地 名 | 金 額 |
|-----|--------|-------|--------|---------------|
| 十七年 | 十八年五月 | 百九十三 | 江 別 | 九万七千六百八拾七圓七拾五 |
| 十八年 | 十九年五月 | 三百四十四 | 二百廿 根室 | 九万七千六百八拾七圓七拾五 |
| 十九年 | 二十年五月 | 二百四十六 | 百廿 根室 | 七万七千五百圓 |
| 二十年 | 二十一年五月 | 百四十七 | 百廿 根室 | 七万七千五百圓 |
| 廿一年 | 廿二年五月 | 百四十七 | 百廿 根室 | 七万七千五百圓 |
| 廿二年 | 廿二年五月 | 百四十七 | 百廿 根室 | 七万七千五百圓 |
| 合 計 | | 千四拾七 | | 八拾九万五千七百七拾五圓 |

備考十七年度以降廿二年度迄ニ付セラレタル士族授
 産金ハ八拾八万六千而廿四ニシテ之ニ存省ヨリ増テ操替
 受ケタル金貨返納ニ及ハサルモノ九千而百五拾圓ヲ加ヘ新舊
 増殖スルノ豫算トシ此田兵本部ノ経費ハ別ニ措置定額金
 了ルヲ以積算セリ廿二年度ニ記入セシ四万三千而七拾五圓五拾

我々年度改訂三月十八年度ヨリ三月分ヲ操下ケルモノナリ

比田兵増殖ノ為ニ奉族ノ義指金使用法案

比田兵増殖費ノ一部ニ充ツル(中)奉族ノ義指金ハ主トシテ兵員家族ノ扶助米、塩菜料、兵屋、諸器具、種物費、移住旅費并患者費等ニ充ツルモノニシテ其金額及内訳ハ別紙計算書甲表ノ如シ而シテ其他兵員家族ノ管理ニ屬スルモノニシテ比田兵本部ノ負擔スルモノニシテ即其金額及内訳ハ別紙乙表其ノ如シ

以上ノ扶助期限内、三年ニ就テ計算スルモノニシテ満期後即四年目ヨリノ管理費ハ勿論比田兵本部ノ支出ニ係ルモノニシテ其ノ年ノ費額ハ乙表其ノ如シ

今前ニ述ベタル如ク甲表ノ金額ハ奉族ノ義指ヨリ成リ乙表其ノ金額ハ比田兵本部ヨリ支出スルモノトセハ兵員二百三十名及其家族凡八百八十名(一戸平均兵員トモ五名ノ割)ヲ移

住就産せしむら得んモノニシテ其一チノ開拓地ハ一万坪(三町三反
步余)ニシテ合計二百三十万坪(七百三十三町步余)トナルハ是レ般
屯田兵ノ開拓所有地ニシテ今日藩主ヨリノ特別義捐ニ依テ
移住就産ノ道ヲ得ヘキモノハ其旧藩主ニ對シ恩義ノ感分ヲ
報スル者ノ毎戸年々期シ一万二千坪ヲ開拓シ其内二千坪
ヲ以テ旧藩主ノ所有地トシ別ニ定ムル方方法ニ基キ小作ヲ爲シ
相當ノ收益ヲ旧藩主ニ納ムル或ハ旧藩主ニ於テ他ノ小作人ノ蓋
キ之ヲ作ラシムルモノトセハ徑來ノ實際ニ依ル小作ノ爲メ得ル處ノ
純益ハ凡一反步ニ付一四ヲ得ヘク而シテ二百町十戸分ニシテ
四十万坪(千四百六十六反步余)ナルヲ以テ千四百六十六町余ヲ得
ヘキナリ即義捐金ニ對シ年々一分七厘余ノ得益タルヘク且
其地價ハ目下甚廉直ナルモ尚一反步五町斗ニシテ即チ
七千三百三十四余ノ價アルヘクシテ將來全道ノ人口漸ク

繁殖シ隆盛ノ時ニ達スレハ大ニ價值ヲ増スヘキナリ然レモ
一般屯田兵ハ草ニ給與地一万坪ヲ開クニ過キスト是レ旧藩
主ノ補助ニ依テ移住セルモノハ一万二千坪ヲ開カレハカラ
ルヲ以テ其開拓功ヲ褒セラルル報酬トシテ官ヨリ更ニ三
千坪ノ特別賞與地ヲ受クルトシテ得ヘク又服役年限
四十才迄ノ処五年ヲ短縮シ三十五年ニ至レハ子弟ヲシテ
相續セシムルトシテ得ルノ特權ヲ與フヘキナリ

中野部

乙表 其一

扶助期中 二年 必要ノ費用
也田兵本部ノ負擔ノ属スルモノ

| 科目 | 初年諸費 | 次年諸費 | 三年諸費 | 合計 |
|--------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 被服費 | 七七七九五五 | 一〇〇二〇五 | 一五八四七四 | 一〇三六六三 |
| 徵募官旅費 | 一〇一五四〇 | 〇 | 〇 | 一〇一五四〇 |
| 諸器具費 | 一三六五五六 | 〇 | 〇 | 一三六五五六 |
| 授産費 | 一六六八二六〇 | 〇 | 〇 | 一六六八二六〇 |
| 埋葬料 | 一六三〇二〇 | 〇 | 〇 | 一六三〇二〇 |
| 俸給及諸給 | 五二七九〇七六 | 五六〇二六九二 | 五六〇二六九二 | 一六四八四四〇 |
| 廳費 | 一、二、二、四、八、五、二 | 五、三、三、八、八、二 | 五、三、三、八、八、二 | 二、一、九、四、二、四、七 |
| 旅費 | 一、三、七、八、九、九、二 | 一、三、七、八、九、九、二 | 一、三、七、八、九、九、二 | 四、一、三、六、九、七、六 |
| 被服及器具費 | 一〇一、二、五、六 | 一〇四、九、五、九 | 一〇四、九、五、九 | 三〇一、一、七、一、四 |
| 因徒費 | 一、二、三、一、三、三 | 一〇、四、八、三、三 | 一〇、四、八、三、三 | 三三、二、七、九、九 |

備考

俸給及諸給以下五項ノ内大隊本部ノ管理費ノ四分一即ケ
一中隊ノ費用ニ属スルモノナ官有ス
兵器彈藥ノ費用ニ廳費ノ内ニ合有ス

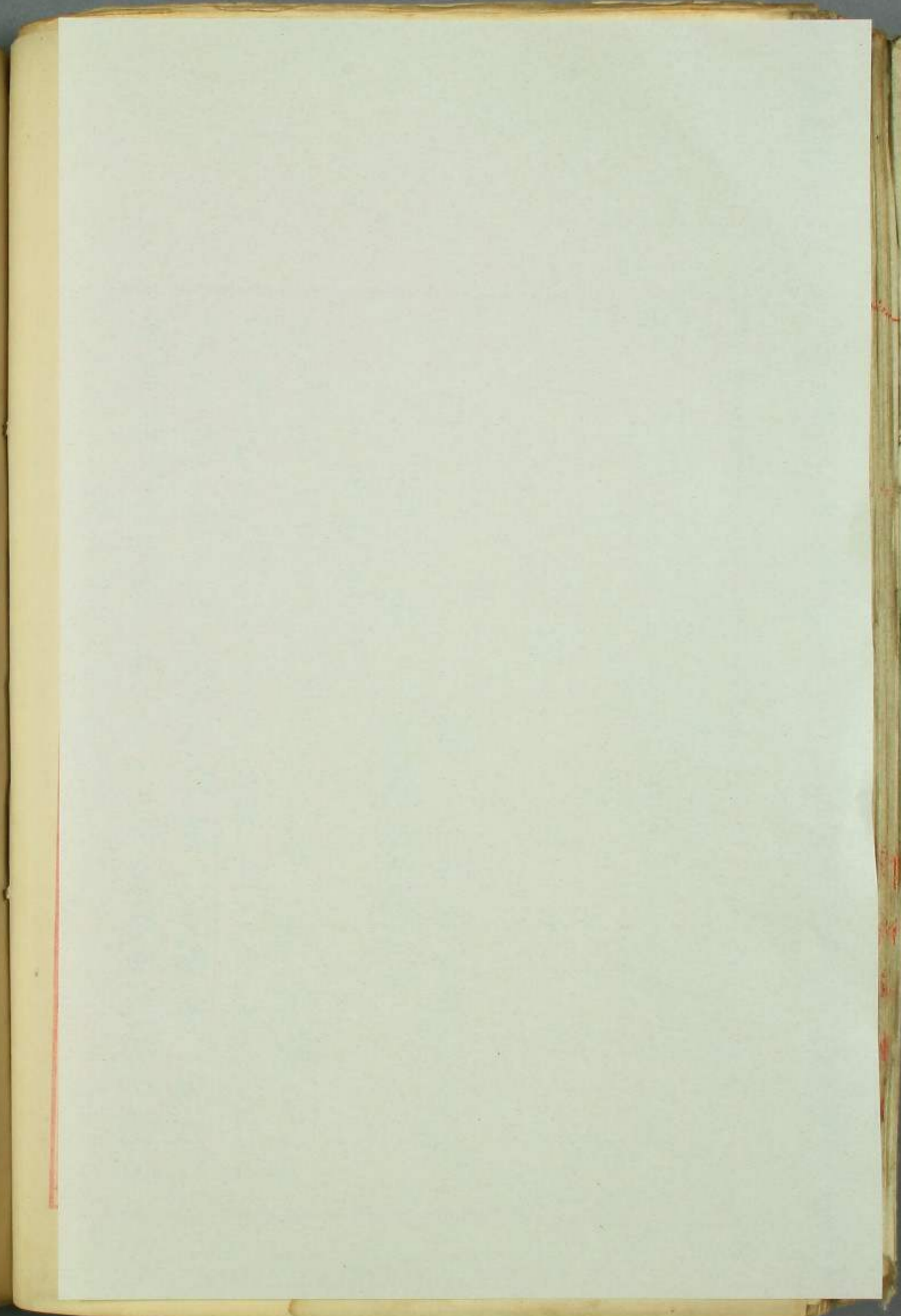
乙表 其二

也田兵一中隊扶助滿期後毎五年ニ要スル其額

| 科目 | 金額 | 種類 |
|-------|---------------|----|
| 俸給及諸給 | 六、三〇七、八六、七 | |
| 廳費 | 五、三三、八八、一 | |
| 旅費 | 一、三、七、八、九、九、二 | |
| 被服費 | 三、八、七、七、一、〇、八 | |
| 因徒費 | 一〇、四、八、三、三 | |
| 管轄土水費 | 三、八、一、一、二、五 | |

也田兵本部

| 職出科目 | 節見込高 | 世年度豫算高 | 世年度豫算可高 | 前年ニ對スル増 | 比較、差 | 事由 |
|---------|-----------|------------|------------|------------|------|-----------------------------|
| 上長官俸給 | | 九一三二,〇〇〇 | 七九八〇,〇〇〇 | 一一五二,〇〇〇 | | 前年比所増カセテ逐年豫算増ス、由ル 定員ニ依ル |
| 比田兵本部 | | | | | | |
| 比田兵中佐一名 | 一六四四,〇〇〇 | | | | | 定員ニ依ル |
| 參謀官少佐一名 | 一五二二,〇〇〇 | | | | | 同上 |
| 比田兵少佐五名 | 五,二二〇,〇〇〇 | | | | | 同上 |
| 二等軍医正一名 | 一,一六〇,〇〇〇 | | | | | 同上 |
| 上官俸給 | | 二五,二八〇,〇〇〇 | 二二,六一六,〇〇〇 | 一五,一一〇,〇〇〇 | | 前年度比所増カセテ逐年豫算増ス、由ル 定員ニ依ル |
| 參謀官少尉一名 | 六九六,〇〇〇 | | | | | 同上 |
| 砲兵少尉一名 | 六七二,〇〇〇 | | | | | 同上 |
| 比田兵少尉五名 | 六,五七六,〇〇〇 | | | | | 同上 |
| 軍医少尉一名 | 六七二,〇〇〇 | | | | | 同上 |
| 軍医少尉一名 | 六〇〇,〇〇〇 | | | | | 同上 |



| | | | | | | | |
|--------------|---------|-----------|--|--|--|--|-------|
| 參謀官尉一名 | 四〇八〇〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 留兵尉尉七名 | 八〇六四〇〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 但大隊副官三名職務増添 | | | | | | | |
| 二等軍医三十二名 | 七六八〇〇〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 二等藥劑官一名 | 四三三〇〇〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 二等軍火等一名 | 七二〇〇〇〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 留兵少尉十五名 | 三九六〇〇〇〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 二等軍医四名 | 一二四八〇〇〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 二等藥劑官一名 | 三一三〇〇〇〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 下士卒俸給 | | 一五三七二四八八 | | | | | |
| 純兵曹長十二名 | 一九七一一二 | 一三二四二六六六六 | | | | | |
| 留兵曹長一名 | 一四七〇五八五 | | | | | | |
| 但大隊下副官三名職務増添 | | | | | | | |
| 正員ニ依ル | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--------------------|---------|--|--|--|--|--|-------|
| 留兵曹長一名 | 四一五〇二〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 一等首級長一名 | 九六三六〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 留兵一等軍曹一名 | 二二九〇七四〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 但書翰抄一名 松典武七名 職務増添共 | | | | | | | |
| 留兵一等軍曹一名 | 七〇〇八〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 二等首級長一名 | 二五四〇四〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 留兵二等軍曹一名 | 一六六二九四〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 但書記一名 簿筆掛七名 職務増添共 | | | | | | | |
| 留兵三等軍曹一名 | 一三九〇六五 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 三等首級長一名 | 九四八九六 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 上等兵百十二名 | 三五五六五六〇 | | | | | | 正員ニ依ル |
| 但公務ニ服スル日教ヲ積算スル如本文 | | | | | | | |

上等兵俸俸額四百現人員九十九名其全二千八百七十九名五厘増減六百九十九名四厘五厘増減六百九十九名ノ増減也
 二等兵二等俸額三百九十名其全二千八百七十九名五厘増減六百九十九名四厘五厘増減六百九十九名ノ増減也
 七次増加ニハ扶助期兵ノ増加ニヨリ公務ニ服スル日教増スル也

六 五 三 二 一 平 九

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------|--------|--------|-------|--------|------------------|-----------|----------|-------|-----------|-------------|----------|
| 辰 費 | 馬匹買上代 | 飼養料 | 裝飾費 | 厩用雜具代 | 傭人被服費 | 被服及雜具費 四上平被服費 | 刑事推偵費 | 內國稅費 | 當其西徒費 | 埋葬費 | 移住者諸費 | 支度料 |
| | 二五,〇〇〇 | 八七,九二五 | 二五,二五〇 | 九四,七五 | | | | | | | | 二五,七五〇〇〇 |
| | | | | | 二五,九二五 | 一四,八七〇,三四三 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 三,八九,一六〇 | 四,九四〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 三,四〇,二四七,六〇 | 一四,七,六九〇 |

十 三 七 三 十

| | | | | | | | | | | | | |
|-------|-----|-------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|-----------|
| 兵器彈藥費 | 雜 費 | 通信運搬費 | 消耗品 | 諸快傳 | 筆墨印肉費 | 硯上道具費 | 薪炭油費 | 雜用品 | 卸便電信 | 貨物運搬費 | 賄 費 | 舟車馬雇費 |
| | | | | 一〇,〇〇〇 | 三〇,〇〇〇 | 三六,四三三 | 一九,三〇〇 | 三〇,〇〇〇 | 二四,〇〇〇 | 三八,六五〇 | 二〇,四四,二四 | 三三,〇九四 |
| | | | | | | | | | | | 二〇,七九,七五八 | 二五,〇〇,七三六 |

北 海 道 廳

北田兵治要領

一 明治七年安田定則時任島基大山重永山盛松栢田友
 郷永山武四郎連署ヲ以モ田兵治置、事ヲ用拓長官
 二 建議ス長官之ヲ政府ニ申請シテ裁可ヲ得陸軍省
 江原藩ニテ北田兵治則ヲ定メ編制給糧、制ヲ明
 ス

一 明治八年五月宮城青森河田三縣ノ士民數百四十
 二 徵募シテ石狩國札幌郡琴似村へ移住セシメ第一
 大隊ノ第一中隊トス此月北田兵治事務局ヲ札幌ニ置リ
 一 明治九年五月宮城青森河田道賜岩手秋田、六縣ヨ
 リ北田兵治二百四十戸ヲ徵募シテ全同郡山巢村ニ移住

北田兵治要領

セシメ茅ニ才隊トス

一明治十年田部ヲ改テリ出廷

一同年此田務備兵一大隊ヲ編制シ東京ニ於テ訓練シ
年ヲ待テ西京ノ役ニ送ハントス事ニテ解隊ス

一明治十年青森岩手兩縣ヨリ此田兵旅ハテ徵募シ江
別村ニ移住セシメ西洋形模造ノ家屋ヲ給シテ内裏ヲ

試シ又農事ノ要業ハ凡テ米國風ヲ用ヒテ其適宜ヲ
試ム

一明治十二年五月局長永山中佐茨城守尉渡辺由田兩
軍曹ヲ送テ露國至青森薩摩江出張

一明治十四年青森岩手山形三縣ヨリ此田兵二十名ヲ
徵募シ右將國藤津村ニ移住セシメ給與ノ家屋ハ露
國北部ノ制ニ依テ構造シ職工ハ露國人ヲ用ユ

右江別薩津ノ兵ヨリ此田兵第一大隊ノ附屬分隊ト稱
ス

一明治十五年二月廢伊道縣ニ付此田事務局ハ陸軍省
ノ管轄ト爲ル

一明治十七年三月農商務省所轄ノ士族授産金八十八
万餘円ヲ此田兵増殖費ニ充テテ六年間ニ下付セラ

ル五月福島山形秋田青森四縣ヨリ此田兵七十九名
ヲ徵募シテ江別村ニ移住セシメ今ヨリ給與ノ家屋

ハ五来ノ構造ニ復ス

一明治十八年五月此田兵條例ヲ定メラレ此田事務局
ヲ此田兵本部ト改稱シ永山中佐將ヲ此田兵本部長家村

中佐ヲ次長荒崎中佐ヲ第一隊長藤森中佐ヲ第二隊
長ニ補シ本田中佐ヲ第一大隊長ニ任ス九月職官定

長ニ補シ本田中佐ヲ第一大隊長ニ任ス九月職官定

中日兵言

員表一月ニ此田兵本部擬則ヲ定ム

一明治十八年七月石川島取能本鹿兒島四縣ヨリ此田兵二日十三にテ徵募セラフハ十三戸ヲ江別村ニ三十戸ヲ藤津村ニ授位セシム

一明治十九年二月北海道ノ三縣ヲ廢シ北海道廳ヲ被置此田兵本部ノ經費ハ凡テ該廳ノ支辨ニ屬ス

一明治十九年五月福岡佐賀長崎鹿兒島熊本宮崎岡山兵庫愛媛島根十縣ヨリ此田兵三百四十五戸ヲ徵募シ根室和村に貳百二十戸ヲ授セラフ第一大隊ノ幹部ヲ設ケ和村に伍ヲ以テ大隊長ニ任ス江別村に百十五戸條津村に十戸ヲ授位セシメ二個ノ中隊ニ編制ス

一明治二十年三月本部長永山少將亮城少佐初内大尉

小島屬ヲ送ヘ米國露國及清國江出張本年七月初テ各隊ニ檢閲ヲ施行ス

一丙年五月江別藤津ノ兩中隊四百四十五戸ヲ第一大隊ヨリ割テ第三大隊ヲ置キ野崎少佐ヲ以テ大隊長ニ任ス

一任ス五月兵庫岡山愛媛島根鹿兒島熊本佐賀福岡八縣ヨリ此田兵二百五十六戸ヲ徵募セラフ四十六戸ヲ新琴似に授シ第一大隊ノ第三中隊トシ百十六戸ヲ室蘭ニ授シ第五ノ中隊トス

一五年十二月和島軍医正醫官務課長ニ補ス

一明治二十一年二月永山少將歸朝北海道廳長官ヲ兼任ス

一五年五月徳島大分佐賀福岡愛媛島根岡山島根八縣ヨリ此田兵百九十四戸ヲ徵募セラフ新琴似に七十四

乙日兵部

仁ヲ授シテ隊ノ不足ヲ補充シ曰二十にテヲ振登ノ知
 田村ニ授シテ第一大隊ノ第二中隊トス
 一明治二年一月北海道廳事業費ヲ屯田兵増殖費
 ヲ増加シテ明治四年迄ニ貳十中隊ヲ徵募増殖
 スルコトヲ議定ス七月東京御所三重安知石川福井京
 都滋賀身取山江和歌山徳島佐賀熊本福岡ノ二府十
 三縣ヨリ屯田兵四百三十にテヲ徵募シテ二曰廿にテヲ
 薩路村ニ授シテ第一大隊ノ第四中隊トシ曰十にテヲ
 室蘭ニ授シテ第二中隊ノ不足ヲ補充シ曰十にテヲ振登
 ノ和田村ニ授シテ第二中隊ノ不足ヲ補充ス
 一五年七月廿九日屯田兵本部ヲ屯田兵司令部ト改稱
 部中ニ參謀副官法官會計課長之五部ヲ置
 リ

一五年九月十六日屯田兵増殖準備表被定向明治
 ロス年迄十大隊編制表之被定
 一五年十月十日屯田兵司令部職官定員表被定家村
 中佐ヲ屯田兵副司令官心得ニ貝玉中佐ヲ屯田兵參
 謀ニ荒谷中佐ヲ屯田兵副官ニ島理事ヲ屯田兵
 法官部理事ニ藤森中佐ヲ屯田兵會計部長ニ松
 島軍医正ヲ屯田兵軍医長ニ其他拓内岡高副
 之三大尉ヲ副官部副官ニ大島大尉ヲ會計部
 員ニ藤山副官富永軍医ヲ軍医部員ニ
 各補職セラレ
 一五年十月廿二日屯田兵第一大隊編制表被定本
 田中佐ヲ屯田兵第一大隊長ニ和田中佐ヲ屯田兵
 四大隊長ニ野崎中佐ヲ屯田兵第三大隊長ニ林

大尉ヲ忠田兵衛次郎隊分一隊長トシテ下名官
神職セラシム

未三果

北海道兵備沿革

八等属藤井次郎調

北海道兵備ノ了之ヲ今日ニ始ムト云ニアラ
ズ本島原ト蝦夷ト云ヒ千島ト云ヒ皆我版圖
ナリ故ニ歴朝心ヲ用ヒ経畧解懐以テ天祖ノ
遺意ヲ繼セラレタルナリ其外國ノ為ノ蠶食
侵掠セラハルハ元祿年中ニ始ル蓋シ上古ニ
遡テ之ヲ考ルニ景行天皇ノ朝ニ始メテ武内
宿禰ヲ遣テ蝦夷ヲ觀察セシメテ爾来歴朝心ヲ

隊

天益

第三大隊

眼
景
城
庫
送

大尉ヲ屯田兵第一隊長トシテ各官
神職セラシム

兵防ニ用フルモ時未ク周ケズ兵備モ亦能ク
 奉ラス降テ元禄元年水戸義公大艦ヲ作り大
 ニ蝦夷ニ心ヲ用フルモ偶々船壞レテ事遂ニ
 止ム後魯人來ツテ掠奪ニ加フル昇平日久シ
 ヲ上下寔安ヲ以テ防邊大計一切之ヲ寔テ周
 ハス遂ニ魯人ノ為ニ侵サレ日本北方ノ患此
 ニ始マル故ニ歴朝ノ夏実ヲ記シテ寛政以後
 ノ兵備沿革ヲカニ叙記ス

沿革

寛政十年二月幕府松平忠明ニ命ニシテ蝦夷地

警衛ノ夏ヲ掌ラシム 忠明ハ信濃守ト云
書院番頭役タリ

十一年秋八月松平忠明石川忠房 忠房ハ近羽太正義
將監

庄左衛門後安大河内政壽 善兵衛 三橋成方 藤右南

部 真品盛岡城主 津輕 羽州弘前城主 二藩ニ命

シテ兵各五百ヲ出シ蝦夷地ヲ防守セシメシム

ヲ請フ幕府之ヲ許ス ○十二月蝦夷地兵防本營

ヲ箱館ニ置キ分營ヲ根室國後擇捉ニ置ク ○是

月二藩ノ部署ヲ定メ兵ヲ出サシム南部ノ兵根

室國後擇捉ヲ守リ津輕ノ兵擇捉佐原ヲ守リ屯

田ヲ兼ヌ

隊
天益
第三大隊

根室
箱館
津輕
佐原

大尉ヲ屯田兵第一大隊分一隊隊長之下各官
 神職セラス

十二年八月王子千人頭原半左エ門部下ノ兵卒百
 人ヲ率テ蝦夷地ヲ開墾シ農兵ヲ以テ非常ニ備
 ヘント請フ幕府之ヲ許ス是ニ於テ半左エ門ハ
 白糠ニ至リ第新助ハ勇沸ニ至リ兵ヲ分テ屯田
 シ守戰ノ備ヲ為ス○是歲箱館、擇捉等ノ要地ニ
 銃器、弓矢諸兵器ヲ輸送ス○是ヨリ先寛政元年
 東西蝦夷海岸ニ烽火臺ヲ設ケ以テ警報ノ具ト
 ス箇処五十二

箇処

- ヒナカ奇 ○ホコシ ○大塚泰 ○セタナ ○モツ

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 夕奇 ○ハラウタ ○厚茶瀬 ○辨度奇 ○シリト | 奇 ○タンネシリ ○免奇 ○丸山奇 ○棄地奇 ○ | テシヨロ ○石狩 ○ウエンシリ ○ヲタルケ ○ | セガシ奇 ○鬼鹿 ○フレバツ ○天塩 ○ラネタ | フ ○サルバツ ○鹽苗 ○ハラケウシナイ ○サ | ワキ ○ユウバツ ○斜里 ○白比羅 ○シキウ ○ | マコマヘ ○フイマフ ○篠多惠 ○原別 ○シノ | ウ ○ミツナイ ○仁能越 ○ウラカハ ○ヒウト | ル ○円登茂知 ○コアカリイシ ○白糠 ○割路 | ○ヘツシヤフ ○シリハ奇 ○仙鶴趾 ○ヒハセ ○ |
|-------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|

隊
 天益
 第三大隊

屯田兵第一大隊
 隊長之下各官

大尉ヲ也田兵第一大隊分一隊隊長之下各官
 神職セシム

落石 ○ 納沙布 ○ シキモ ○ 西別

○ 文化三年九月魯艦一隻樺太ヲフイ泊ニ至
 リ上陸シテ土人ヲ捕、運上屋ヲ火ク

○ 四年四月魯人樺投ノ内浦ニ来リ取ス南部津
 輕兵ヲ増シ其他教藩應援シ要害ノ地ニ備フ

○ 南部増兵九百人

○ 津輕増兵六百九十二人

應援諸藩

○ 佐竹藩 羽前秋田城主 五百九十一人

○ 庄内藩 羽前庄内城主 三百十九人

四藩合兵三千〇二人

四藩部署分兵地

箱館 南部津輕ノ兵九百三十二人

佐原 南部兵三十三人

浦河 全兵百人

厚岸 全兵百三十人

根室 全兵百三十人

國後 全三百八十八人

松前 南部津輕酒井兵七百八十一人

江差 津輕

隊 第三大隊

松前津輕

大尉ヲ也田兵第ニ大隊分一隊長之ニ各官
神職セシム

村三郎

宗谷 全兵二百三十人

斜里 全兵百人

○五年夏四月仙台藩 奥羽仙台城主 松平政十代 會津藩 奥州會津

城主松平ニ命シテ蝦夷ノ要地ヲ守ラシム

○仙台藩兵千五百人

箱館、擇捉國後ヲ守ル

○會津藩兵五百人

宗谷、利尻、樺太、松前ヲ成ル

○是歲秋軍ヲ撤シテ帰ル

○十一年十一月外寇晏靜ナルヲ以テ南部津輕

二藩ニ命シテ東西蝦夷地ノ兵備ヲ撤セシム

○十二年兵備撤 撤ノ令出ルヤ南部ノ兵二百津輕

ノ兵一百ヲ箱館ニ置キ他ノ藩兵ハ各封内ニ在

テ緩急應援セシム

○文政四年幕府東顧ノ弛ハテ以テ蝦夷地ヲ松

前藩ニ還ス但シ兵備ハ旧ニ仍テ南部津輕ニ藩

之ヲナシ成テ松前函館ニ遣ルヲ領ヒス各封内

ノ海口ヲ守リ緩急ノ變ニ慮セシム

○天保十五年成テ蝦夷要害ノ地ニ置キ以テ外

寇ニ備ヘシム要地及兵器屯ノ如シ

隊
天益
第三大隊

松前藩
蝦夷地
要地

大尉ヲ也田兵第一大隊分一隊隊長之各官
 神職セリ

村宝 縣

| | | | | | | | | | |
|-----|-------|--------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|--------|
| ○箱館 | 大砲十二門 | 内百五十一門 | 百目十一門 | 小銃百八十七挺 | 内五十二挺 | 三十目五挺 | 十又十八挺 | 六又七十挺 | 四又二十五挺 |
|-----|-------|--------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|--------|

| | | | | | | | | | |
|--------|------|----------|-----|------|------|------|--------|-------|------|
| ○弁天島台場 | 大砲二門 | 三又五分五十二挺 | 全所兵 | 軍將一騎 | 軍監二騎 | 隊長十人 | 指規兵十三人 | 兵卒七十人 | 軍醫四名 |
|--------|------|----------|-----|------|------|------|--------|-------|------|

隊
 天益
 第三大隊

根室 塔麻 送

大尉ヲ也田兵第一大隊分一隊隊長之各官
 神職セリ

村宮 縣

| | | |
|---------|------|-------------|
| 山脊泊台場 | 大砲二門 | 三百目 |
| 押付台場 | 大砲二門 | 五百目 |
| 立待台場 | 大砲三門 | 三百目 二門 |
| 汐首寄台場 | 大砲三門 | 三百目 二門 |
| 遠見番所一 | | |
| 矢不來台場 | 大砲四門 | 一百目、五百目、三百目 |
| 福山陣屋東車台 | 大砲二門 | 五百目 |
| 全所兵員 | | |

| | |
|-------|----------|
| 砲兵長二騎 | |
| 砲手 二人 | |
| 兵卒 二人 | |
| 福山西台場 | 大砲二門 五百目 |
| 砲兵長二騎 | |
| 砲手 二人 | |
| 兵員 二人 | |
| 唐津内台場 | 大砲二門 五百目 |
| 砲兵長二騎 | |

隊
 天益
 第三大隊

...

大尉ヲ也田兵第之大隊分一隊長之之下各官
 神職セ二人

柳室縣

砲手二人

兵卒二人

馬形明神前台場

大砲二門
全全上上

砲兵長二騎

砲手二人

兵員二人

唐向上野町台場

大砲二門
五百目

砲兵長二騎

砲手二人

兵卒二人

白神岬台場

大砲二門
全全上上

砲兵長二騎

砲手二人

兵卒二人

吉岡村台場

大砲二門
全全上上

砲兵長一騎

隊
 天益
 第三大隊

...

大尉ヲ也田兵第一大隊分一隊隊長之下各官
 神職也云

棟室縣

| | |
|----------|-----|
| 砲手 | 二人 |
| 兵員 | 二人 |
| 弁候処 | 二 |
| ○非常豫備第一番 | |
| 隊長 | 一騎 |
| 軍監 | 一騎 |
| 騎士 | 七騎 |
| 兵士 | 十八人 |
| 軍醫 | 一人 |
| 兵卒 | 二十人 |

隊
 天益
 第三大隊

| | |
|----------|-----|
| ○非常豫備第二番 | |
| 隊長 | 一騎 |
| 軍監 | 一騎 |
| 砲手 | 二騎 |
| 上兵器 | |
| 大砲 | 七門 |
| 小銃 | 廿五挺 |
| 陣貝 | 一 |
| 軍鼓 | 一 |
| 鉦 | 一 |

此
 書
 業
 坊
 麻
 道

大尉ヲ由田兵第一隊長以下各官
 神職セラシ

柳室縣

| | |
|------|----------------|
| 騎士 | 七騎 |
| 兵士 | 十人 |
| 軍醫 | 一人 |
| 足輕 | 二十人 |
| 全上兵器 | |
| 大砲 | 七門 百 |
| 小銃 | 四十挺 六十挺 六十挺 廿挺 |
| 陣具 | 一 |
| 軍鼓 | 一 |
| 鉦 | 一 |

○非常豫備第三番

| | |
|------|------|
| 總轄 | 一騎 |
| 副總轄 | 一騎 |
| 軍監 | 一騎 |
| 砲兵長 | 二騎 |
| 兵士 | 十騎 |
| 兵卒 | 三十人 |
| 全上兵器 | |
| 大砲 | 七門 |
| 小銃 | 五十二挺 |

隊
 天益
 第三大隊

柳室縣

大尉ヲ也田兵第一大隊分一隊隊長之下各官
 神職セラシ

柳井縣

| | |
|--------|----|
| 陣貝 | 一 |
| 軍鼓 | 一 |
| 鉦 | 一 |
| 以上 | |
| ○國後島勤番 | |
| 隊長 | 一騎 |
| 軍監 | 二騎 |
| 小軍監 | 二人 |
| 兵士 | 三人 |

| | |
|------|------|
| 軍醫 | 一人 |
| 伍長 | 二人 |
| 兵卒 | 二十五人 |
| 在住兵 | 二十九人 |
| 全上兵器 | |
| 旗 | 二流 |
| 大砲 | 九門 |
| 小銃 | 四十三挺 |
| 長槍 | 十五筋 |
| 短槍 | 四十一筋 |

隊
 天益
 第三大隊

柳井縣

大尉ヲ也田兵第一大隊分一中隊長之下各官
 神職セシム

柳筆縣

| | |
|---------|-----|
| 兵卒具足 | 三十領 |
| 全笠 | 三十枚 |
| 幕 | 二十張 |
| 貝 | 一 |
| 鼓 | 一 |
| 鉦 | 一 |
| 烽火台 | |
| ○ 揮扱島勤番 | |
| 隊長 | 一騎 |

| | |
|------|------|
| 軍監 | 屯騎 |
| 小軍監 | 二人 |
| 兵士 | 五人 |
| 軍醫 | 一人 |
| 伍長 | 二人 |
| 大砲兵長 | 二騎 |
| 兵卒 | 二十五人 |
| 在任兵卒 | 五十人 |
| 全上兵器 | |
| 旗 | 二流 |

隊
 天益
 第三大隊

柳筆縣

大尉ヲ也田兵第之隊分一隊長之下各官
 神職也

柳室縣

| | |
|------|------|
| 大砲 | 七門 |
| 小銃 | 廿六挺 |
| 兵卒具足 | 三十領 |
| 全笠 | 三十枚 |
| 幕 | 三十四張 |
| 貝 | 一 |
| 鼓 | 一 |
| 鉦 | 一 |
| 砲台 | 三 |

○山内執勤番

| | |
|------|----|
| 隊長 | 一騎 |
| 兵士 | 一人 |
| 軍醫 | 一人 |
| 兵卒 | 二人 |
| 全上兵器 | |
| 旗 | 一流 |
| 大砲 | 一門 |
| 小銃 | 八挺 |

隊
 天益
 第三大隊

...

大尉ヲ也田兵第一大隊牙一隊長之下各官
 神職也云

柳葉縣

| | |
|-------|-----|
| 手槍 | 十筋 |
| 兵卒具足 | 三領 |
| 全笠 | 三枚 |
| 幕 | 三張 |
| ○繪鞆勤番 | |
| 隊長 | 一騎 |
| 軍監 | 一人 |
| 兵士 | 一人 |
| 兵卒 | 十人 |
| 在任兵卒 | 十五人 |

| | |
|------|-----|
| 全上兵器 | |
| 旗 | 一流 |
| 大砲 | 二門 |
| 小銃 | 十三挺 |
| 短槍 | 十五筋 |
| 兵卒具足 | 十領 |
| 全笠 | 十枚 |
| 幕 | 六張 |
| 砲台 | 一 |
| 烽火台 | 一 |

隊
 天益
 第三大隊

事業坊麻送

大尉ヲ也田兵第之大隊分一中隊長之下各官
 神職也

柳井縣

| | |
|-------|-----|
| 弁候処 | 一 |
| ○勇抄勤番 | |
| 隊長 | 一騎 |
| 兵士 | 一人 |
| 兵卒 | 四人 |
| 在任兵卒 | 廿五人 |
| 全上兵器 | |
| 旗 | 一流 |
| 大砲 | 三門 |
| 小銃 | 七挺 |

| | |
|-------|-----|
| 手槍 | 十五筋 |
| 兵卒具足 | 六領 |
| 全堂 | 六枚 |
| 幕 | 六張 |
| ○様似勤番 | |
| 隊長 | 一騎 |
| 兵士 | 一人 |
| 軍醫 | 一人 |
| 兵卒 | 五人 |
| 在任兵卒 | 廿五人 |

隊
 天益
 第三大隊

此は...

大尉ヲ也田兵第一大隊牙一隊隊長之各官
 神職ヤリ

柳室縣

| | |
|--------|-----|
| 全上兵器 | 一流 |
| 旗 | 一門 |
| 大砲 | 八挺 |
| 小銃 | 十五筋 |
| 短槍 | 五領 |
| 兵卒具足 | 五枚 |
| 全笠 | 八張 |
| 幕 | 一騎 |
| ○ 剗路勤番 | |
| 隊長 | |

| | |
|------|----|
| 大砲 | 二門 |
| 小銃 | 八挺 |
| 短槍 | 十筋 |
| 兵卒具足 | 五領 |
| 全笠 | 五枚 |
| 幕 | 五張 |
| 厚岸勤番 | |
| 隊長 | 一騎 |
| 小軍監 | 一人 |
| 兵士 | 二人 |

隊
 天益
 第三大隊

柳室縣

大尉ヲ也田兵弟二大隊牙一隊長之下各官
 神職セラハ

| | |
|----------------------|------|
| 軍醫 | 一人 |
| 伍長 | 一人 |
| 兵卒 | 五人 |
| 在任 <small>兵卒</small> | 四十五人 |
| 全上兵器 | |
| 旗 | 一沓 |
| 大砲 | 三门 |
| 小銃 | 十四挺 |
| 短槍 | 十五筋 |
| 兵卒具足 | 七頭 |

| | |
|------|-----|
| 全笠 | 七枚 |
| 幕 | 八張 |
| 根軍勤番 | |
| 隊長 | 一騎 |
| 軍監 | 一騎 |
| 小軍監 | 一人 |
| 兵士 | 三人 |
| 伍長 | 一人 |
| 兵卒 | 十人 |
| 在任兵卒 | 四十人 |

隊
 天蓋
 第三大隊

石名
 根軍
 普業坊
 麻屋

柳
 三
 集
 果

大尉ヲ屯田兵第一大隊分一中隊長之ニ各官
 神職セラシ

ヲ宗谷北蝦夷ニ置ク

○津輕藩所管

乙部ヨリ神威岬ニ至ル牙管ヲ千代台
 ニ建テ子管ヲ都壽ニ置ク

○南部藩所管

箱館ヨリ幌別ニ至ル牙管ヲ箱館ニ建
 テ子管ヲ有川村ニ置ク

○松前藩所管

箱館ヲ成リ管ヲ戸地切ニ建ツ

○五年砲台ヲ井天壽ニ置キ五稜郭ヲ亀田ニ兼

○明治二年八月函衛隊ヲ置ク

宇政年間幕府士移住者ト及ヒ他ニ募テ編
 制スルモノ之ヲ函館在住隊ト云ヒ明治元
 年士民ヲ募テ隊ヲ為ス之ヲ新兵隊ト云ヒ
 茲ニ至リ兩隊ヲ合シテ函衛隊ト稱シ開拓
 使ニ屬ス

○八年屯田兵ヲ置ク

石手ニ此地學校事業場麻之

隊

天益 第三大隊

大尉ヲ由田兵第一大隊分一隊隊長之小名官
神職セラ

場之如十八其成切期ヲ緩シ明二十三年八月限り
ニ落成セシメ前陳百拾戸外更ニ四拾戸ヲ該
署手限ヲ以テ建築スル丁ニ協議仕候尤右ハ
該署現を囚ヲ以テ目的ヲ立候儀ニ付今般
内地ヨリ収監可相成囚徒到着之上典
獄ニ於テ精々注意ヲ加ヘ前陳百拾戸外ト
雖氏可成囚徒ヲ使役シ費用ヲ節減スルノ
見込ニ有之候
一囚徒手限ニテ建設スル兵屋壹戸費用ハ金
七拾五圓三拾三錢五厘上旨署ニ小野理事官ヨリ



一條理事官ハ及電報候款ニ有之候處右ハ
假ニ省守長日當三拾五錢ヲ三拾錢トシ省守日
當貳拾五錢ヲ貳拾錢トスルノ計算ヨリ出候
ヲ以テ前陳之費額ト相成候得共今回調ハ
現行支給法ニ據リ取調候ヲ以テ壹戸當
リ金三圓五拾錢増加仕候儀ニ有之候
右之趣一應及上申置候也

明治三十三年二月八日

家村中佐

細川第三部長



隊
天益
第三大隊

大尉ヲ也田兵第ニ大隊分一隊長之ニ各官
神職セラシ

東京
永山長官殿

和宮縣

空知ハ増強ニ中隊内監獄手限リテ建築シ
得ベキハ百五拾戸ニシテ其費用一戸七拾八圓九拾
三匁五厘ナリ残リ貳百九拾戸ハ因徒常人ヲ食
井戸共ニ一戸百貳拾圓九拾錢三厘此上節減ノ見
込ナキ昔典獄ヨリ申出テタリ之ヲ平均スレバ一戸
百〇六圓五拾九匁六厘トナリ厚岸兵屋ハ一戸八拾五
圓八拾七匁貳厘ニテ成効ノ甚キ事細ハ郵便ニテ
上申スベシ

事

工
九
〇
三
リ

コ一アヨリ
一式ワハ
90セシ
五ケカヨ
〇ニシ
ココ4工ニ

隊
天益
第三大隊

明治 年電報送達紙

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事 | 記 | 技手 | 局 | 着 | 局 | 第 | 午 | 月 | 日 | 局 | |
| | | | 字 | 分 | 日 | | | | | | 局 |
| 輻 | | 延 | | 著 | | 三 | | 八 | | 八 | |
| エ | | イ | | リ | | 七 | | 二 | | ク | |
| フ | | ト | | ノ | | ハ | | ニ | | テ | |
| カ | | ト | | ゴ | | エ | | テ | | カ | |
| オ | | ヒ | | コ | | リ | | ソ | | ベ | |
| シ | | ニ | | ヒ | | ノ | | キ | | リ | |
| リ | | ト | | 九 | | 三 | | ヒ | | ハ | |
| コ | | ヲ | | 五 | | ヨ | | 一 | | テ | |
| コ | | ア | | コ | | リ | | 五 | | カ | |
| ハ | | ハ | | ハ | | ハ | | ハ | | ハ | |
| コ | | エ | | コ | | コ | | コ | | エ | |

輻 延 著

三 八 八

三 八 八

テ

イ
エ
カ
カ

東京
永山長官殿

大尉 田中 第一大隊 隊長 之下 各官
神職 せん



明治 年電報送達紙

隊
天益
第三大隊

電報送達紙

和宮 縣

大尉ヲ也田兵第ニ大隊分一隊長之ニ各官
神職セス

明 發 第 三 子 號
カマの丸 局

シロヤ
ウシヨウ

イ
エ
ウ
フ
エ

空知太兵屋一中隊半及本部倉庫官舎ノ
建築今ヨリ請員ニ掛ケ本年中落成トセバ
兵屋ノ棟百四十二回四十六錢一厘本部其外建
物ニ萬二千〇九十六回七十錢八厘并戸一個四
五回九十六錢ノ六十個二千七百五十七回六十錢
ニシテ總高七萬千八百六十六回四十三錢八厘ノ
概算ナリ道路橋梁ハ四人ニ付スル見込ニ付
算入セズ委細郵便

ノ二二〇九六五
一
二
三
四
五
六
七
八
九
〇

隊
天益 第三大隊

紙達送報電年二治明

隊
天益
第三大隊

| | | | | | | |
|---|---|----|-------------|-----------------------|-------------|------------------|
| 事 | 記 | 技手 | 局 | 着 | 局 | 發 |
| | | | 第 一 局 | 午 後 三 時 分 | 第 三 局 | 第 三 局 |
| | | 多 | 日 | 局 | 號 | 日 |
| | | | | 三 〇 三 | | カ ワ の 丸 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ノ | チ | = | バ | リ | リ | シ | ア | ー | ソ |
| ニ | ク | マ | ハ | シ | マ | ヤ | シ | ク | ラ |
| ニ | グ | シ | イ | キ | シ | グ | ウ | ク | ク |
| 〇 | ツ | レ | マ | ウ | シ | ク | ウ | ク | ク |
| 九 | ノ | ク | ク | ク | ク | ク | ク | ク | ク |
| 六 | ア | チ | ク | ニ | ク | ク | ク | ク | ク |
| 三 | カ | シ | ク | ク | ク | ク | ク | ク | ク |
| 二 | ク | ク | ク | ク | ク | ク | ク | ク | ク |
| 七 | ク | ク | ク | ク | ク | ク | ク | ク | ク |
| 〇 | ク | ク | ク | ク | ク | ク | ク | ク | ク |

大尉ヲ由田兵第ニ大隊分一隊長之ニ名官
神職セラシ

中日兵言集

大尉ヲ也田兵部大尉牙一隊長之ニ名官
神職セシム

屯田兵部大尉

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

接受
番号 第

魏
明治 年 月 日
明治 年 月 日
判決
日投濟

淨寫

校合

明治 年 月 日
受
出

長官
代理

第二部長

地理課長

[Red seal]

發送
番号

親展

歸
件

此田兵部大尉也田兵部大尉牙一隊長之ニ名官
着牙可少之隊長牙相處之謝呈之之

[Vertical handwritten text]

比

每

德

隊
天益
第三大隊

第二中隊
第二中隊

大尉ヲ由田兵部大尉分一中隊長之ニ各官
神職也云

付六目下五部委職御意云云也故予湯敷電
雇大銅諸信、二名高廳、採用敷役是迄
任五部之任、五部之任、有任、急、由、報、有
之、後、以、後、及、以、照、會、也
年月日
北海道廳長代理
北海道廳理事代理 基

比田兵部部長代理
陸軍中佐 坂本 義任 殿

接受
番号 第

號 明治廿一年 十月 廿四日 判決
明治 年 月 日 投濟

澤馬

校合

明治廿一年 十月 廿三日 出

属 加藤 重任

第二部長

農商課長

属 印 梅川

第三部長

地理課長

属 印 川中

西房理會官

工務課長

属 印 唐天 警司

長 印

送
番号

甲第百十號 銘件

比田兵部部長之職、本月廿四日付、以、予、部、長、之、道
經、相、成、以、處、亦、之、年、後、之、要、大、上、之、會、即、之、明、年、日、起

裁察部代

海 道 二 中 隊 二 中 隊

隊
天 益
第 三 天 隊

大尉ヲ也田兵部大尉才一隊長之ニ各官
神職セラハ

紫乃向一ノカニ也取ノ測法其高居居ノ建築其凡高
能ニ於テ真ニ下手修練固若存之就ハ凡ニ高ニ
ノ主務ヲ相定メ此田兵部吏員ノ立居ノ上者
手相成可然哉同部ノ高居相定此後相成之

一土地探定ニ係ル事 屯田兵本部

屯田兵部ニ係ル事 屯田兵本部
屯田兵部ニ係ル事 屯田兵本部
屯田兵部ニ係ル事 屯田兵本部

一土地測定ニ係ル事 第二部地理課

地種ノ測法ニ係ル事 第二部地理課
地種ノ測法ニ係ル事 第二部地理課

道路開闢及排水ニ係ル事

一道路開闢及排水ニ係ル事 第二部土木課

一兵舎修繕ノ建設ニ係ル事

一兵舎修繕ノ建設ニ係ル事 第二部土木課

一給与ニ係ル事 屯田兵本部

一農業獎勵ノ関スル事 第二部農畜課
例ハ蚕絲業ヲ教授シ製絲教師ヲ以テ其他
農業ヲ奨励スル者

隊
天益
第三大隊

七
第二中隊
第二中隊

大尉ヲ屯田兵第一大隊第一中隊長之ニ各官
神職セラシ

屯田兵部

屯田兵部

屯田兵部、五照會也

廿二年夜ヨリ屯田兵増殖之ニ、迎給之案、し明年
ヨリ起業スルキカハ地取、其後兵隊ノ建築ヲ備
馳ニ任テ有之トテ身付様由國君ニ趣テ業在云
ヨリ豫メ分給ノ旨ヲ以テ方所任テ、亦屯田兵配
置ノ要スル場所及地味ヲ善悪為ハ是部ニ任テ
所獲地相成地積ヲ測リ土地ヲ過出ニ兵隊所居
、建設道路排水ノ工業為ハ是部員トシ、上
海陸ニ任テ着手可致又農具種子物其他等見、
給与ハ是部ニ任テ、海陸相成地積致シ、各社

竣工ニ及ハ照會也

廿二年十月

長田代理

屯田兵部部長代理宛

隊

天益

第三大隊

長田代理

屯

海

第六中隊

二精

二中隊

一德

大尉ヲ也田兵第一大隊分一隊隊長之小名官
神職セリ

言事畢

井 道 廟

明治三年後より六年後迄は毎年四中隊之
屯田兵増殖致しては第五支隊之兵夫之海備
可致名以通稱之其致義分收明正二年之
於予ハ隊路江別雨坂、一中隊之ヲ移し五年
間ニ一中隊増殖之暇所ハ別表ハ六年後生
繰返リ通シ配兵夜以四隊路江別、分ハ因
往後後ニ第五支隊之付隊是ニ越過セカハ様部
在リ兵隊建集方可配致ハ正三年後ニ移リし
工事先々明年ヨリ起業ハ一才分ハ他隊測定

二 陸 田 旅 旅

隊

天 益

第三大隊

第六大隊

二 中 隊 二 中 隊

大尉ヲ也田兵第一大隊分一隊隊長之各官
神職セシム

北日兵言集言

北海道廳

兵隊宿舎ノ建築共此ノ由ニ
修繕等ノ夜比ヨリ兵隊宿舎ニ
監臨等ニ當部ヨリモ建費ヲ
為致可申也此後乃此由若也
明治廿一年十月十日

北日兵部長 永山武四郎

北海道廳長 永山武四郎

進出別紙ニ于テ年商ニ師團ヲ編制スル見込以テテ
テ編製致仕修表ニ取暇ニ過候ノ二十大隊ヲ

本年商ニ組テ修モノニ此後申候也

二 第 四 旅

隊

天益

第三大隊

天益

第六大隊 二哨 三哨

北日兵言集言

大尉ヲ由田兵第一大隊分一中隊長之右官
 神職也云

旅團

第一大隊
 第二大隊
 第三大隊
 第四大隊
 到路

| | | | | | | | | | | |
|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|
| 合計 | 十中隊 | 十四中隊 | 十八中隊 | 廿四中隊 | 廿八中隊 | 卅二中隊 | 卅六中隊 | 四十中隊 | 四十四中隊 | 四十八中隊 |
| 第一大隊 | | | | | 第一中隊 | 第二中隊 | 第三中隊 | 第四中隊 | 第五中隊 | 第六中隊 |
| 第二大隊 | | | | | 第一中隊 | 第二中隊 | 第三中隊 | 第四中隊 | 第五中隊 | 第六中隊 |
| 第三大隊 | | | | | 第一中隊 | 第二中隊 | 第三中隊 | 第四中隊 | 第五中隊 | 第六中隊 |
| 第四大隊 | | | | | 第一中隊 | 第二中隊 | 第三中隊 | 第四中隊 | 第五中隊 | 第六中隊 |

○中隊番号、朱記セルモノハ新設ニ係ルモノヲ示ス
 ○地名、朱記セルモノハ逐テ水道ノ首府確定ノ後決スヘキモノトス
 ○單ニ國名ノミヲ記スモノハ其國內ニ於テ實地適宜ノ地ヲ撰定スヘキモノトス

接受
 番号 第

明治廿一年十一月廿二日判決
 明治廿一年八月八日授済

受命 松本任元

淨寫 校合

長官
 種

第四部長
 友房理事友

發送
 番号 二一六二號 銘件

電行樓

系理事友

小澤理事友

大尉ヲ由田兵第一大隊分一中隊長之右各官
神職也云

一中隊 二中队 三中队 四中队 五中队 六中队 七中队 八中队 九中队 十中队

二十三年夜以降着多、兵屋井戸建
築費の算額一戸分金五二四四九五聖ハ
曾シ此友が潤シ之タル後後之件ノ算額ハ
テ同々之取シテ算額ハ拾束者ノ毎
セ金七五〇三三五聖ノ算額ハ
二四補塔ノ方法、塔理申友ノ算ノ上塔
ノ算
廿一年十月廿二日

字数一五六 一六五

塔理申友ノ算ノ上塔理申友ノ算ノ上

明治二十一年度移殖屯田兵屋井戸共建築費比較調

| 配置場所 | 隊年 | 元 | 豫算 | 高 | 改 | 豫算 | 高 | 豫算 | 高 | 判 | 余 |
|------|--------------|--------|------|------------------|------|----------|------|----------|------|----------|------|
| 篠路 | 二十一年度 一中隊 | 金貳萬貳千四 | 金百拾四 | (既ニ建築着手中ニ付較テ故アズ) | | | | | | | |
| 厚岸 | 二十二年度 二中队 | 金四萬四千四 | 金百拾四 | 金三萬三千百拾四 | 金百拾四 | 金三萬三千百拾四 | 金百拾四 | 金三萬三千百拾四 | 金百拾四 | 金三萬三千百拾四 | 金百拾四 |
| 未定 | 全 | 金四萬四千四 | 金 | | | | | | | | |
| 合計 | 五中队 | 金拾壹萬四 | 金 | | | | | | | | |

塔理申友ノ算ノ上塔理申友ノ算ノ上

大尉ヲ也田兵第一大隊分一中隊長之各官

屯田兵言集音

二十一年十月二十日 屯田兵部 小正表

明治廿年後十ヶ年間屯田兵増設配備表

| 大 | 隊 | 明治廿二年 | 明治廿三年 | 明治廿四年 | 明治廿五年 | 明治廿六年 |
|-----|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 第一大 | 札幌 | 三中队 | 四中队 | 四中队 | 四中队 | 四中队 |
| 第二大 | 室蘭 | 一中队 | 一中队 | 一中队 | 一中队 | 一中队 |
| 第三大 | 江別 | 二中队 | 三中队 | 三中队 | 三中队 | 三中队 |
| 第一大 | 空知 | | 第一中队 | 第二中队 | 四中队 | 四中队 |
| 第二大 | 上川 | | 第二中队 | 第三中队 | 四中队 | 四中队 |
| 第三大 | 上川 | | 第五中队 | 第六中队 | 第二中队 | 第四中队 |
| 第一大 | 天塩 | | | | 第一中队 | 第二中队 |
| 第二大 | 天塩 | | | | 第二中队 | 第二中队 |
| 第三大 | 北見 | | | | | |
| 第一大 | 釧路 | | 第一中队 | 第二中队 | | |
| 第二大 | 根室 | 二中队 | 二中队 | 二中队 | 二中队 | 二中队 |

| | | | | |
|--------|--------------|--------------|-----------|-------------|
| 看守日當 | 延六十六百人 | 金千三百貳拾四 | 延七十八百八拾人 | 金貳千三百七拾六四 |
| 押丁全 | 延九十九百人 | 金千四百八拾五圓 | 〇 | 〇 |
| 事務員全 | 延六百八人 | 金百貳拾四 | 延十貳拾人 | 金貳百四四 |
| 兵屋建築材料 | 百 戸 | 金貳千九百三拾五圓 | 百 戸 | 金貳千八百四 |
| 蓋葺修繕料 | 〇 | 〇 | 〇 | 金百四拾貳圓 |
| 井建築材料 | 十七ヶ所 | 金八四五拾貳 | 〇 | 金八四五拾貳 |
| 囚徒増食 | 延九百九十人 | 金千四百八拾五圓 | 延拾壹万八千八百人 | 金千六百六拾三圓貳拾貳 |
| 合計 | 金七千五百三拾三圓五拾貳 | 金七千三百九拾七圓七拾貳 | | |

比較釧路監獄署ノ方少キ事
 右ノ如クナルヲ以テ榊戸監獄署調ノ方ニ板定セリ
 和文ノ如ク釧路監獄署ノ分延金千五百圓金ノ推定スルモ同等係近或至以向ノ前ニ延及スル
 手限リ右割ヲ用ヒ他ハ此割ニ準シ右物ニ大井上典物ヲ引リ第四部長ノ決意アリ

三十二年十月廿五日
 夜宅ノ修テ大井上典物
 手限リ右割ヲ用ヒ他ハ此割ニ準シ右物ニ大井上典物ヲ引リ第四部長ノ決意アリ

甲号

屯田兵屋百戸十ヶ月間ニ建築スル榊戸監獄署調

| | |
|---------------|-------------|
| 一金貳百拾四 | 看守長貳人 旅費日當 |
| 一金千六百五拾四 | 十ヶ月間一日金三拾五圓 |
| 一金千四百八拾五圓 | 看守貳拾貳人 全上 |
| 全上 | 一日金貳拾五圓 |
| 押丁三拾三人 全上 | 全上 |
| 事務員貳人 全上 | 全上 |
| 全上 | 一日金三拾貳圓 |
| 兵屋百戸分建築材料 | 全上 |
| 一戸ニ付金貳拾九圓三拾五圓 | |

上取直

大封ノ屯田次第ノ家分ニ申付ルノ事

屯田兵備言集

一金八四五拾弍

井戸十七ヶ所

一金千四百八拾五回

一ヶ所金五拾弍

囚徒毎日三百三拾人増食

此延人負九万九千人一日一人
金弍弍五匁

合計金七千八百九拾三四五拾弍

此百戸割壹戸ニ付

金七拾八四九拾三弍五匁

此外囚徒九万九千人ニ係ル食費其他ハ特ニ負擔

セザルヲ以テ之ヲ省ク

乙号

屯田兵屋百五拾戸ヲ十七ヶ月間ニ建築スル到路監獄署調

一金三百六回

看守長貳人旅費日當

一金四千五百九拾回

十七ヶ月間一日金三拾弍

一金三百六回

看守四拾五人全上

一金四千貳百回

全上 一日金貳拾弍

一金貳百拾三回

兵屋百五拾戸建築材料

壹戸ニ付金貳拾八回
器械修繕代等見込

上ノ取寄

119517
1385
120900

一 金三百七拾五圓

井戸貳拾五ヶ所

一 金貳千八百五拾六圓

一ヶ所概莫拾五圓

合計 金壹万貳千八百四拾六圓

此是人員貳拾五千人一日一人
金壹萬四圓

此百五拾戸割一戸二付

金八拾五圓六拾四錢

此外因徒貳拾五千人係儿食費其他ハ特ニ頁
換セカルヲ以テ之ヲ省ク

北海道石狩國上川原野之景况

交通路及
其比隣地
ノ概況

札幌ヨリ
市来知ニ
至ル

上流ニ在リ即石狩原野トハ一ノ山峽ヲ以テ相隔テ別ニ
一大曠野ヲ為スモノ是ナリ今此上川原野ノ概況ヲ記サ
シトスル所先ツ其交通路及其河道ノ概況如何ヲ記セシ
トス

札幌地方ヨリ上川ニ至ルノ通路ハ総テ石狩川ノ左岸ニ
通スルモノニシテ其一部即札幌ヨリ市来知迄約三十哩
間ハ鉄道ニ依ル是レ以テ鉄道ハ小樽港ヨリ札幌ヲ経テ幌
内、炭山ニ通スルモノナリ又別ニ人道アリ江別、幌向、炭見
沃ヲ経テ市来知ニ通ス車馬ノ往來便ナリ

札幌ヨリ江別迄凡五里ノ間、札幌近傍一二里間ハ大抵既ニ
耕耘ニ着手セル地多ク又江別村ノ前凡一里半斗ノ間ハ
同地屯在ノ屯田兵ノ開墾地タリ此間尙平原曠野多ク樹
木森々繁生シ樹間熊笹茂シリ以テ地味ノ膏腴ナルヲ知

ルニ其未墾地ニ生スル樹木ハ樺子、樺、松、杉、榎、松、樺、柳、胡
桃、柏、楓、手ノノ建築及薪炭ノ料ニ適良ナリ又開墾地ニ産
スルモノハ各種麦、米（米ハ三四年ニ一回位不作ヲ免シス
故ニ多ク作ラズ）大豆、粟、黍、稗、馬鈴薯、各種野菜、甜菜（砂糖
ヲ製スルモノ）麻、藍、菜其他菓木ニアリテハ西洋林檎、同梨、
葡萄、寺ニシテ皆表果ヲ結フ

江別ヨリ市来知ニ至ル間亦廣原平野多シ而シテ此間ノ平
野ハ概子谷地ト称スル湿泥ノ地ナリ此谷地ニハ樹木ノ
生セルモノアリ又ハ茅ノ生スルモノアリ其茅ノ生
スル谷地ハ湿泥最モ深シ（二、三尺ヨリ四、五尺ニ達スルモ
ノアリ）然レ而シテ谷地共掘水溝ヲ設ケレハ能ク乾燥シテ
良キ耕地ト為ルナリ而シテ此地方ハ此兩種ノ谷地混在セ
リ

大村の口... 札幌... 石狩...

大村の口... 兵部省...

○江別村ハ札幌ヲ巨ル五里ノ地ニアリ明治十二年ヨリ漸次屯田兵ヲ配置シ目下ニ中隊ヨリ成ル大隊(合計四百四十戸許)ヲ成ス即勇三大隊是ナリ

○岩見沢村ハ札幌ヲ巨ル九十里ノ地ニアリ明治十七八ノ兩年ニ於テ官ノ保護ヲ受ケ移住セルモノニシテ合計三百戸アリ全村皆士族ニシテ鳥取山口縣ノモノ過半ヲ占メ他ハ諸縣ヨリ移ル保護ハ即一戸平均金三百三十圓ヲ貸與シ十五ヶ年据置キ二十五ヶ年ノ年賦並利息上納トス殖民ノ結果ハ移住後日尚浅ク管理保護上其他移住者ノ耐忍方傷習慣手ノ上ニ就キ種々ノ原因アリテ未タ好果ヲ収ムルニ至ラズト將來手ヲ逐ヒ産ニアリ孰ク最早ヤ今後ハ左程困難ヲ見サルベシ

○市来知ハ札幌ヲ巨ル十六里空知監獄ノアル処ニシテ

目下人戸百五十戸アリテ一ノホ市街ヲ成ス

○空知監獄ハ明治十五年創メテ置カレ、処ニシテ囚徒一千八百人アリ内千二百人ハ幌内ノ石炭採掘ニ従事シ他ハ囚徒ノ食料品ヲ作り且日用諸器具ノ製作等ニ従事セシム其囚徒ノ閑キシ地面目下二百五十町歩アリト云フ

○幌内炭山ハ市来知ヨリ二里ノ地ニアリ炭坑三ヶ所ニテ日々三四百頓ヲ採掘ス其炭質善良ナリ而シテ其石炭ハ總テ坑内外ニ布設セル鉄道ニ依テ小樽港迄運搬スルモノナリ其價額ハ炭山ニ於テ一頓九一圓ニ、三十或ハ樽ニ於テ九二圓内外ナリ

炭脈ノ推測量ハ地平線五六百四十五万頓余ニ、地平線下五百尺迄ノ間ニハ一千八百八十五万頓余アリト云フ

大村の口... 兵部省...

○江別村ハ札幌ヲ巨ル五里ノ地ニアリ明治十三年比ヨリ漸次屯田兵ヲ配置シ目下ニ中隊ヨリ成ル大隊合計四百四十戸許ヲ成ス即第三大隊是ナリ

○岩見沢村ハ札幌ヲ巨ル九十里ノ地ニアリ明治十七十八ノ兩年ニ於テ官ノ保護ヲ受ケ移住セルモノニシテ合計三百戸アリ全村皆士族ニシテ鳥取山口縣ノモノ過半ヲ占メ他ハ諸縣ヨリ移ル保護ハ即一戸平均金三百三十余円ヲ貸與シ十五ヶ年振置キ二十五ヶ年ノ年賦並利息上納トス殖民ノ結果ハ移住後日尚淺ク管理保護上其他移住者ノ耐忍芳働習慣等ノ上ニ就キ種々ノ原因アリテ未タ好果ヲ収ムルニ至ラズト將來年々逐ヒ産ニアリ就ク最早ヤ今後ハ左程困難ヲ見サルベシ

○市来知ハ札幌ヲ巨ル十六里空知監獄ノアル処ニシテ

目下人戸百五十戸アリテ一ノハ市街ヲ成ス

○空知監獄ハ明治十五年創メテ置カレ、処ニシテ囚徒一千八百人アリ内千二百人ハ幌内ノ石炭採掘ニ従事シ他ハ囚徒ノ食料品ヲ作り且日用諸器具ノ製作等ニ従事セシム其囚徒ノ閑キシ地面目下二百五十町歩アリト云フ

○幌内炭山ハ市来知ヨリ二里ノ地ニアリ炭坑三ヶ所ニテ日々三四百頓ヲ採掘ス其炭質善良ナリ而シテ其石炭ハ總テ坑内外ニ布設セル鉄道ニ依テ小樽港迄運搬スルモノナリ其價額ハ炭山ニ於テ一頓九一円ニ、三十或ハ樽ニ於テ九二円内外ナリ

炭脈ノ推測量ハ地平線五六百四十五万頓余ニ、地平線下五百尺迄ノ間ニハ一千八百八十五万頓余アリト云フ

大討... 北... 東...

幌内ヨリニ里北方ニ当テ郁香別ト称フル地アリ是ヨリ
モ亦善良ナル石炭ヲ産ス目下運搬ノ為ノ要スル鉄道架
設中ナリ

市来知ヨリ空知太トハ川ノ落口ヲ云フニ至ル九十里
ノ間ハ仮道ニテ稍起伏多ク且谷地ニ通スル処泥脚ヲ
没ス幸フシテ馬通スルノニ然レ本道完成セハ素ヨリ
車馬ノ往来差支無シ

○市来知ノ北方半里斗ノ地ニ「タ」フ「コ」ツ「ア」(能ク眺望シ
得ル意)ト称フルハ山^{海向ヲ極メ}「河原野」^{河原野}ノ地ヲ展望
ス即遙ニ西北方石狩川ノ右岸ニ人家ノ莫散セルモノハ
月形村ニテ樺戸監獄ノアル知又西南方雲霧ノ間ニ朦朧
タルモノハ即札幌近傍ノ原野ナリ

○市来知ヨリ「ナ」川(市来知ヨリ九六里斗)近傍ニ至ル間

道ノ東側ハ山地ニシテ耕耘ニ適スルノ地乏シト虽モ其
西側ハ石狩川ニ至ル九二、三里ノ間及之ヨリ西南方石狩
川ノ西岸全体ノ地概子前ニ言フ処ノ茅生ノ谷地ニ至
廣至大ナルモノナリ将来排水溝ヲ設ケ西洋農具ヲ利用
セハ許多ノ大農場ヲ開設スルヲ得ヘシ

○空知川ノ上流空知ヨリ三里斗ノ地ニ炭脉アリ炭質善
良ニシテ其量甚多ク地平線ニ無慮三億^噸以上アルヘシト
云フ近年採掘ニ着手セシカ為メ目下運搬上ノ方策調査
計画中ナリ

○空知川ハ源ヲ石狩十勝ノ田塚山脉ノ一ナル空知嶽ニ
發シ西流シテ石狩川ニ朝ス其渡頭ニ於ケル川巾九六十
間深、五六尺流速一秒時ニ九四乃至五尺許(常水ノ量以下
皆同シ)水質清涼ナレモ礫質ヲ含有スル為メカ鮭魚溯ラ

市来知ヨリ
空知ニ至ル

市来知ヨリ
空知ニ至ル

幌内ヨリニ里北方ニ當テ郁ツル香ツル別ト称フル地アリ是ヨリ
モ亦善良ナル石炭ヲ産ス目下運搬ノ為メ要スル鉄道架
設中ナリ

市来知ヨリ空知ツル太ツルトハ川ノ落口ヲ云フニ至ル九十里
ノ間ハ夜道ニメ指起休多ク且谷地ニ通スル処泥泥脚ヲ
没ス幸フシテ馬通ルノニ然レ本道完成セハ素ヨリ
車馬ノ往来差支無

○市来知ノ北方半里ノ地ニ「タ」フ「コ」ツ「プ」(能ク眺望シ
得ル意)ト称フルハ山ノ山上石狩原野一帯ノ地ヲ展望
ス即遙ニ西北方石狩川ノ右岸ニ人家ノ点散セルモノハ
月ツル形村ニメ樺戸監獄ノアル如又西南方雲霧ノ間ニ朦朧
タルモノハ即札幌近傍ノ原野ナリ

○市来知ヨリ「ナ」川(市来知ヨリ九六里半)近傍ニ至ル間

道ノ東側ハ山地ニシテ耕耘ニ適スルノ地乏シト虽モ其
西側ハ石狩川ニ至ル九二、三里ノ間及之ヨリ西南方石狩
川ノ西岸全体ノ地概子前ニ言フ如ク茅生ノ谷地ニメ至
廣至大ナルモノナリ将来排水溝ヲ設ケ西洋農具ヲ利用
セハ許多ノ大農場ヲ開設スルヲ得ヘシ

○空知川ノ上流空知ヨリ三里半ノ地ニ炭脉アリ炭質善
良ニシテ其量甚多ク地平線以上無慮三億噸以上アルヘシト
云フ近年採掘ニ着手セシカ為メ目下運搬上ノ方策調査
計画中ナリ

○空知川ハ源ヲ石狩十勝ノ国塚山脉ノ一ナル空知嶽ニ
發シ西流シテ石狩川ニ朝ス其渡頭ニ於ケル川巾九六十
間深、五六尺流速一秒時ニ九四乃至五尺許(常水ノ量以下
皆同シ)水質清涼ナレモ礦質ヲ含有スル為メカ鮭魚溯ラ

大村の口... 田舎... 山...

スト而ノ目下流水(河岸崩墮スル并共ニ河中ニ倒レシモ
ノニシテ素ヨリ枝及根ノ低ナレ大木ナリ)多ク一タヒ河
中ニ羅シハ亦容易ニ除ク能ハス行舟者ノ常ニ大患トス
ル所ナリ

空知ヨリ
上川ニ至ル

空知ヨリ上川郡秩別ニ至ル凡ク十三里ノ間、半ハ概子平
坦即田見峠ニ至ル凡ク六里ノ間ハ緩傾斜ノ波状地ニ通ス
ルモノニシテ車馬通行ニ支障無キ新道既ニ成レリ而シテ
此六里間道路両側ノ地ハ殆レト森林(栓、榊、桂、楠、柏、樺等)ニ
シテ土地膏腴西方ハ石狩川半里乃至一里斗ヲ隔テ、流
レ東方ハ一里乃至ニ里斗ニシテ「フタテシ」(石狩十勝
岳寺ヨリ成ル田畑ノ大山脉)山脉ノ枝山ノ麓ナリ故ニ此
地一帯ノ殖民ニ適セル地ハ空知川右岸ヨリ石狩川左岸
ニ流レテ田見峠ノ麓ニ通スルモノニシテ頗ル廣シトス

又此地方石狩川ノ右岸ニモ殖民適当ノ地甚多シ

○田見峠ノ西麓一里斗ノ地ニ於テ雨龍川(石狩川ノ支流
中空知川ニ次テ大ナルモノナリ)石狩川ニ落合フ此両川
ノ間ニモ亦廣キ茅生ノ谷地アリ皆殖民地ニ適スヘシ

○田見峠ハ「フタテシ」山脉ノ枝脈「エリモケツ」山ノ
石狩川ニ至テ尽クル所ヲ越スルモノニシテ其西麓ヨリ
僅カニ百尺許ノ高ヲ有スルノ地然レ西北方石狩、雨龍
両河岸一帯ノ地ヲ眼下ニ望ミ又遠ク増毛、濱益及厚田ノ
諸山ヲ展望ス

田見峠ヨリ
上川ニ至ル

田見峠ヨリ上川迄凡ク七里許ノ間ハ概子小山脉ノ間及ヒ
石狩川ノ沿岸ニ通スルモノニシテ車馬ノ通過ニ差支エ
無クシムル道路ハ目下開設中ナリ然レ到底一、二ノ山
嶺ヲ越スサレハカウサル線路ナルヲ以テ車行稍困難ナ

大討ツルコノ事ニ関スル事
石狩川ノ水ノ量ハ一
説テ曰ク神居古舟ニ於ケル石狩川流水ノ量ハ一
秒時間ニ大均三十二百五十五方尺ナリ之ニ五十
四尺五寸ノ勾配ヲ見込メハサクモ一万六千馬力
器械ノ摩擦減耗力ニ割テ減シテ吹ノ地シアリト
且氏歳ヲ曰ク日一万余頭ノ馬ヲ何ノ用ヲモ為
サシメスシテ昼夜ヲ舍メス奔逸セシムルハ信ニ
惜ムヘキナラヌヤト遺物遺産ノ多キ吹一事以
テ知ルヘキナリ

上川原野

上川原野ハ石狩川ノ上流ニ位スルモノニシテ殆ト全道ノ
中心ニ當ル四面皆山嶺ヲ以テ繞リ独リ西南隅僅カニ開
キ諸水悉ク石狩川ニ朝シテ爰ニ落ツテ其東ハ「ヲフタ
テシゲ」山脉ヲ以テ十勝ト思シ南ハ「エホロカ」ニツク山脉
ヲ隔テ、空知郡「トポフ」原野ト相隣ル西ハ「エリモケツ
」及雨龍山脉之ヲ擁シ北ハ天塩ノ田塚山脉之ヲ蔽フ其
中央平衍ノ地ハ即上川原野ノ存スル処ナリ原野ノ入口
「エタレ」ニツヨリ凡一里半許上流秩別太ノ近傍ニ測候処
アリ其位置ハ東経百四十二度二十三分北緯四十三度四
十五分ニシテ海面上ニ百四十一尺ノ高ヲ有ス即チ上川平
原低地ノ標高ニシテ之ヨリ札幌ノ標高凡六十尺ヲ減シ
之ヲ三十八里ニ割シハ每一里僅カニ七尺四寸（凡七十七
六十分ニ）トナルヘシ實ニ少量ノ高低ト云フヘキナリ

○原野ノ西端石狩川ノ右岸ニ嵐山アリ（元近文山ト稱ス
ル小山ナリ左岸ヨリ之ヲ眺ムシハ其景狀恰モ嵐山ノ如
ク水亦桂水ニ似タリ本年九月ハ決陸軍中將閣下旅次之
ニ卷ク即チ山頂ニ登リ遠ク四方ヲ展望スルハ彼有卷ナ

大討つて口之... 中... 兵... 集... 音...

ル石狩嶽ハ東南方ニ屹立シ南方遙ニ黒烟ヲ吐クハ西ヲ
フタテシゲノ噴火山ニシテ東北旭波ノ間ニ出沒スルモノ
ハ天塩諸山ノ位スル処タリ予ノ京野ノ形狀ハ恰モ魚尾
ノ狀ヲ為ス即チ其一尾端ノ東方ニ向フモノハ石狩本流
ニ流フ処ノ地ニシテ他ノ尾端ノ南方ニ向フモノハ石狩川
ノ朝流ナル義磯川ニ流フ処ノ地タリ
○石狩川ハ京野ノ北部ヲ貫流シ京野中ニ於テ大小二十
有餘流ヲ收容シ溜々トシテ西南方ニ流下ス河畔ノ地野草
繁茂シテ馬ヲ没ス其他一般ニ青色野ニ滿チ縁樹鬱蒼遠
ク山麓ニ連ル一見以テ其地味ノ膏腴豊饒ナルヲ知ルニ
足ル

○以下明治二十年六月殖民地撰定ノ為メ特ニ派遣セル
吏員ノ報告書中要ヲ摘ミ欠ヲ補ヒ以テ京野ノ廣袤地味

上川京野殖
民地撰定ニ
關スル要領

水物等ノ如何ヲ詳悉スルニ便ス

○上川京野ハ其地勢平坦ニシテ土地肥沃、乾燥、粗其度ヲ
得テ水性モ亦概シ皆善養野ニ種藝ノ地、牧畜ノ資アリ山
ニ建築ノ材、薪炭ノ料アリ水ニ鮭鱒ノ養肉アリ石狩京野
地積廣大ナリト虽モ其地積ノ都府タル札幌近傍ヲ除
クモハ即チ一郡ニシテ地積ノ大、土質ノ美ヲ兼ヌル者恐
ラクハ復タ之ヲ他ニ求メテ得ザルハシ莫ニ天府ノ富ノ
称空シカラス其地積ノ大ニ人烟寥々(測候所及土人三十
四戸アルノ地)トシテ野ニ耕圃ノアル無ク空シク狼熊ノ
巢窟タル所以ノモノハ畢竟スルニ運輸ノ法無キカ為メ
ノミ水路剽舟ヲ通スヘシト虽モ其地何セシ半歳通路全ク
梗塞シテ孤島ノ舟ヲ失フカ如ク音信ノ便運輸ノ道全ク
遮断スルヲ以テ本廳曩ニ市来和、秩別間假道路ヲ通シ今

河川

亦空知秩別河ノ平道モ將ニ其功ヲ委セシトス
 上川郡ヲ流通スル大ホニ十有餘川ハ源ヲ四周ノ山中ニ
 發シ或ハ西ニ走リ或ハ南ニ趨クト虽氏之ヲ要スルニ其
 末流秩別近傍ニ集合シテ終ニ皆ナ石狩川ニ歸ス其快恰
 カモ車軸ノ中心ニ向フニ似タリ其水質ハ大抵清涼甘味
 独リ羨磯ノ一川ヲ除カハ則チ以テ飲料ニ供スルコトヲ得
 又以テ灌溉ノ用ニ備フニ而シテ一般ニ水勢稍急ナリト
 虽氏我里ノ間能ク刳舟ヲ行カシメ以テ運輸ノ不便ヲ補
 ヒ艇罽又時々辟瀾ノ産卵蕃殖以テ下流濫渙ノ一分ヲ償
 フノ要所トス今左ニ首トシ本川ヲ詳記シ次ヲ逐フテ重
 要ノ支川ニ及ヒ以テ水流系ノ一斑ヲ示ス
 ○石狩川上流 本川ハ其源ヲ石狩岳ニ發シ始メ西北ニ
 流シ愛別近傍ニ至リ一轉シテ西南ニ赴キ諸水ヲ合シ石

狩ニ至リ海ニ朝ス流長大約百六十七里上流上川原野ノ
 西端ニ於ケル川巾五十間乃至八十間深平均四尺許但神
 居古丹以上ヲ上川トス水質清淨魚族皆棲ニ且多シ溜々
 トシテ流シ刳舟通シテ「ベレケノム」近傍ニ達スルヲ得夏
 期涸水ノ際ハ「ホロメム」「タナシ」山ノ間河線數条ニ分裂シ
 復行ル可ラス伊能春志内、河水勢急奔之ヲ降ル矢ノ如シ
 所謂神居古丹ノ急端是ナリ而シテ本流ハ十一月中旬ヨ
 リ三月下旬ノ間凍氷シテ人馬ノ通過差支無キニ至ル
 ○羨磯川 本川ハ其源ヲ「フタタ」山脈「スマヌブリ」
 及「シルトル」山中ニ發シ西北流シ而シテ山下「ルベシ」
 ヲ過キ一轉シテ北ニ走リ秩別村ニ至リ石狩川ニ入ル上
 川郡中第一ノ支流ナリ長大約二十里其中二十乃至三十
 間其深四尺許水質汚濁其色淡乳白而シテ水中ノ石礫皆

大討ツルコトノ事ニ
 中田兵衛言集音

大討ツルコノ事ニカキテ一ノ山ノ北ヲ巡リ石狩、牧別、西川、中央ヲ通シ西流シテ石狩川ニ落ツ河口中十五間許湾曲多ク水流緩々其色稍々薄真色ヲ帶フ其味

帶香褐色ノ沈滓ヲ着ス蓋シ其上流ニ於テ少量ノ硫黄ヲ含有セル礫泉湧出シテ河水ニ加ハル者ナリ現ニ盛夏涸水ノ候ニ當リ魚族往々硫毒ノ腦ス所ト為リ為ノニ死スル者夥々、シト云フ其飲料ニ適セサルヤ言ヲ待タスシテ明ナリ

○秩別川 秩別川ハ其源ヲ「フタテシ」ゲ山脈秩別岳ニ發シ西北流シテ秩別村ニ至リ美碓川ニ入ル其長未詳其中凡二十間水質透明最美ナリ水勢急激舟行危嶮、鯉鱒雜魚多シ將来茲ニ灌溉ノ利ヲ資ルヤ蓋シ鮮ナカウサルヘシ

原野

可ナラサルモ飲用ニ堪フ魚族多シ
○ヲサウツ別川 其源ヲ天塩田畠山中ニ發ス其長大約五里許其中凡十回南流シテ「カガビ」ニ至リ石狩川ニ注ク水質汚濁帶褐色殆ト飲ムヘカウ然シモ其右側ノ支流ハ皆清水潺湲舟ヲ通スヘシ又鯉鱒ヲスト虽モ雜魚多シ本郡原野ノ地勢土質等ヲ畧述スルニ當リテ記事上便宜ノ為ノ先ツ之ヲ分ツテニ大別トス即チ一ヲ平原一ヲ高台ト稱ス蓋シ此西種ハ地學上ヨリ之ヲ論スル中ハ即チ其成生ノ原因同一ナルヘシト虽モ其年紀ノ前後地勢ノ高低各相異ナルノミナラス表層ノ厚薄ヨリ以テ土質ノ良否及乾燥ノ度又植物ノ種類并ニ其發育ノ景況ニ至ルマテ一トシテ相同シキモノ無ク結局農耕適否ノ矣ニ至リテハ甲乙大ニ差アルカ如シ

○平野 本郡ノ平野ハ美碓、秩別「ヲサラツベツ」ウシシ別
「シ」シリ及ヒ「ケカブ」ミノ大原野ヨリ成立ス。総シテ之ヲ概
言スシハ全形甚タ不齊トス。蓋シ東北隅ハ、安別近傍ニ起
リ「タ」トシ山ヨリ地勢閑謐ス。而シテ東ハ大ハ「トコム」エアニ
又ブリ「ケカブ」ミナ「キトウ」シ「諸山」ヲ以テ界ト為ス。西南
ニ向フ「キトウ」シ山ハ即此山脈ノ尽クル所夫ヨリ一轉シ
テ東南ニ折シ秩別川ニ併行シテ「ヲ」フタケシケ「群峯」ニ到
ル。南一帯ハ秩別高台ニシテ之ト同川ノ中間ニ古秩別ノ
改「野」アリ。秩別太以南ヲ美碓野トス。連続南趨以テ「ベ」ツ地
方ニ至ル。即本群平野ノ南端ナリ。夫ヨリ美碓高台ヲ越ユ
シハ則「ヲ」キケナシメム。平野ニ出ツ西ハ伊能諸山ヲ以テ
其界トシ北ハ上「ビ」ツ「高原」ヨリ聯絡シ「ト」ツシヨ山ニ到
ル。岫ニ於テ西北ニ轉シテ「キトウ」シ「エ」アニ又ブリ「ウ」フ井

「シ」リ「ケカブ」ミノ諸山宛然半圓峽ヲ呈シテ北隅ヲ圍繞ス
「ケカブ」ミ山ノ東「ヲ」サラツベツノ小流ヲ隔テ「ケカブ」
ミノ高台アリ。即今年田ノ径ニ當ル以上、上川全野ノ圍境
トス

○廣袤

東北隅安別野ヨリ秩別ニ至ル六里二十町
北端「ヲ」サツベツヨリ秩別ニ至ル五里三十町
秩別村ヨリ南端「ベ」ツ野ニ至ル四里十三町
「ウ」シシベ「ツ」樹林ノ東端「キトウ」シ山ヨリ秩別村ニ至ル
三里十六町

○面積

殖民見込地ハ總計五千八百九十四万余坪之ヲ各原野
ニ細別スシハ則左ノ如シ

大討ツヒロノ...

大討ツヒコノ...

美瑛原野

八百十七万坪

秩別原野

三百三十万坪

「ヲキケナシメト原野

二百四十三万坪

「フシハ秩別原野

四百十九万坪

「ウシシベツ樹林

七十九万坪

「シシ原野

八百四十八万坪

「チカブ原野

三百四十九万坪

「ヒツ原野

三百六十六万坪

愛別原野

七十万坪

「ウツペ樹林

四百万坪

「ヲサラペツ樹林

四百八十三万坪

「ヲサラペツ原野

三百九十七万坪

「エタンベツ原野

四十万坪

○地勢 平野ノ地勢ハ其河川ト高低ヲ有フシ上流ヨリ

下流ニ趣クニ流ヒ漸次下低ス而シテ平野ノ最低所タル秩

別太ノ高低ヲ檢スルニ海面ヲ按クニ三百尺ニ下ラス夫

ヨリ諸水ヲ溯ルニ後ヒ地面漸ク其高サヲ増シ高台ニ達

スル時ハ更ニ数回若クハ数十回ノ高ヲ加フ其傾斜急ナ

リト虽モ全体ヨリ見ルハ頓ル平野ナルヲ覺フ而シテ

石狩本流及美瑛、秩別等ハ其川畔ヲ去ルニ乃至五百回

ニノ高サ大約一、二回ノ段立アリ蓋シ此成生期ハ泥川平

野ト同年紀ナルハシト虽モ甲ノ年代ハ乙ニ先ツヤ明白

ニシテ之ヲ周辺田鏡ノ高台ト比スルニトキハ遙ニ後代ニ

属シ全ク現今ノ水流系ニ因リテ造成セウシタルヤ敢テ

疑フ容シス

○土質 地勢既ニ斯ノ如シ故ニ土質モ亦上、下ト自ラ異

大河の河口... 日本兵言集

平原

ナリ所ナキヲ得ス蓋シ水中浮遊スル物質洗積ノ順次タ
ルヤ重キモノ先ツ沈ミ輕キモノハ水勢緩漫ナル所ニ至
リテ漸々洗積ス故ニ石礫砂子泥土ノ排列ハ水流ノ緩急
トシカ順次ヲ比例ス以上既ニ述フルカ地ノ本部ノ土地
ハ傾斜急徒テ水勢亦急ナルニ依リ土壤分子稍々粗ニシ
テ天然排水ノ便ナルハ理ノ当ニ然ルヘキ所ナリ果シテ
平原中土地卑湿泥濘脛ヲ設スルノ地ヲ見ス只ヲサウツ
パツ野中ニケ所泥炭質土アルノミ
平原ヲ分テ三種トス即チ草原樹林及泥炭地(即谷地)是レ
ナリ
第一草原 草原ハ上川原野十中ノ六分ヲ占ム其土質ハ
新漂堆土層厚六寸乃至一尺五寸許ニシテ其下ニ砂礫ア
リ表層ハ壤土ニシテ其厚サ一寸乃至五寸又上層ノ下

一二尺許ニシテ表層ト同性ノ壤土アルナリ其厚サ一、二
寸ニ過キス所ニシテ表層上土ノ色ハ普通暗黒色ニシテハ
細黒色トス其能黒色ナルモノハ微細ノ木炭末之ニ加ハ
ルガノナリ土人毎年一回是レクハ二回草原ニ放火シテ
枯草ヲ燒クヲ慣例トス其際草莖草根ノ一分ハ為メニ炭
化シテ永久不滅ノ性質ニ化シ累年堆積土壤ニ混和シ遂
ニ以テ一種奇異ナル黒色ヲ呈出スルカ地ニ又或ハ石礫表
層ニ露出シ賦性粗ニシテ沙子過量ナルアリ之ヲ要スル
ニ或ハ乾燥ニ過クルノ嫌ナキ能ハス尋常河畔ノ地及ヒ
之ヲ巨ル遠カラウナルモノハ乾湿其宜ニキヲ得テ雜草樹
木モ好ク繁茂スト其氏ニ河ノ中央ニ位スル者即チ河流
ヲ巨ル最遠ノ地ハ抱水力少ク徒テ亦肥料維持力ニ乏
シキノ觀アリ今植物ノ種類及其生長ノ景況ヲ觀察シ以

テ其肥瘠如何ヲ推定セシ柳モ草野普通ノ雜草ハ其種類
極メテ夥シク固ヨリ牧草ニ違アラスト虽氏其領布最モ
廣ク到ル所多ク繁生スルモノヲ採クシハ即チ茅、蕨、胡枝
艾、唐松草、草麻、七葉、沙參、旋花、牛艾、消、大葉、芍藥、花、芋、土、歪頭
菜、ツルカ、カ、シ、ハ、ヲ、ホ、カ、モ、メ、ツ、ル、等、是、チ、リ、就、中、肥、次、チ、ル、局
所ニ於テハ七葉、芍藥、唐松草等其長二回余ニ達シ草藤、牛
艾、消ノ類之シニ纏絡シテ蔚然滿地ヲ擁蔽シ野獸モ猶且
其通行ヲ難スルノ状アリ土地低阜四時湿润ナレハ虎、杖
蘆、シ、モ、ツ、ケ、サ、ウ、等、旺、シ、ニ、繁、茂、シ、溪、藻、星、宿、草、小、蓮、翹、ト、ク、サ
レ、ガ、巴、草、類、矣、々、散、在、セ、リ、其、樹、木、ハ、榆、柳、槭、樹、楊、柳、科、屬
植物散在スルアリ之ニ及シテ石礫露出セル地所ニ在リ
テハ胡枝及ヒ茅ノ類ノミ生長シ其發育ノ度モ亦タ甚ク
劣等ナリトス

第二林地 本郡平泉中曠大ノ平林アリ而シテ其土質ハ
概シテ草野ニ及ヒ砂礫サナク埴土ニ富ニ常ニ湿润ナリ
上層一尺許ニシテ石礫アルアリ或ハ数尺ノ厚ヲ有スル
アリ表層ニニ、三寸ノ壞土アリテ其性多クハ強硬夏日ト
虽氏乾燥ノ憂ナシ故ヲ以テ巨樹老木蔚叢トシテ繁生ス
其種類ヲ採クシハ柳樹其大キヲ右ノ赤楊、槭樹、辛夷、榆、葉
ト、ス、ナ、ク、サ、ヒ、タ、等、ニ、シ、テ、下、草、ハ、概、シ、テ、筵、ト、ス
第三泥炭地 泥炭地ハヲサウ、ペ、ツ、地方ニアリ其色黒色
周囲ハ深サニ、三尺許ニシテ其下壞ニ埴土アリ其中中央ハ
九尺余ニシテ尚ホ埴土若クハ石礫ヲ見ス低湿、泥淤、腐植
物夥シク重量輕ク大古泥湖ナリシモノ、地シ其植物ハ
小笹、荒、紫、葉、ハ、管、コ、ト、シ、ノ、一、種、地、榆、シ、ツ、カ、ク、ト、蘆、及、ヒ、矮
生ノ赤楊樹等トス

森
林

潤ナル部分ニアリテハ柳赤楊、等蕃茂セル所無キニアウ
サルモ其地積枝少ナリ雜草ハ茅及蕨ノ西種、十分九ヲ右
ノ或ハ純生若クハ文生シテ而シテ胡枝、セツ葉等亦夕屢
之ト雜生スルナリ是ニ由テ之ヲ觀シハ本部高台ハ概
シテ耕耘樹藝ニ適セス然レモ「ナカブ」^ニ「鉄別」及ヒ「ペベツ
寺」ノ地ハ溪流清水ヲ出シ且天然ノ牧草ニ富ミ家畜放養
ニ利用セハ可ナルヘシ
地勢ニ於テ既ニ弁セシ如ク本地ハ全ク山ヲ以テ圍繞シ
中間又「ホロヒ」^ニ即大林ノアルアリ其林木ニ富ム蓋シ
知ルヘキナリ然リト虽モ或ハ木實ノ粗悪ナルアリ或ハ
伐本ノ不便ナルアリ幸テ用ニ供スル能ハサルハ免シ難
ク知トス今其質稍々善良ニシテ運輸ノ便アルモノヨリ漸
ク逐フテ左ニ之ヲ列記セシ

神尾古丹ヨリ南、雨^ウ川水源地ヲ経テ空知郡ニ至ル一帯
ノ連山アリ其積評カニ記シ難シト虽モ大約其徑六里余
ニシテ其緯ニ里許トス之カ樹木ヲ挙クレハ蝦夷松、最モ多
ク之ニ加フルニ檜、水松、菩提樹、樺、及ヒ槭樹等雜生ス而シ
テ其針葉樹種ハ以テ建築材ニ適スヘク他ハ以テ薪炭材
ニ可ナリトス之ヲ運搬スルヤ西部ハ伊能川ニ依リ東部
ハ雨^ウ川ニ依テハ材ハ流下スル故テ難キニアリト虽
モ大材ニ至テハ雪中機車ノカヲ藉リサルヲ得ス
「ウ」^ウ川ノ左側鉄別川ノ北ニ横ハル樹林ヲ「ウ」^ウ
ヘツ^ウホロヒニタイト^ウ竹ス其概積毛千五百四十六万坪ニシ
テ其植物ハ柳、榆、槭樹、赤楊、槐、辛夷、ヤナヒ^ウドスナラシ等ニシ
テ下草ハ熊笹最モ多ク雜草少許ヲ加フ而シテ建築材タ
ルヘキモノ柳ニ過キスト虽モ其数多クノ能ク其生ラ逐

大討ツル可クノ事ニハ
此日其言
此日其言
此日其言

クルモノ、地シ土人謂フ丸木舟材ハ常ニ之シラ此ノ地ニ得ルト亦以テ聊カ林伐ヲ短ルニ足ラシカ其材料ヲ概算スルニ四百四十万石ヲ降下ナルハ之ヲ伐出スルヤ「ウレシ」ビツ川ニ依ルノ便アリト虽氏當時ノ状況ヲ以スシハ或ハ砂洲ノ露ハル、アリ或ハ流木ノ横ルアリテ其利ヲ享クル能ハス然レ氏他日少ク浚深ヲ施サハ殊ニ木材流通ニ便スルノミナラス舟ノ通行ニ又自在ニシテ其利蓋シ勘シトセス

「ウ」ツペチホロニタイハ「ウ」ツペチ川ニ跨リ東北「突」所山麓ニ達スル平林ニシテ其面積四百万坪榊、榆、赤楊、及ヒ其他ノ雜木ニシテ概測ニ拠シハ尠百十四万石許ノ材アリ此地ハ石狩川ヲ巨ル終ニ五丁乃至十丁ニシテ且ツ本川ト平行スレハ運輸至便ト云フモ不可ナカルヘシ

「ウ」ツラツツ川ノ上流ヨリ「キ」トウシ山下ヲ横ハリ「ウ」ツペチホロニタイニ接スルヲ「ウ」ツラツツペチホロニタイト稱シテ其積四百八十三万坪爰ニ存スル植物ハ前ノ平林ト大同小異ナリト虽氏稍方ルモノ、地シ今名數ヲ概算スルニ尠百三十七万石ニシテ運輸ノ便無ク只「ウ」ツラツツペチ川一条アリト虽氏常ニ水浅クシテ屈曲多ク流木ニ適セス故ニ改浚セリシハ此地ニ於テ用ユルノ外無カルヘシ此他高燥ノ地或ハ山腹ニ至ツテハ概シテ榊、樹、抱、樺、等トス而シテ短ノ材ハ纒ニ薪炭用ニ供スルニ過キサルノニ以上記載スル所ニ拠シハ森林ニ富ム明ナリト虽氏實ニ現時ノ有様ノミ他日殖民シテ材ヲ爲シ市ヲ爲スニ至ラハ右ノ森林ハ忽チ變シテ棄田トナルヘシ果シテ其期ニ至ラハ森林タルヘキモノハ只周囲ノ山林アルニ過キス

上川ヨリ各
地ニ至ル
交通線路

岐山峽シテ狡シトセス林木又サシトセス然レモ建築材
タルヘキモノ伊能、雨珍、ノ両山アルノミ樹木ノ伐採決シ
テ之ヲ根ニスヘカウサルナリ
秩別村ヨリ空知郡「トツ」野ニ至ル道路線ハ札幌根室間
中央道路ノ一部ニ属シ其里程九里余而シテ秩別村ヨリ
「トツ」野ニ至ル里程凡ソ四里ノ間ハ平坦砥ノ如ク土工最
モ易シ夫ヨリ美瑛高台ヲ越ヘ「ル」ト「ロ」ニ至ル里程
凡二里ノ間三、四ヶ所ノ段アルヲ以テ之ヲ前者ニ比スル
キハ少シク其費用ヲ増サ、ルヲ得ス「ル」ト「ロ」ヨリ
「トツ」野ニ至ルニ三里余ノ間ハ皆高台上ニ係ルト是レ「ロ」
「パ」ニ至ルニ「ロ」ホ「ロ」カレ「トツ」ノ両所ニハ澤アルノミ之ヲ要ス
ルニ全道九里余ノ間工事易ク費用サナクシテ車道ヲ通
スルヲ得ヘシ

象
象

秩別村ヨリ天塩川支流「ケ」又「フ」地方ニ達スル聯絡道路
凡十三里余ノ間ハ「ケ」カ「フ」野ヲ経「トツ」山ノ南麓ヲ
繞リ「ロ」ツク高台ヲ越ヘ「ロ」ツク支川「ロ」川ニ至ル岐
間里程五里半ハ工事容易夫ヨリ「ロ」川左畔ニ沿ヒ北
西ニ向ヒ進ム「ト」五里余ニシテ北ニ折シ「ロ」五ヲ越シハ則
「ケ」又「フ」地方ニ出ワ岐間工事サシク難キ所無キニ此サ
ルモ空知道路田見峠以東ノ工事ニ比スレハ遙ニ易キカ
如シ
農事ニ直接ノ関係ヲ有スル気象ヨリ大ナルハ世ニ故ニ
一農場ヲ開カレト欲スレハ必ス芝ツク候如何ヲ探究セ
テ凡ヘカラス寒暖ノ度、瓜雨ノ多寡、霜雪ノ早晚等数年ノ
経験ニ依ラサシハ知悉シ難シト是レ我人ノ此地ニ往來
スル日尚ホ浅ク又ニ季節候処ノ設アリト是レ二十一年

大討ヲセヨクニシテ...

七月創設セルモノナリヲ以テ只線ニ一、二ノ準拠スヘキ
モノアルノミ即左ノ如シ

但シ極寒及雪ニ関スルモノハ上川ニ於テ冬ヲ裁正シ
モノ、証牒ニ依ルモノナリ

極暑 七月二十九日 九十五度
其他西三日 九十三度

極寒 外部ニテ 零度内外 一ヶ年ニ三、四日内外
測リモノ 其他十二度 一ヶ年ニ二十日内外位

雨量 七月中十八日同申ニ九十八ミリメートル以外ニ曇天二日
八月中十九日同雨ニ二百三十三ミリメートル以外ニ曇天四日

雪 積雪平均三、四尺
十一月月中旬ヨリ降り始めノ二月初旬積ミ始め
四月中旬ニ至テ雪消ヘ原野現ハルト云フ

蒸發量 七月中 七一、二ケル (百九十一ミリメートル迄余)
八月中 四一、二ケル (百十五ミリメートル迄余)

氣壓 七月中 七百四十七 (ミリメートル) 〇五
八月中 七百四十六 (ミリメートル) 〇九

濕度 七月中 七十五、二
八月中 八十九、三

温度 七月中 二十一度 六三
八月中 二十度 〇九

結論

以上陣述スル所ノ要矣ヲ撮テ更ニ之ヲ掲載スレハ即テ
左ノ如シ

第一 殖民地適当ノ地積無慮五千八百九十四万坪

第二 氣候ハ蔬菜穀菽ノ豊登スルヲ以テ見ル所ハ札幌
近傍ト敢テ異ナルヲ無キ

第三 土質上等ニシテ普通耕作物播種ニ適ヒ尋常ノ收
穫アルヲ猶樺戸監獄所、秩別出張所試作ノ成績ニ

換リテ明ナリ

茅四

本郡ノ平泉ハ草野其過半ヲ在ノ拓地ノ業便ニシ

茅五

テ且フ多費ヲ要セス初年ヨリ多サノ収入アル
本郡ニ移住シ農業ヲ行ハスト欲スルモノハ相
ノ資本アリテ大農場ヲ起スト欲スル者ニ派サレ
ハ不可ナリ其所以ハ他無シ小農ハ只ニ牛馬ノ力
ヲ藉リテ拓地ノ勞カヲ省ク能ハサルノミナラス
小許ノ産物運搬モ亦大量ノ物品ト同一ノ費用ヲ
要シ隨テ利益モ亦サナケレハナリ

室蘭港より室知煤田に至る間鐵道線に沿フタル
原野並札幌近傍ニ於テ新墾見込ノ地積調

札幌近傍貳千四百七拾貳萬三千九百坪

此反別八千貳百四拾壹町三反歩

但創成川下流百拾萬坪樽川下手稻兩村五百四拾萬千
九百坪苗穂雁來月寒三村千八百貳拾貳萬貳千坪ニシテ
卑濕沮如泥炭砂礫等其墾開ニ適セサル地所ハ悉ク之ヲ除
去シ以テ加算セサルモノトス以下皆之ニ同シ

此地積ヲ屯田兵増殖ニ供スルトキハ一戸壹萬坪ノ割合ヲ以
テ貳千四百七拾貳戸ヲ配置スルニ足ル蓋シ道路敷地其他
必用ノ地積ヲ扣除スルモ尚貳千四百戸ヲ容ル、ヲ得ヘシ

屯田兵本部
日具
音

馬追山近傍並夕張川沿岸五百三拾萬坪
野津幌江別、漁太ノ間 三百九拾萬坪
岩見澤空知太ノ間 六百五拾萬坪

小計千五百七拾萬坪

此反別五千貳百三拾三町三反歩餘

但石狩川ノ東南ニ在ル所ノ原野ニシテ別ニ排水等ノ
工事ヲ要セスシテ直ニ墾闢ス可キモノトス若シ其附近卑低ノ
地區ニ向テ溝渠等ヲ施ストキハ更ニ十倍ノ地積ヲ撰定ス
ルヲ得ヘシ且此方面ハ室蘭鐵道線ニ對シ最モ直接ノ
利益アル者トス

此地積内ニ於テ道路敷地等ノ必用ナル坪數ヲ扣除スル
モ千五百戸ノ屯田兵ヲ移殖スルヲ得ヘシ

浦牛内雨龍太ノ間 五千八百九拾四萬坪
雨龍川沿岸 千七百拾四萬坪

小計七千六百八萬坪

此反別貳萬五千三百六拾町歩

但石狩川ノ西岸ヨリ雨龍川ノ兩岸ニ在リ此方面ハ
室蘭鐵道建設ノ日ニ際シテハ其殖民利産ノ使益ヲ
受クル頗ル多キ者トス且排水法ヲ施シ卑低ノ地場
ヲ開泰セハ尚幾倍ノ地積ヲ增加スヘシ以下皆之ニ
同シ

此疆域ハ七千五百戸ノ屯田兵ヲ移殖スルモ道路敷地
等ニ供用スヘキモノ尚百万坪餘アリ

上川

三千貳百六拾五萬九千坪

此及別壹萬八百八拾六町餘

但石狩川ノ上流空知太ヨリ拾二三里ニシテ此曠原ニ至ルヘシ故ニ室蘭鐵道ヲ空知煤田ニ達セシムルトキハ此方面ノ墾闢ニ大ナル裨益ヲ與フル者トス

一戸平均壹萬坪ヲ耕耘スル者トナストキハ三千貳百戸餘ノ農家ヲ移殖シ尚道路等ノ如キ必用ノ地積ニ供用スヘキモノ六拾五萬坪餘アリ

厚真鵲川兩川沿岸貳百五拾萬坪

此及別八百三拾三町步餘

但室蘭鐵道線中羨々苫小牧兩停車場擬定地ヲ距ル甚遠カラサルヲ以テ鐵道敷設ノ日ハ大ニ懈怠ノ便利ヲ得ヘシ

一戸平均壹萬坪ノ農民二百三四十戸ヲ容ルヘシ

白老幌別室蘭三郡

右ハ曠濶ナル原野ニ乏シト雖モ其殖民ニ供スヘキ地所固ヨリ少シト為ラス然レトモ未タ實際ノ測量ヲ經サルヲ以テ其坪數ヲ概定スル能ハス但此三郡ハ室蘭鐵道線經過ノ地疆ニ係ルヲ以テ墾鉏ノ利益最モ多シトス

合計壹億五千百六拾六萬貳千九百坪

此及別五萬五百五拾四町三反步

此地積内ニ於テ壹戸平均壹萬坪ヲ耕耘スル者ト為ストキハ壹萬五千戸ヲ容レ得テ尚餘有アリトス

幌内郁春別空知三煤田調

幌内煤田

炭量壹千八百八拾五萬噸

但水準上堀採スヘキ良炭六百四拾五萬噸水準下五百尺マテ
将来堀採シ得ヘキ良炭五百四拾萬噸トス

郁春別煤田

炭量九百四拾萬噸

但水準上ノ良炭並水準下五百尺マテ将来堀採シ得ヘキ
良炭ノ總額トス

空知煤田

炭量貳億萬噸

但測量区域内海面上ニ在ルモノ壹億萬噸海面下五百

尺マテノ量ニ尚志億萬噸トス其測量區域外ニ係ル
モノハ必ス此數倍ナルヘシ

室蘭空知間ノ鉄道ヲ利用シ得ヘキ山林

面積貳拾億貳千三百六拾五萬坪

此及別六拾七万四千五百五拾町歩
林木凡貳千貳拾万石餘

但空知方面ノ山林面積四拾九万千貳百四拾三町馬追山四千
百四拾七町千歳室蘭ノ間拾七万九千百六拾町歩ニシテ林木
ハ尙及歩平均三石ノ割ヲ以テ算出セリ

別紙ハ帝御道ニ於テ麻類紡織起業致度ニ付及リ
自同自答ヲ設テ御參考ノ為ノ御一覽迄、指出置
キ其尚其他ノ調書等ハ迄ニ可指出及勿論是ハ章
稿ノ儘ニ御坐及故御岳讀奉願及以上

明治二十年一月九日

吉田健作

堀北海道廳理事官貴下

御史

明治二十年一月九日
吉田健作
御坐及故御岳讀奉願及以上

問 製衣造業ノ起立ヲ以テ最モ今日ノ急務トスルモノ果シテ何等ノ故カ

答 製衣造業サヘ起立スレハ間接ニ農高業モ共ニ振ヒ又間接ト直接ト多クノ人民ヲ働セ得ルカ故ナリ

問 製衣造業起立スレハ何故ニ間接ニ農高業共ニ振起スルヲ得ルモノカ

答 農者ハ其原料ヲ耕種シ高者ハ其ノ製衣品ノ賣買買ニ從事シ得ルカ故ナリ

問 製造業起立スレハ其ノ直接ニ人民ヲ働セ得ルコトハ論ナキコトナカラ其ノ間接ニ人民ヲ働セ得ルトハ何等ノ譯カ

答 其ノ工場ニ從事スル人民即職工等ノ衣食住ノ為ノ又多クノ人民ニ業務ヲ得セシムル故ナリ

問 然ラハ何種ノ製衣造業ヲ起立スルヲ以テ最モ今日ノ急務トナスカ

務トナスカ

答 麻類紡織業ノ起立コト最モ今日ノ必要トスルモノナリ

問 何故ニ麻類紡織業ノ起立ヲ以テ最モ今日ノ必要トナスモノカ

答 目下麻類ノ製衣品其ノ消費甚タ多ク且ツ將來益其ノ消費ノ増殖スル実況アル故ナリ

問 其ノ麻類紡織業ハ既ニ江州大津ニ起立セシニアラスヤ又起立シテ其ノ製衣品ノ販路ハ如何カ乎

答 大津工場ノ製衣品ハ寔ニ幾カコレテ其ノ上彼ノ工場ニテハ精品ハ製衣出シ能ハサルナリ

問 現今麻類製衣品ニテ其粗物ノ用途ハ大ナレバ其ノ精品ノ用途ハ如何ノモノカ

各其精品ノ用途モ亦實ニ宏大ナルモノニテ既ニ其ノ
企望者モ多クアルモノナリ

問今其精品ヲ製出セシトスルハ矢張り從來ノ麻ニテ其ノ原
料ハヨキモノカ

答從來ノ麻ニテ先ツ收帳位迄ラ止リトスレ故其上ノ精
品ハ苧麻亞麻適用ユルモノナリ

問然ラ其ノ原料ハ從來ノ苧麻ニテ充分ナリヤ又ハ亞麻ノ
耕種モ始メ子ハナラヌモノカ

答然リ亞麻ノ耕種ハ早晚是非トモ本邦ニ其ノ耕種
ヲ始メ子ハナラヌ有益ナル植物ナリ

問然ラ其亞麻ハ如何ナル氣候ニ適シ且ツ其ノ耕種法ハ
六ヶ敷キモノカ

答否然ラス麻ノ耕種法ト大同小異ニシテ能ク寒地

ニ適シ其剥皮業ハ麻ヨリ容易ナルモノナリ

問然ラ其ノ麻類紡織起業地ハ何処ヲ以テ且取モ適當ト
ナスモノカ

答北海道ヲ以テ且取モ其ノ適當ナル地トスルニ既ニ公
衆ノ許ス所ナリ

問何故ニ北海道ヲ以テ麻類紡織起業ニ最モ適當地ト
公衆ハ許セシカ

答北海道ノ開拓ハ最モ本邦ノ一大杞要ナルカ故テ此
ノ業ヲ起スモ亦大ニ其ノ殖民上ニ便益ヲ興フル
故ナリ

問何故ニ此ノ起業モ亦大ニ殖民上ニ便益ヲ興フル事トナスモノカ

答此ノ起業ノ為メニ多クノ人民ニ生計ヲ得セシム即チ
其ノ職ユナリ農者ナリ且ツ夫レニ附帯ノ仕事迄共

北洋通商

ニ起立スル故ナリ

問 夫レ等ハ皆其ノ製造業起立ニ拠テ間接ニ便益ヲ起スモノナリ其ノ起業ニ付キ直接ノ便否ハ如何カ

答 北海道ニ石炭アリ其上其ノ原料タル麻亞麻ノ耕種ニ適當ノ土地ナル故其ノ直接ニ前途有為ノ地歟ナル故ナリ

問 何ヲ以テ北海道ハ麻亞麻ノ耕種ニ適當ナル土地トナセシモノカ

答 北海道ノ氣候ハ寒時長リ暑時短リ其上多年ノ腐草地中有機物質ヲ多ク含ムヲ以テ需茎植物即麻類ニ最モ適當ノ地味ナリ

問 然ラハ今北海道ニ麻類紡織業ヲ起立スルトセハ其ノ組織ノ大体ハ如何カ

答 成ベク其計畫ヲ大ニシテ其組織ハ精粗両品ヲ製出スルヲ以テ目的トナスヲ要用ナリ

問 何故ニ其ノ計畫ヲ大ニセザハナラヌモノカ

答 北海道ニ起立スル麻類紡織業ハ他日東洋麻類製成品販路ノ全權ヲ占ムルノ用意ヲ其ノ起業ノ始ニ考ヘ置カザハナラヌ故ナリ

問 然ラハ其ノ起業ヲ謀ルニ方ラハ先ツ幾許ノ資本ヲ備フルモノト心算シテヨロシキカ

答 先ツ其ノ起業費及ヒ今年ノ營業費且ツ其ノ附帯ノ事業費トモシテ凡四五拾万四ト心算シテ然ルベキナリ

問 今仮リニ資本金五拾万四ヲ以テ起業スルトシテ其ノ營業上直接ノ損益ハ如何ノモノカ

答 既ニ大津工場ノ实例ニテ諸事救正頃ノ上ハ利益ノ

上海通商

北洋通商

目的充分アルモノナリ

問其ノ起業ニ於テ外人ノ雇役ハ必要アラザルモノカ

答甚タ必要ナリ其ノ外人ヲ雇役スルハ却テ經濟上大

ニ利益アルモノナリ

問然ラハ如何ナル人物ヲ用ヒ幾人雇役シテ何ヶ月滞在シ

要スルカ

答其ノ人物ハ老練ナル職工ニシテ先ツ四人ヲ雇ヒ滿一ヶ年

位ニテ然ルベキナリ

問其四人ノ職工ハ未朝ノ上如何ナル都合ニ事業ヲ分擔スル

モノカ

答吾人ハ蒸氣機走人ハ紡績機走人ハ制衣織機ニ從事外

吾人ハ麻及ヒ亜麻ノ耕種ヨリ其剥皮業ニ從事

スルモノニシテ皆ナ指揮者ナリ

問然ラハ北海道中麻類紡織業ヲ起立スルニ最モ必適

ナル場所ハ何レト認ルカ

答先ツ一大平地ニシテ石炭産地ニ近ク水陸運搬ニ

便利ナル地形ニシテ他日一大制衣造都府ト成シ

得ベキ所處ヲ要スルナリ

問麻類紡織業ノ起立スルニ於テ他日其ノ地ノ一大制衣造

都府ト成シ得ルモノカ

答先ツ主幹ノ大工場ヲ起立スレハ夫レニ附帯ノ各種

ノ事業起立スルモノニテ彼ノ英ノマンチエスデール府

又ハ佛ノリール府ノ如キナリ

問一大制衣造都府ノ出現ヲ前途ニ望ムハトテ格別ノ大平

地ハ要セヌテハナキカ

答其ノ制衣造都府外ハ將來其ノ都府ノ為メニ漸

北海道

次大農場ヲ成シ得ベキ目的ヲ見故ナリ
 固然ラ其ノ麻類紡織業起立スルノ付キテ法方ニテ其
 ノ豫算且ツハ起業ノ着手順序ノ如キハ如何ナルモノカ
 答夫レ等ノ事ハ最モ精密ニ調査セテハナラヌ事故
 他日ノ事ニ致度モノナリ

主水園兼環桑園之規定書



此日兵部
 州
 州
 州

次大農場ヲ成シ得ベキ目的ヲ以テ

主水園兼環桑園之規定書

- 第一條 主水園ハ香取新之助香取昭平香取修平香取任平カ所有ノ水田ヲ管理シ專ラ改良ヲ主トシ而テ我國水田一般ノ模範ヲ立ントスル所トス
- 第二條 環桑園ハ香取文子カ所有ノ陸田ヲ管理シ桑樹ヲ培養シ養蠶ヲ主トシ併セテ松杉等ノ苗樹ヲ仕立ツル所トス
- 第三條 主水園及同園ニ屬スル財產ハ香取昭平ノ所有ニシテ環桑園及同園ニ屬スル財產ハ香取文子ノ所有タリ
- 第四條 香取昭平香取修平香取文子香取任平ハ孰レモ一戸ノ戸主タリト雖モ皆幼年ノモノニ付目下差向ノ處即チ追テ夫々後見人ヲ定ムル迄ハ其實父タル香取新之助之レカ後見ヲナシ兩園一切ノ業務ヲ主宰スルモノトス
- 第五條 香取新之助ハ第四條ニ因リ兩園一切ノ業務ヲ主宰スト雖モ公然ノ官職ヲ奉スルヲ以テ不在中支配人ヲ置キ別ニ條件ヲ定メテ代理ヲナサシム
- 第六條 前條ノ支配人ハ園主ノ指圖ヲ受ケ又ハ諸雇人ヲ使用シ其執務一般ニ對シ責任アルモノトス
- 第七條 雇人ハ園主又ハ支配人ノ指圖ヲ受ケ各々受持ノ業務ヲ克ク誠實善良ニ丹精スルヲ要ス

次大農場ヲ成シ得ベキ目的ヲ成ス

第八條 雇人ノ内ヨリ庶務ヲ兼ヌルモノ一人ヲ置キ諸品買入其他注文等一般ノ雜務ヲ受持タシム

第九條 臨時書記ノ必要アル時ハ園主又ハ支配人ニ於テ之ヲ雇ヒ諸般ノ証書ヲ調製シ諸簿記ヲ管理シ且正當ニ記入シ又ハ常雇人ニ属スル事務ヲ補助セシムルコトアルモノトス

第十條 支配人以下日常執務日誌又ハ証書ニ連署シ其他認印ヲナシタルモノハ皆他日其責ニ任スヘキ事

第十一條 小作米ノ格及小作出金ノ高ヲ定メ小作地ノ引上ケ小作不納者ヲ裁判所ニ訴フル等ノ事ハ皆必ス園主ノ自カラ決定スルモノトス

第十二條 小作米ノ取立及出金ノ領取其他現金及現物ヲ取立ツルコトハ必ス環桑園内ニ於テ取扱フヘキモノトス若園外ニ於テ爲シタル時ハ不正ノ取扱トシ當園ハ一切關係セサルモノトス又臨時他ヨリ金穀物件ヲ時借スト雖支配人及會計ニ於テ認諾シ且日誌ニ借入レノ要件及金額物數ヲ明記シテ支出セシモノ、外ハ一切當園ノ關係ナキモノトス

第十三條 不得止場合ニ於テ兩園ノ或ル部分ヲ貸與スルハ園主ノ指圖ヲ受ケ之ヲ貸與シ農具等ノ如キ全ク臨時短期ノ貸與ハ支配人ニ於テ爲スコトヲ得ルモ雇人ニハ決シテ許サズルモノトス

第十四條 兩園ノ會計員ハ雇人ノ内園主ノ殊ニ命スルモノヲ以テ之ニ充テ現金及物品収支ノ事ヲ取扱ハシムルト雖モ一己獨斷ヲ以テ支拂フコトヲ許サズ但シ現金ノ出納管理ハ一切園主又ハ支配人ノ指圖ニ隨フヘシ

第十五條 金錢ノ出入ハ其出入セシ即日必ス日誌ニ記入シ支配人ノ印ヲ受ケ各自勝手ニ所持スルコトヲ許サズ又諸買物ハ假令些細ノコト雖モ可成受取書或ハ判取帳ニ記載セシメテ判ヲ取ルヘシ

但シ受取又ハ判取帳ニ記載セシムルコト能ハサルモノハ此限ニアラス
第十六條 兩園諸事ノ事件ヲ處理スルニ付テハ園主ノ指圖ヲ受クル間合ナキ即チ法律上避クヘカラサル急要件ノ生シタル場合ノ爲メ兩園從前ヨリノ習慣ニ隨ヒ尙今后モ白紙ノ委任狀ヲ支配人ニ交附シ置キ臨時ノ必要ニ用ヒシムルコトアルベシ

但シ此白紙委任狀ヲ以テハ如何ナル場合ト雖明確ナル園主ノ委任ナクシテ兩園一切ノ所有財産ヲ賣買シ又質入書入等權利義務ニ關スル契約ヲ爲スコトハ委任セサルモノトス

第十七條 兩園諸般ノ印形及小作出金預リ証書又ハ小作米受取證書ハ之ヲ支配人ニ交附シ置クモノトス故ニ正當ノ方法ニ因リ公然ノ帳簿ニ記載シ其掛員一同ノ連署ヲ以テ証書及金穀物件ヲ受授スルモノトス故ニ若シ其手續ニ

次大農場ヲ成シ得ベキ目的ヲ見テ

因ラスシテ取扱ヒタル契約等ハ一切當園ニ對シテハ無効トス

第十八條 金錢ノ出入アリタル日ハ日記ニ記入シタル後支配人ノ認印ヲ受ケ

且園主ニ速報スルト同時ニ金錢出納報告書ニ登錄シ園主ニ報告スルモノト
ス若支配人不在ノ時ハ他ノ雇人ノ内一人之ニ認印ヲナスベシ

第十九條 當園ニ從事スル支配人以下ノ業務ハ毎日必ス日誌ニ精細明確ニ記
載シテ園主不在中苟モ怠慢不實ノコトナキヲ要ス

第二十條 支配人及二ヶ年以上勤務ノ雇人又ハ園主ノ採用シタル雇人ハ園主
自カラ之ヲ解雇シ其他一年以内ノ定メヲ以テ雇入レタル雇人ハ支配人ニ於
テ雇入レ又ハ解雇スルモノトス

第二十一條 園主ハ殊ニ會計員及庶務員ヲ定ムト雖モ或ハ一ヶ月毎ニ其担当
ヲ交替セシムルコトアルベシ

第二十二條 支配人以下ハ假令如何ナル事アルモ決シテ當園内密ノ事ヲ他言
シ又ハ公然差支ナキ事ト雖モ可成園内ノ事ハ他言セサル様心掛ヘク事

第二十三條 支配人及雇人ハ必ス日出前ニ起キ午後十時后ニ臥スルモノトス

第二十四條 園内ニ於テ無故酒宴ヲ爲シ又ハ他家ニ宿泊スルコトヲ許サス

第二十五條 支配人以下諸雇人之給金ハ年給又ハ月給ニ定ムト雖モ私事又ハ
病氣等ノ故ヲ以テ欠勤スルモノハ其欠勤日數ニ應シ日割ヲ以テ扣除スルモ

ノトス

第二十六條 兩園ノ用務ヲ以テ十里以外ノ地ニ出ツル時ハ支配人ハ園主諸雇
人ハ支配人ノ許可ヲ受クベシ若シ無斷他出シタルモノハ其情狀ニ因リ費用

ハ勿論他出欠勤ノ日ハ給金ヲモ給セサルコトアルベシ

第二十七條 支配人以下諸雇人ハ無據コアル日ハ何時ニテモ解雇ヲ請フコトヲ
得又園主ヨリモ不得止時ハ何時ニテモ解雇ヲ命スルモ故障スルコトヲ得サル
モノトス

第二十八條 當園ニ於テハ從來ノ習慣ニ因リテ支配人以下諸雇人ハ當園ノ利
害損益ニ關スベキ事ニシテ當園ニ於テ爲ス事業ト同様ノ事ヲ爲スコトヲ得サ
ルモノトス

第二十九條 支配人以下當園ノ諸雇人ハ前條ノ約束ヲ違反シ又ハ何事ニヨラ
ス不都合ノ仕向ヲ爲シタル日ハ輕キハ當園ノ表札ニ掲載シ重キハ新聞ニ其
事實ヲ廣告シテ迷惑ヲ避クルノ方法ヲナスコトアルモ之レニ對シテ決シテ異
議故障ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第三十條 此規定ハ園主及支配人以下一般兩園ノ事務ヲ採ルモノニ對シ効
力アルモノナルヲ以テ一同連署スヘキモノトス
但シ新ニ雇入レタルモノハ其當時之レニ証印スベシ

次大農萬ヲ成シ得ベキ目的ヲ見汝ナリ

明治廿五年二月

主水園兼環桑園主

香取新之助



石屋作
長太郎

次大農高ヲ成シ得ベキ目的ヲ見放ナリ

此日長官
御座候



農馬賣渡及代金貸附告示書

于城タル諸軍士ノ注意ヲモ宗教ニ引キ申度ニ付
本願書進呈スルニ至リタル儀ニ御座候

次大農場ヲ成シ得ベキ目的ヲ示ス

農馬賣渡及代金貸附規則

- 一 當會社ニ於テ農用ヲ第一トシ又馬車用ヲ第二トシ
與羽産精選無疵ノ二歲駒及三歲以上ノ牝牡馬賣渡
又ハ賣渡代金ヲ貸附候事
- 一 代價ハ正札附ニ付一厘タリトモ掛引無之事
- 一 賣渡ハ現金トシ其代金貸附方法ハ當金其馬代金三
分ノ一以上ヲ受取殘金ハ年賦トスベシ
- 一 現金ニ買フ者及確實ナル地所及家屋等登記ヲ要ス
ルモノヲ抵當トシテ此馬代金ヲ借用スル者ニハ正
札定價ノ一割引トス
- 一 貸附金ノ拂込期日ハ一ケ年内ニ於テ兩度トス
- 一 當社ハ資金ヲ都合ニ依リ或ハ此貸附金主ハ確實ナ
ル人ノ資金ヲ用ヒ即其本人ノ名義ヲ以テ此代金ヲ
貸附ルコトアルベシ但此場合ニ於テ右本人ノ依頼ア

- ル時ハ其取立方ハ當社ニ於テ擔當スルコトアルベ
シ
- 一 貸附金ノ利息ハ年一割五歩以内トス
- 一 貸附金ノ抵當物ハ田畑宅地又ハ其他ノ物件トス若
シ其物件ナキ者ハ當方ニ於テ必用トスル物件所有
者ノ受人アルモノトス但抵當物ノ價格ハ假令ハ貸
附金拾圓ナレバ當時實地賣買直段拾五圓以上ノ割
合トス
- 一 貸附金ノ證書ハ地所及家屋等登記ヲ要スル抵當ノ
外他ノ物件ヲ抵當トスル者ニ對シテハ二人以上ノ
連借人又ハ受人ヲ要ス但一人ニシテ三人以上ノ連
借又ハ受人タルコト得ス
- 一 賣渡及貸附共其約定取極リタル節ハ手附金トシテ
其馬代金ノ五分ノ一以上ヲ受取置候事

于城タル諸軍士ノ注意ヲモ宗教ニ引キ申度ニ付
本願書進呈スルニ至リタル儀ニ御座候

次大農馬ヲ成シ得ベキ目的ヲ成ス

- 一 兩相門又ハかみなか等買受人ノ嫌フベキ毛卷ナキモノ俱ニ審査精選ノ上賣渡スベシ
- 一 老牛馬又ハ不具ニシテ使用ニ堪ヘサルモノハ壹頭貳圓内外ノ代價ヲ以テ買入又ハ賣渡代金又ハ貸附代金ノ下タ馬ニ取ルコアルベシ但傳染病ハ勿論其他疾病ニ罹リ居ルモノハ謝絶スベシ
- 一 以上ノ外尙委細ノ儀ハ當會社ノ役員或ハ其地方ノ世話人ニ御承合可被成候事
- 一 賣渡及貸附場所及其月日ハ時々告示可仕候事
- 一 本社ハ勿論世話人其他馬見等ノ者ニ對シ賣方買方雙方ヨリ手数料及禮金等何等ノ名義ニ拘ハラス一切差出不申事

右之通ニ候事

明治廿五年一月 日

本社 合名農馬會社

東京市橋區西船場町二十六番地 秀英會 印行

出張講義所設置御認可願

自分儀兼テ政教二者ハ全ク相混ス可ラサルモノナルニ付テハ必ス至密ナル關係ヲ有スヘキモト信居候如果シテ憲法第廿七條ヲ拜讀シ奉ルニ放任ノ御主意ニハアラサレハ何ノ教ニ論ナク國安ニ妨ケナキモノヲ精撰ススヘシトノ儀ニ解居候隨テ先ツ人ノ瞻ル所トナリ做フ所トナラレ、位地ニ在ル人々ニハ最モ注意セラレ度キモノト存セシヨリ是マテ上流ニ在ラレ、方々ノ注意ヲ宗教ニ引クニ勉勵致居矣得共今般歩ヲ進メ國家于城タル諸軍士ノ注意ヲモ宗教ニ引キ申度ニ付本願書進呈スルニ至リタル儀ニ御座候

夫國家人民ト教法信者トハ二種ナルニ非ス國家
人民ハ即チ教法信者トシテ教法信者ハ即國家人
民ナリ故ニ信教ノ如何ハ國家ト影響ヲ及ホス
勿論ニシテ而シテ其影響ハ心灵上ニ及スヘキモノ
ナルヲ以テ他ノモノ、及ス所ニ比スレハ最モ安
危ニ係ルモノトス

今北海道ニ行ハル、所ノ宗教ハ耶蘇正教耶蘇舊
教耶蘇新教諸派及佛教諸派是ナリ而シテ佛教ハ古
ヨリ政府ニ依テ興廢ヲ圖リ来ルモノナルヲ以テ
已レニ関スル利害ノ如何ニ由テハ或ハ皇帝ヲ弑
シ或ハ將府ニ抗セリ且今參政權ヲ得ントスルノ
建白スル杯案ニ少モ耻ヲ顧ミカレハ或一方ヨリ
之ヲ見ルキハ甚々危峻ナルモノ、如クサレトモ又

或一方ヨリ之ヲ見レハ曉天ノ星光將ニ消シト
スルカ如ク窮鳥ノ哀鳴將ニ死セントスルカ如
シ現時百方狂奔其策ヲ行ハントスルモ更ニ齒
牙ニ懸クルニ足ラサルナリ唯耶蘇教ノ三派ハ
信者至テ少シト虽モ真理ノ彈丸ヲ以テ闇昧ヲ
抗撃スル一夜ノ將ニ明ケントスル如ク萌芽ノ
將ニ斃セントスルカ如シ其國事ニ關係ノ如何
ニ至テハ今ヨリ注意スルニアラスハ臍ヲ嚙
ムノ憂アラシクテ恐ル、ナリ是江湖傳誦スル
所ナルモ所謂雷同ナルモノニシテ其評多クハ
虚想ニ由ル自分ノ如キハ則チ實歴ニ就テ其生
實ト結果トヲ畧述シ現今彼等カ我カ日本ニ技
植シアル所ノ勢カ、抑テ鄙見ヲ述ヘ以テ之ヲ

評セントス

抑モ耶蘇教ハ天啓教ニシテ其教義ハ「神自己ノ事」
神ト物トノ關係及「神ト人間トノ關係」等高尚ノ真理
ヲ説キ以テ社會發達ノ進路ヲ示シ終ニ罪障ヲ淨メ
テ善報ヲ受クヘキ至妙ノ奧義ヲ與ヘ廢レタルヲ興
シ絶ヘタルヲツキ死者ヲ活シテ樂園ニ遊ハシムル
純然タル宗教ナレハ原ト彼此ノ別ナカリキ其後口
マノ「バ」推テ擅ニセント欲シ獨立シテロマ教ヲ創
立シ而耶蘇教ノ名ヲ潛ス於是乎正統ナル耶蘇教ニ
耶蘇正教ノ名起レリ
ロマノ「バ」一タヒ正教會ヲ離レテヨリ漸ク神恩
ノ棄ル所トナリ耶蘇ハ温順ニシテ有司ノ前ニ立テ
泰然トシテ苦難ヲ受ケ以テ基礎ヲ据ヘラレタル教

會ノ良風ハ忽急トシテ消滅シ益々權利ヲ擅ニ
シテ全ク国王ヲ蔑ニシ遂ニ親シク于戈ノ權ヲ
掌握スルニ至レリ彼ノ政重ノ間ニ拏テ血ニ漂
ハシタル十字軍ノ如キハ皆其所為ナリ其他彼
ラノ擅横拳テ數フ可ラス其醜汗名状ス可ラカ
ルモノアリ嗚呼全能公義ノ神如何ゾ彼ヲ罰セ
カランヤ虚目ヲ閉テ其徒トナリ居ルモノ亦憐
ムヘシ尔后其擅横ヲ惡ミ彼ヨリ分離セルモノ
ハ耶蘇新教ナリ亦耶蘇教ノ名ヲ潛ス新教分レ
テヨリロマ教ニ舊教ノ名起レリ
慾胎ラレテハ必ス罪ヲ生ム子ノ親ニ肖ル丁如
何ゾ免カルヘケンヤ夫レ地上ノ權ヲ執ラント
シテ神ヲ捨テタル不孝ナル舊教ガ産ミタル所

ノ新教ハ如何ナル生質ナルヤ其親ナル舊教ヲ惡ム
一讐敵ノ如シト虽此教義ノ破レハ旧教ト略類シ神
自己ノ「」及「神」ト物トノ關係又ハ神ト人間トノ關係
等高尚ノ教ニ至リテハ其破レ旧教ヨリ甚シキモノ
アリ而其国事ニ關係スル「」ハ旧教ト趣ヲ異ニスレ
氏其主義ヲ政治上ニ施サントスルニ至テハ舊教ト
亦タ同シ故ヲ以テ其關係ノ如何ニ由テハ亦タ于戈
ニ訥フルヲ耻ナズ歐洲ニ於テ有名ナル三十年間ノ
戦争ハ彼等ノ耻ナキニ原因セルモノナリ不規律ナ
ル新教分レテ數派トナル其數擧テ數フヘカラス是
以上三派ノ生質ニ從テ結ヘル實歴ナリ
此三派カ北海道ニ在テ布教セル手段ヲ視ルニ先ツ
旧教ハ百方虚説ヲ設ケ他宗ヲ讒レ空切ニ信徒ヲ集ム

又新教ハ外貝ノ飾ヲ餌シテ人ヲ迷信ニ陥レン
トスル「」恰モ草花ヲ小兒ニ與ヘテ黄金ヲ奪ハ
ントスルモノ、如シ唯正教ハ教ユルニ散テ術
策ヲ用ヘス就ク者ノ為ニ喜ヒ去ルモノ猶ホ之
ヲ仰ク是ハ是トシ非ハ非トシテ少しモ真理ニ
違フ「」ナシ其然ル所以三派ノ衆ヲ得ル遲速多
少ノミヲ見テ猶ホ知得ヘキモノアリ
自分空切ニ憂フル所ノモノ新教ト舊教トノ無智ニ
シテ國家ニ對スル「」ヲ知ラサル是ナリ自分曾テ
旧教ノ教師ノ討論ノ未ヘ彼レニ問テ曰ク我カ天
皇陛下若旧教ヲ奉セハ「」ニ國ヲ致スヘキカト
彼曰國民奉ケテ教ヲ奉センニハ國ヲ教皇陛下(「」)
ニ致スヘキハ勿論ナリ是以テ國王ハ教皇陛下ノ降

福ヲ得テ推始メテ定ルナリト又問フテ曰国王ハ國
ヲハバ^リ致サハルヲ以テ乱ニ及ババ子ハ誰ニ向
テ于戈ヲ執ルヤト彼曰王ニ聽ク^ル神ニ勝ルヘケン
ヤト於是自分ハ地ニ唾シテ天ヲ仰テ彼等ノ迷夢破
醒ノ日速クニ至ラント^トヲ祈禱シテ去レリ然レモ彼
モ亦々實地ニ臨ミタラシニハ于戈ヲ倒シテ王師
ニ向フ^ルハ断シテ能クセサルヘク且復令ヒ彼ニ聽
カシムルモ日本人タル限りハヨモヤ此ノ如ク迷ニ
沈ミ大事ヲナスニ至ラサルハ信シテ疑ハサル所ナ
リ特ニ新教毒世人注意セサル^ル間釀成シ潰裂四
出拾収スヘカラサルニ至ラント^トヲ恐ル^ルナリ
新教ハ其教義ノ愛ヲ以テ一ト為スハ序ニ由テ成リ
シモノナルヲ知ラ^ス婦人ハ狡智^{ナリ}ナラシメ人民ハ不

順ナラシム且ツ彼ハ神ヲ信スルノ風ヲ失ヒ党ヲ樹
テ、勢カヲ張り已レ^ル志想ヲ政治上ニ行ハントス
ルノ幣アリ此事既ニ我北海ニモ萌芽ヲ顯ハセリ則
チ其徒發起シテ同志者ヲ募リ耶蘇教公許ノ建言ヲ為
シ今年ハ又其徒ノ婦人ヲ曾テ設置スル所^ノ會名ヲ
肩書ト^シ臆テ發起シテ護成者ヲ集ノ一夫一婦云々
ノ建言ヲ為セリ夫レ事ノ美ハ目的ノ美タルノミヲ以
テ称スヘカラス則チ常ノ心トスル所ヲ以テ称スヘキ
ナリ露國虚無党ノ目的ノ如キハ悉ク惡ナラサルノミ
ナラス至テ美ナルモノアルナリ然レモ之ヲ成サントス
ル情ニ制セラレテ社會ノ程度神恩ノ熟ニ熟セルヲ俟フ
能ハス遂ニ無残ナル室咲ヲナカシメントスルヨリ憐ム
ヘシ鮮血ニ染ミタル紅花ヲ地ニ滿タカントスルコアラ

スヤ新教徒ノ無智ニシテ看ミサルヲ慨歎ノ堪ヘサル
ナリ
然而彼ラ已レテ以テ他ヲ量リ日本正教會ヲ以テ露國政
府ニ關係アルモノ、如クニ言ヒナシ世人ヲシテ神ノ真
理ヲ聞クヲ厭ハシメント欲ス實ニ恐ラ知ラカルモノト謂
フヘシ若シ此不忠ナル宗旨ノ強々旺カンナリテ國家
于城タル諸軍士ニモ傳播スルニ至ラシニハ三千年確立
セル大日本帝國ノ状況モ如何ニ變更ヒンモ亦々測カレ
ヘカラス是自分ノ竊ニ杞憂ヲ抱ク所ナリ嗚呼靈魂ハ
肉體ニ制セラレ婦人ハ推テ夫ノ上ニ執リ人民ハ
皇帝ヲ蔑ニスルニ至ラハ之ヲ亡ヒタリト謂ハスレテ何
ヤ
今屯田兵ニ余令スルノ權ハ閣下ニ在リ而自分ハ光明ノ真

理ヲ以テ世ヲ照スヲ以テ任スルナリ乃々閣下、御認可
ヲ得各地屯田ニ出張所ヲ設ケ以テ諸軍士ノ注意ヲ宗教
ニ引カント欲ス願クハ速クニ御採可アラシテ個所及
定日ノ儀ハ御採可ノ上御届可申上候也

明治三年七月十八日
札幌區南一条西二丁目十七番地寄當
耶蘇正教傳教者 小田島房次郎

屯田本部長永山武四郎殿

陳情書

Blank page with red vertical lines for writing.

Small red and black text on the right edge of the page, likely a library stamp or collection mark.

陳情書

廿四年十月。

和日村第志中深言世徳代
常委員中川荒作
村舎長杉山七三郎

中田兼第實際長得柄内元吉殿

兼う私共一人令にれ多昔村定況農業一方にてハ
生計難相立一年一年ヨリ獲弊レ今已ニ尾
解ノ要ニ立至リ之カ救済ノ副業日夜講究

スルモ未タ以テ案出スル斗アラズ茲ニ今般閣
下ノ御親臨ニ際シ尊客ニ欲スレ親シク御
挨拶ヲ受クニ當リ藏シテ言フ無ク黙々返
迎シ且ツ外觀ヲ虚飾シテ以テ聰明ヲ欺罔シ
奉ルガ如キアラハ不敬焉ヨリ大ナル無シ茲ニ
謹テ御前ニ開陳仕度奉存可然所取
成被下度奉テ願也

右案スルニ私共従来生計困窮ニ其原由ニ
シテ是ラスト雖モ其前途維持ヲ致原因ニ之ヲ

要スルニ當村ノ位置天候地勢ノ然ラレモ
有リテ軍ニ農業一方ニテハ存立更ニ副業
ヲ(一致團體去就出入ヲ便ニ可キモノ)記シテ
相支持シ以テ生計完全ヲ謀ラザル可ラス斗
謂テ天候地勢ノ然ラレトモ其地形抗ケルヤ
本道東並ノ偏隅ニ在リテ遠ク海中ニ斗先
左顧右盼皆渺々其間相距ル僅カニ數
町ニ過キス一望平坦垠キルニ山嶽ナシ是則
沙嘴半島也且ツ尾斯莖登ノ衝ニ當ル故ニ

風害尾斯害萬古熄ヒナカル可シ其天候
於ケルヤ寒威最モ強リ其来ルヤ甚タ早ク其
往クヤ甚タ晚シ暖氣之ニ及ス而シ其暖氣
中大率尾斯濃ク中ニ埋没シテ其徴數ヲ
受クルモノトス是レ私共カ十九年移住以來ノ
實候ニ徴スルモノ也四月中旬稍融和ヲ呈
シ土用後下種ニ好シ此時ヤ融暖ハ益融暖
ナラサル可ラス而シ五月ニ至リ尾斯漸ク衰シ逐
日益甚シ身歌ニ花笑フノ好時節融暖及テ

寒却シ乍ナ陰乍テ晴乍テ暖乍テ寒乍テ前
ニ薄衣ヲ着スルハ則チ午下ニ重襲ヲ為サル
ヲ得ス其植物ニ於ケルヤ葉縮ミ色退キ殆ト
車風ヲ怨ムモノ、如シ其月末時アリテ霜
降ヲ觀ル六月七月ニ至リ瘴雨務益濃ク五重
霧中ニ在リ陰晴寒温之ニ伴フ若シ夫レ此文
時雨アリ洗フカ如ク恒風アリ拭フカ如クナラハ何ノ
被害カ之レ有之(或ハ曰ク此尚梅雨濕礎ノ季節
アリト曰ク然リ然ラハ則チ土用如燬ヲ與ヘテ相代謝

セサル可ラス之レナキハ何如シ而ルニ然ラズ日夜蒸溽
雨ナク風ナシ此際植物ヲ害スル甚タレク小麦ノ
如キ最モ甚タレ(小麦ハ秋蔣ヲ云)農作ノ至
眼秋蔣小麦ヲ第一トスルモ已ニ寒氣ニ傷ラレ
テ半消失シ又瓦斯ニ鬱怒セラテ爲ノニ(ハシテ)
ヲ生シ中道ニ枯死シ殆ント終老ヲ告グル能ハス
稀ニ登熟スルモ年々比例シテ後シ八月亦然リ
然ラハ則チハ熱如燬ノ候稀ニ天日ヲ覩ルカ如
キアラハ何ヲ以テ禾稼登熟ヲ望ム可ニ故ニ一年

汗血ノ農作大率チ徴敗ニ属シ成熟ヲ爲ス
能ハス(麻ノ如キハ斤量至テ尠ク彈力弱クテ品
質劣等又凡ニ吹折セラレ時ナラサルニ枯死ヲ見
ル到底収支相償ハサルモノハ亦天候地勢ニ隔セ
サルヲ得ス)独リ地上ニ擢出スルモノ然リト爲スニア
ラズ地中ニ入ルモノ亦然リ馬鈴薯ノ如キハ瘴
雨調蒸溽ノ際之ニ中傷シ葉幹稍枯死シ種子
從テ小且ツサナシ其凡候ニ至テハ病脊及西風
不時暴發シ秋成ノ際尤モ甚タレク禾稼爲ノ

ニ枯死シ特ニ優靡而已ナラス米等テ蕩盡スルモノ
有リ(蕎麥ノ如キハ麥ニ並ク重要穀物ナルモ凡害
ノ為ノ年々登熟ヲ見難シ)然ラハ則テ皆兵村ノ
農作天候地勢ノ然ラシムモノ有リテ奈何ニ氷ヲ
破リ背ヲ暴ラスモ收穫之ニ伴ハス故ニ断シテ薄
收ノ地ト言ハサル可ラス司令部亦茲ニ見ラレ、舟口
有ル宇牧場ノ恩典アリ然リト雖モ此事業宏
大ニシテ收支容易ナラス仮令ニ利益ヲ見ルモ學
校也病院也其他一村公共ノ次買産ニ供シ且ツ

事業ヲ興起セサル可ラス(固ヨリ日用衣食ニ算入
ス可キモノニ非ス)夫レ既ニ薄收ノ積年一年ヨリ甚クシ
ク今ハ積テ六年ニ至ル貧困積極殆ト瓦解ニ至ル是
ニ於テ予子父ヲ哀テ、養ハサルモノアリ妻夫ヲ怨ミテ
顧ミサルモノアリ甚クシキハ則テ子女ヲ賣ルニ至ル(賣ルノ言
甚ク酷ト雖モ子女ヲ根室ニ奉公ニ遣ル只給料多ク
之レ論ス之レ賣ルニ非シテ何ソ)又出テ、奴隸ト為ルモノ
アリ一戸拳ヲ逃セズルモノアリ(一村生計稍給足ノ者ア
リ然レモ此レ一二ニシテ其家素封ナル者又馬ヲ借リテ運搬ニ

従フモノ也素封何ソ論セシ其馬追ナル者需用供給
程度アリ毎戸出シ之ニ倣フ可ケンヤ若シ夫レ薄收
衣食給ラス衣食足ラズニ則テ仰事俯畜其レ
將タ何クニ資ラン其茨子家逃セノ如キハ姑ク論セス
其出テ奴隸タルカ如キハ此輩往々出稼ト稱シ海産
場斗ニ雇役セラレ衣食ヲ其分賃ニ取ル若シ検閲
使来ラント聞ケハ還テ家屋ヲ掃除シ田圃ヲ栽培シ
外觀タル可キアラシム検閲畢レハ輒テ去テ故ノ如シ是
レ出テ奴隸タル者ニ非スヤ此田兵ノ体面果シテ何クニカ在

斯ノ如キモノ戸々甚タ多キ也又根室市ニ出ラ、種
々ノ事ニ従フモノアリ概シテ芳等ノ事也故ニ市民ノ
屯田ヲ視ル茂如亦甚タシ或ハ難シテ曰ク三年ノ扶
助亦恩典也其間ノ收穫ヲ以テ其後ヲ支ヘ又従テ
増殖セサル且ツ植物ニ至テハ莖葉長大觀亦望大也
何ソ薄收ト謂ハシ對テ曰ク莖葉長大是薄收ナ
ル所以也何トナレハ則テ是斯能ク莖葉添増養ス如何
ニカ長大ナラサラン而テ其實子ニ至テハ實ニ徵取ヲ生シ
真ノ登熟ヲ見ル能ハス又三年ノ扶助云々此レ是年間

事情アリ蓋し初年次年唯新穀之勤三年ニ至リ
獲ルヤラント欲ス而ソ鳥害甚ク害並ヒ臻リ爪害尾斯
害年一年ヨリ甚タシ一貳除費ノ恩典有リ雖モ僅カニ
撲滅ニ過キス收穫ヲ失フヤ亦多シ或ハ收穫納屋ヲ
構造スルモノアリ或ハ農具馬匹ヲ購入スルモノ有リ斯
ノ如キ經費一ニシテ足ラヌ又本部員私共ト不慣ヨリ生
スル損耗亦少シトセヌ(澱粉場ノ如キ今何如シ)之ニ加
フルニ近來勞力甚タ多クシテ收穫之ニ及ヌ増殖餘
裕將ク何ソ望ム可ケン是扶助後ノ支持ニ苦ミ以テ

今日ニ至ル所以ナリ嗚呼既往ノ蓄積ナキヤ彼ノ
如ク將來又天然ノ障礙アリテ勝ツ可ラサルヤ此ノ如シ
衣ナク食ナク進退維レ谷コリ一村ヲシテ殆ント奴隸
視ノ域ニ墮マシメントス念フテ茲ニ云レハ未タ嘗テ悲
泣愀歎セサルハ有ニサル也抑モ私共カ夙トシ志ヲ世門ニ
存シ誓言テ長城ト爲リ子孫渝ラサルヲ期シタリキ實ニ
十九年六月墳墓ヲ辭シ故山ヲ去リ來テ此一村ヲ創
設シ以テ永ク閣下ノ督部ニ屬シ恩波ニ沐浴スル今
既ニ六年私共誓言フテ屯田本旨ヲ遵守シ生計基

礎ヲ固フレ以テ大ニ爲ス有ラント欲ス然ルニ衣食缺乏
前途支ヘ難ク一致團体ノ兵村ヲシテ三三五五ノ
村落ト美ソ異ナラシメ實アラレム是レ私共志操堅
確ナラサルノ致ス所罪亦深シ夫レ既ニ一村ヲシテ外觀
ヲ虚飾シテ内實ニ尾解事情斯ニ至ル復タ美ソ
藏匿ス可ケニ茲ニ私テ平素相鞞舞シ一副
業ヲ起シテ本業ヲ支持シ以テ此田兵ノ真面目ヲ
保持セント欲シ而方心カテ盡スモ未タ以テ良策ヲ
案出スル所アラズヤ今閣下御親臨實況ヲ點察

セラル私共謹テ御前ニ膝ツキ平素相講スルノ言
開陳仕度并間此段亘御執成被ニ至度伏シテ
奉願上候也

收獲調書

明治廿四年十月查定

第一中隊

Handwritten text on the right edge of the book, including the characters "第一中隊" (First Squadron) and other illegible characters, possibly indicating page numbers or volume information.

凡例

本書の第一中級科目ノ老農ガ(以テ名者)耕耘
栽培肥料等ノ老傳キ附テ盡シ六ヶ年間ニ收得シ

六ヶ年間トハ得ル迄ノ日子ニシテ初年新開有機物
元備ニ肥料ヲ施サスレテ收得シタガ如キニ收得年間ニ算入
ス可キモノニ非ス故ニ全ニ耕地ニテ前條手段ヲ為シ收得シ
ルモノナレバ即チ五年也

本書平均ノ老農向ノ平均ヲ指シタシテ一中級ノ通観
平均ニシテモノ非ズ也且ツ其平均ハ老農六ヶ年ノ平均ニ非ス
之ノ平均ニ收得シタノ平均ナリ(平均ハ鳥虫凡被害甚クシカラズ
危斯亦不甚ナラサル年ナリ)

一年ハ第何年ハ平均ナリヤト云フニ非ス蓋シ一種類カ播種ヨリ
收穫迄多少被害ナク稍目的ヲ達シ、年々云凡ソ農村ニ種々
被害年トシテ之ノナキハナシ然レモ各在類ニテ播種是後アリ(一年

度亦前後アルナリ。收穫早晚アリ被害甚クシキ年ト雖モ或レ
種類ニ幸シテ被害ヲ免ルナリ故ニ平年ト一種類ノ平年ニシテ
移住以來第何年同ノ平年ニ非ズ平年ノ解讀ハ名誤ラレ
勿レ

代價根室代價ニテ強福相而トモ謂フ可シ當村ノ作物根室向テ
取路ナシ今僅カニ四十八カ賣出スル代價若クモ若シ而中跡全ノ種
類ヲ賣出スルトセハ取路抵塞而シカ賣テ取路ナキ也則テ相而相而
亦之故ニ強福時價ト云フ

里妻ノ説明中力慣ニ拘束セラシ味ヲ下等視スルハ根室ノ名カ之
ヲ劣等視シテ價格ヲ看下スナリ兵村ノ名之ヲ食セ又ト云フハ非カ
也兼ノ好マサルハ根室モ兵村モ一般

石數貫目ハ各反當リ云ヒ代價ハ各升ヲ云
本書ハ本年十月老農會議ヲ開キ審議査定シタル也

兵村會長常生要員誌

種目。收穫。代價

一 秋蔴ハ五 四斗五升ヨリ六斗近 以ハ五反不云云

説明(説明ト云議當日兵村會長常生要員五名シ逐項査定
ナリ爾時ノ談話ヲ以テ説明ト爲ス以下之ニ倣ヒ此種類ハ蔴種
云而後ハ其價軟弱ニシテ寒ニ堪ヘズ及若シクハ二反ヨリ超過ス
可ラス既ニ裁方カ寒ニ傷レテ消滅シ又春蔴ニ先タテテ收穫ス
可キモノナリ稍終老ヲ告クル其交ニ甚クシク尾斯ニ中傷シテ列
穂梢近成熟セス故ニ此相善時生ニ育ノ模様ヲ見テ消失甚クシ
ト認ルルハ其畑ヲ殺シテ他種ニ換セサル可ラス如斯ル不確定
ノモノタルハ尋キモ二反ニ超過スルヤ出リト雖モ必ス蔴付可キノ種類
ナリ何ニトナレハ農家ノ考案ニ依ルル歲ノ豊凶ヲ慮リ凡ソ秋蔴春
蔴地上ニ擱ツルモ地中ニ入ルモノハ佃作僅少ト雖モ之ヲ割ルルハ
赤蔴ノ味ニ甚ク優等ニシテタヒ收穫僅少ト雖モ之ヲ割ルルハ且ツ此秋蔴
甘藷御冬客需ニ供スカ如キ亦徑商ノ一端ナリ故ニ各反若シク二反必ス
蔴ク可キモノトス

一 黑麦秋蔴 八斗 七斗ヨリ或云

最初此種子ハ若比亞ノ寒地ニ産シタルナリト雖モ移植ノ後今ニ地種ト

一般ノ觀ヲ呈シ寒氣ト瓦斯ニ中傷スル亦前ニ全シ塞ニ其性稍強クテ秋蔣赤少者ト相伯仲セバ必スヤミ反若クハ或反蔣付ク可キモノトス此者ハ苗圃ノ兵士甚ク之ヲ珍重スト間ク坐レ凡者快ノ坐レハルルハ手味甚ク劣等シテ人類而色カ難ク亦之ヲ好マズ

一 春蔣赤少者

赤石乃五斗石或斗

三斗

白蔣ハ春蔣ト雖モ其血弱クテ瓦斯ニ堪ヘス故ニ蔣少クテ此赤蔣クニヤミ反又ニ反トスルハ石敷云々ナルモ五反以上モ可歩トスルハ如何ニ勤勞スルモ八斗以上トラス此ハ密サ粗ク少人車載培ノ然ラシムルハ蓋シ自然ナリ

一 獨逸大麥

四種六石新種六斗

武斗ヨリ三斗

四新トハ種類ノ四新ナ云四種ハ莖幹甚ク強韌シテ能ク凡甚ハ瓦斯ニ堪ユル(甚ク感セヌトモ)可シ此種類ハ苗圃適ラズト云ハ其日兵村ナシテ赤蔣將地ヲ自願セシメ又麥酒ヲ製シテ米酒ヲ添テ葉セシムルニ至テハ原料ヲ此種類ニ資テナル可ラス

一 裸麥

六斗

斗式ハ斗式五斗

一 燕麥

斗式ハ斗式五斗

是亦苗圃村適當ナリ坐レ凡高サ粗クノ點ヨリ論スルハ春蔣赤少者ノ説明ニ比例準下ス可キ也

一 麻

五貫目

六斗式ヨリ八斗式

也レ七斗目

如斯ルハ介重ノ僅クナリ斗以テ之未苗圃村ハ天候地勢ノ然ラシクモノアリテ日之薄弱瓦斯斯様ニ凡能ク流通スルナク爲ノニ皮膚甚ク薄ク且ツ柔カナリ秋成ノ前後例年暴風雨吹折又麻手擦レヨク立枯ヲ不時ニ見ル其莖葉々々モノモ既ニ中傷ヲ收獲ハ際凡ニテ燻蒸シ始メテ之ヲ免ス不蓋シ麻ハ稍角状ナリ其方隅既ニ枯朽シタル也蓋シ燻蒸ノ際四隅赤條ヲ呈ス是則テ方隅既ニ枯朽シタル也蓋シ燻蒸ノ際四隅方隅製上ノ時皆斷截ナリ精製スルハ何量益ス減ス又特々凡害ヲ被リ作ラシ生長ス故ニ莖幹直ニ透セシテ數段彎曲シテ即亦高シ其節節高キハ製上ノ際中截スル原因ノ一ナリ既ニ薄皮ナリ又中截ナリ此ハ葉セズテ丸慢地方ニ比較シ漫ク原田ノ介重甚クサレト誣カルハ蓋シ皮相ノ具耳眼迄能ク皮背ヲ透セヨ又彈力ニ至テハ此當然ト云ヒナカク其弱キヤ鷲クニ堪ヘタリ凡ソ當地方ハ海産場斗ニテ麻ノ需用甚ク多キ也一村ヲレテ麻村トスルモ猶ホ不足ヲ見ル可シ而ルニ然ラズ元來傷斗ノ使用元細ハ後産ヲ用ヒ數年使用ノ後其破損部分ハ僅カニ苗圃村ノ産出ヲ以テ之ヲ修繕スルニ適キス故ニ彈力ヲ第ニテ製法ノ精粗ヲ問ハズ十把一束彈力之試ム故ニ代價如斯ル低廉見也使用ノ途ニ修繕ト網用ニ止然レ凡近來(口)之流リ年一年ヨリ場加輸入原料(イ)ニ試作シ見ニ苗圃村ニ適セズ然レ網用モ漸次減却ス可シ抑ニ當地方ノ

如麻ノ需用廣大ナル線圍ニテ當村ハ之ニ供給ス能ハス年々取路縮減價
格低廉ナリ是レ遺憾ナリ方ト謂フ可シ或ハ曰ク後細製ニテ漸ク之ヲ疎スルノ傾向
アリ故ニ製網トスルハ頗ル價格高貴ナル可シト噫是レ何ノ言ヤ蓋シ之ヲ疎スルノ
製法ノ粗澁ヲ言フモノニテ原質ノ強弱ヲ謂フニ非サル也哉後ハ勁敵ナリ取路
ノ潰帶何クニ在ルナカネ忽テ其欠点ヲ改良シ更ニ旗幟ヲ建テシム可シ(宇治ノ茶葉
一回博覧會ニ出テ價ヲ墜シ爾後欠点ヲ着破シ之ヲ恢復シ依然宇治ノ茶ノ名譽存
シトシ猶ホ入レカラン)今ヤ和村ノ兵小智ヲ以テ大謀ヲ志シ夜西條山ノ裏手ヲ襲
ハントシ僅カニカテ飯ノ炊煙ヲ賜クハ電燈一閃寸断ヲ受ク可シ乱如麻堂ニ寄ラ
ヤ或人獨前説ヲ主張スル字否又麻作ニ於ケル種代ノ高貴ナル鴛鴦可シ之ヲ加フル
獲ヨリ精粒追製人年向ト算定スルモ年向外ニ猶ホ年向ヲ要ス蓋シ根室ハ
子モロシテ草木暢茂ニ富貴蕃殖之ヲ子モロト謂フト土人語ニ之ヲ聞ケリ果シテ
然ルカ身鳥甚ク多クシテ最初種ヲ下スヤ身鳥螺集シ之ヲ掘取ス終カニ完芽スル
ヤ亦然リ銃ヲ執テ怖トシ鐵罐ヲ叩キ鳴子ヲ揮ヒ一四好十四之ヲ為スモ滿室ニ君蠅
掃難去ト一般ナリ故ニ完芽後定食ナラシムルニ一周乃至十日前兵ヲ張リ
可ラス此身害ハ年々然ルナリ此年向外ノ年向ナラヌヤ又收穫干シ上ノ際(青
天四五日暈天ナラハ一周也)此文ニ密雲倚サニ雨アラントセハ忽テ之ヲ仕舞ヒ
外ニ積ルバ又干乾セザルヲ得ス此年數甚ク時向ヲ貴ヤス亦年向外ノ年向ナラヌ
ヤ天候不順ノ當村年トシテ此年向外ノ年向ヲ為サレ且ツ製麻ニ伴フ薪材ハ
遠ク之ヲ數里外ニ求メサル可ラス之ヲ要スルニ取路無盡ノ地方ニ在テ種々障礙
有レ之ニ供給スル能ハス彼此ノ割合收支償ハス異日ニ業ノ好種ヲ看出シ製

但し肥料ニ年々他種類ニ比セバ倍多ク料ヲ用ヒサル
麻ノ業宜シク廢ス可キ也 可ラサルヲ言ヒ忘レタリ益收支アラサルマ明矣

一 馬鈴薯

北五俵

武宿式 但し三俵

今之ヲ賣品トスルハ三分ノ一ナリ北五俵中其粒子大中小ヲ含テ高
小又中ハ豚餌ニ適キス厨用ハ大ニ光故ニ之ヲ擇ビ分ケテ庭厨用而已テ賣品
ハ五俵乃至七俵ニ適キス代價或拾式ハ厨用大ノ部方身ト知ル可シ豚
餌ハ必ス賣品トスルニ非サル也元来根室ノ地接言スルハ高商傳徒又漢夫ノ集
体ニテ養豚ノ如キ好事家稀ニ飼養スル耳然レハ三ニハ非賣品トモ言フ
可シ本條ノ如キ單ニ五俵ト見テ可ナリ

一 甘藷

曾テ二三坪ノ面積ニ於テ試作シタル者アレ是レ既昇作ニシテ普通相當
ノ作法ニ非ス今玩弄作ニ好結菓アリタリト云凡普通通全一ノ作法ニ從ハ結菓
何如ノ預定シ難シ固テ概分知ル由ナシ

一 人參

此等蔬菜ニ十分好結菓ヲ見ル當村食物改良ノ方針ヲ取り居タル進テ
麥食ト肉食ヲ為サシ此等蔬菜ハ多ク作ル可キモノトス

蔣付ク可ラサル種類

春蔣黒小麦。秋蔣大麦。蕎麥。花豆。扁豆。
大豆。小豆。粟。瓜。蜀黍等

春蔣黒小麦は莖幹弱クシテ一凡吹倒ス。再ニ搗頭シ得ス成莖悪シクシテ
收穫ナシ此麦ハ利益ナ見ス

秋蔣大麦ハ寒威ニ中傷シテ消失比皆無

蕎麥ハ麦ニ亞ク重要穀類ナルモ一凡傷盡無年々亦然リ

花豆ハ厄斯害ノ爲メ被害ヲ甚キ記シ有敗太甚タリ

扁豆ハ凡害兩害一タニ被レハ忽チ莖葉赤ク色ト爲ル再タニ迄ス可ラス

大豆ハ時アリテ登ルモ收支アタラス知寒キニテ益ナキ也

小豆ハ到底出来得ス

粟ハ是亦蕎麥ニ等シキ穀類ト謂ハサル得ス然レ凡時アリテ登ルト雖モ搗

減甚タ多クシテ早莖細塞ケ無益ト謂フ可シ

瓜類ハ病脊一登スハ忽チ赤色

蜀黍ハ登ラス稀ニ登熟スモ一ニナク而モ拔キ且ツ玩弄作ニ出タルモノ也過リ地方
新聞カ此用收穫ト題シ蜀黍ヲ掲ケタルハ誤リ也

亞麻

イナビ

二種トモ登ラス亞麻ハ本年少シク登リタルカ如キモ凡ニ攪擾吹倒セラレ
為メ十分登ラズ到底出来得可キモノニ非スイナビハ登ラサル耳カ當
テ生育セス

前記條項又當リ升數ニ第二中隊乃ヒ地方農夫ノ
其筋ニ差上シ且先書類ト對照スルハ甚タ差ニ差テ
見ル可シ蓋シ事情アリシ事ハ所産ヲ本書所
有ヲ奉シ進呈仕也

廿四年十月

中川 荒作
松ト 七ニ房

字

往第一八号

客歲十二月十八日付根第千四百拾壹号
ヲ以テ佛送付相成候甜菜根分折致候處
其結果左表之通、頂之候此段及所回
教候也

明治十九年二月八日

旧教習製糖所

元根室縣勸業課御中

危テ甜菜根ハ途中大ニ時日ヲ費シ去月廿五日ニ至リ漸ク到着
致候處箱中ニテ発芽シ糖分カ糖分ヲ減失致居候得共左表
ノ結果ニ依リハ甜菜ハ此地適應ノ作物ト認存ル糖段中添付也

明治十九年二月八日
旧教習製糖所
元根室縣勸業課御中

比重 糖分 非糖分 純粹度

第一

肥料 馬糞
米糠
骨灰

一四、三 九四。 四、九。 六六、四

第二

肥料 人糞
魚粕

一四、一 九七一 四、三九 六八、八

第三

肥料 馬糞
米糠
木灰

一三、六 八、六七 四、九三 六三、七

砂糖甜菜耕作法

氣候

氣候、暖地ニ宜シカラズ寒地ニ適セリ

地質

地質、粘土質砂質石灰質ホ何レノ地質ニ能ク
生育スルト雖モ埴土薄層ナルハ甜菜ノ生長ニ害アリ
リテ其產出寡セラ米タセリ故ニ利益ヲ得難シ
尤前數種土質、内粘土及密砂質ヲ以テ適
当トセリ 濕地ニ宜シカラズ

甜菜種類

甜菜ノ種類、其類多シト爲トモ當所ノ經驗依
ハ獨ニ國產ニシモラン、グラシシ「クラインワンスリヤン」
及「コレイロウス」ノ三種類尤當道ノ地味ニ適シ糖

ふ豊饒ニシテ甜菜砂糖製造ニ適セリ下種ニ
及歩ニ廿三四外ヲ要セリ

肥料

肥料、歐洲諸國各種、肥料有リ第一、過燐酸
石灰硫酸アルミニヤ硫酸ポタッシュ或ソウダ烏糞
及牛馬舎糞生糞肥料ヲ用ユルヲ通例トス
人糞及塩菜ヲ含有スル肥料、甚害多シ當
地現今用ユル肥料、厩肥油粕骨粉并テリ每
五歩ニ廿厩肥五百貫油粕貳斗骨粉一拾
五貫目位ヲ用ユ可シ糞糟、如キニ未タ経験尚
淺ク其良否ヲ知ハスト當モ塩分ヲ含有
スル物質トシ前年度地作、用キ其翌年其地
ニ甜菜ヲ播種セハ或可カラレ

耕耘

耕耘、各地異ナレモ普通、前年秋、畑表面牛馬
肥及瘠藁ヲ蒔キ散ラシテ深ク是尺位ニ鋤キ
其肥料ヲ深ク地中ニ糶キ込メ十分、腐蝕セシ
メ而シテ翌春解雪後直ニ油粕或其他ノ肥料
ヲ入レ八寸、深ク糶キ能ク整地セリ播種法ニ
ニミノ種類アリ第一、畝幅是尺三四寸ニシテ是
尺隔リ、五六粒ヲ蒔キ六七分ニエテ覆ヒ壓鎮
ス可シ発生後二三寸ニ生長セシ時其発生セシ四
強壯ノカキ本ヲ残シ余、取除ク可シ第二ハ
畝幅是尺五六寸ニシテ畝蒔ニテシ発生、後六七
寸、隔リ、間引ク事アリ、當地、多ク是方方法ヲ
採用セリ併シ前法、方甜菜根、收穫多シト云

ノ當地老農ノ経験ニ依リ、間引方、強壯ノ
甜菜即本位ヲ残ス時、若シ是本出害ニ係
モ未ノ是本ヲ以テ其位置ヲ免シ大ニ^{辦理}ナリ
ト言フ如此方法ヲ用ユル時、甜菜、即本位ニ生
長、時初回、間引ヲ爲シ三四寸位ニ生長、
時第二回、間引ヲ爲ス可シ爾後除草、注
意ス可シ除草、時成丈甜菜ノ周圍ヲ和ラ可シ

收穫

收穫、甜菜、下葉ニモ枚枯レ始メ全葉少シク
黃色ヲ帯ビルラ度トシ收穫ス可シ是ヲ翌年
度ニ貯藏スルニハ中ニ尺ノ深ク、堀リテ甜菜
ノ葉ヲ切リ去リテモノヲ積重多量ニ是ニテ覆
ヒ置ク時、翌年春季迄生存ス可シ本年度

當地ノ收穫、上并良農、是五歩ニ千畝三百
貫、根球ヲ收穫シ下并農モ亦四百貫位ヲ收
穫セリ

附言

甜菜耕作ニテノ目的アリ第一ノ目的、砂糖製造ノ爲メ
ニシテ第二ノ目的、牧牛ノ食料ナリ第一ノ目的、用ニ甜
菜、根球是テナラサルラ寧ニ根球是テ大ナル時、糖分是
寡クテ故、製糖、用ニ甜菜、一根ノ重量五百匁ヲ限
リトス第二ノ目的、用ニ甜菜、是ニ及シ過大ニシテ是根
ノ重量是貫目以上ノモノヲ得可シ故、一概、根球ノ重
大ナルモノヲ甜菜耕作ノ良結果トスベカラズ

明召廿二年中ニ屯田兵一中隊徵募ニ要スル諸費
概算調書

一 八金三万千八百四拾圓五錢八重

營繕土木費

此 訳

八金三万千八百四拾圓五錢八重

新 營 費

内

八金貳万四千貳百圓

兵屋二百二十戸

但兵屋及井戸共一戸ニ金百拾圓

八金千五百四拾七圓五錢

兵屋付道路

内

八金八百八拾貳圓五錢

前 道 路

但長延三千三百間一戸三并松五間見積リ

八金五百四拾四

横道路

但長延千八百間一開口金三拾五

八金貳拾五

土橋五ヶ所

但一ヶ所金五

八金百

排水溝

但長延千間一開口金拾

八金五百八拾五

中隊本部一棟

但建坪四十八坪七公五夕一坪金拾貳

八金百九拾八拾七

廐 一棟

但建坪拾三坪五公一坪金八拾七拾九

八金五拾拾五

外便所一ヶ所

但建坪二公五夕

八金三拾四四八

井戸一ヶ所

八金六四六拾

表裏門二ヶ所

八金六百九拾六四六拾九

米庫一棟

但建坪六十六坪一坪金拾四五拾五

八金八百貳四五拾

學校一棟

但建坪八十坪二公五夕一坪金拾

八金三拾四四八

井戸一ヶ所

八金千百九拾

事業場一棟

但建坪百十九坪一坪金拾

八金三拾四四八

井戸一ヶ所

八金四百四拾四七拾貳

麻蒸所二棟

但一棟建坪三十坪一坪金七四四拾陸

八金百七拾

中隊付被服庫一棟

色目表

但建坪

八金三拾四

中隊本部敷地内道路

但長延百間一兩金三拾五

八金三拾六

中隊本部園柵系米

但長延百廿間一兩金三十

八金貳百七拾六

二等官舎一棟

但建坪二十三坪一坪金拾五

八金七百三拾五

全四戸続一棟

但建坪六十六坪一坪金拾五

八金五拾貳

物置五戸分

但建坪十五坪一坪金三四五

八金三拾四

井戸一ヶ所

八金九四七

浴室一ヶ所

八金貳百四拾四

三等官舎二戸続一棟

但建坪二十五坪五八

八金三拾三

物置二戸分

但建坪四坪五八

八金三拾四

井戸一ヶ所

八金九四七

浴室一ヶ所

八金貳百八拾五

四等官舎三戸続一棟

但建坪三十四坪五八

八金百七拾五

五等官舎三戸続一棟

但建坪廿五坪九八

八金三拾四

井戸一ヶ所

八金九四六

浴室一ヶ所

八金拾四

外便所二ヶ所

一 八金四千六百六拾三四三拾四戈

此 誤

此 田兵增殖費

八金六百七拾七四

鍬

代

但 平鍬大二百廿一披一披二斤金六十八戈 小二百廿一披一披二斤金五拾七戈 唐鍬大四百四十披一披二斤金六十五戈 小二百二十披一披二斤金五十五戈

八金五拾五四

山

刀

代

但 二百三十披一披二斤金貳拾五戈

八金拾五四四拾戈

鑪

代

但 四百四十披一披二斤金三戈五重

八金百拾四四四拾戈

鑄

代

但 二百二十披一披二斤金五拾貳戈

八金貳百九四

鋸

代

但 大二百二十披一披二斤金五十五戈 小二百二十披一披二斤金四十戈

八金六拾六四

鐮

代

但 紫荊鐮二百二十披一披二斤金十八戈 草荊鐮二百二十披一披二斤金十二戈

八金三千三百四

夜

具

代

但 四巾蒲團八百八十枚一披二斤金二四六十戈 三巾蒲團四百四十枚一披二斤金二四三十戈

八金貳百三拾貳四五拾四戈

鋸

代

但 大二百二十枚一披二斤金五十三戈 中二百二十枚一披二斤金三十三戈 小二百二十枚一披二斤金十九戈七重

一 八金三千七百五拾四四九拾九重

披服及帶具費

一 八金壹萬六

八金四百五拾三四七拾五戈

患

者

費

色相無大邪

一 八金四千六百六拾三四三拾四錢

此田兵增殖費

此 誤

八金六百七拾七錢

鍬 代

但 平鍬大二百廿一錢一錢二升金六十八錢 小二百廿一錢一錢二升金五十七錢 唐鍬大四百四十錢 一錢一升金六十五錢 小二百二十錢一錢二升金五十五錢

八金五拾五錢

山 刀 代

但 二百三十錢一錢二升金貳拾五錢

八金拾五錢四拾錢

鑪 代

但 四百四十錢一錢二升金三錢五錢

八金百拾四錢四拾錢

鑄 代

但 二百二十錢一錢二升金五拾貳錢

八金貳百九錢

鋸 代

但 大三百二十錢一錢二升金五十五錢 小二百二十錢一錢二升金四十錢

八金六拾六錢

鎌 代

但 紫荊鎌二百二十錢一錢二升金十八錢 草荊鎌二百二十錢一錢二升金十二錢

八金三千三百四

夜 具 代

但 四巾蒲團八百八十枚一錢二升金二四六十錢 三巾蒲團四百四十枚一錢二升金二四三十錢

八金貳百三拾貳錢四拾四錢

鋸 代

但 大二百三十錢一錢二升金五十三錢 中二百三十錢一錢二升金三十三錢 小二百二十錢一錢二升金十九錢七錢

一 八金三千七百五拾四錢五拾九錢九厘

被服及帶具費

但 下士卒被服費

一 八金壹萬六千五百九拾四錢

移住費(此田移住費)

此 誤

八金四百五拾三四七拾五錢

患 者 費

于三年中移者三百二十名
金四百廿五兩五錢五厘
本支移住費二千二百兩
光緒十九年十月十日

松四丈

比田兵増殖費

鍬

代

山

刀

代

鑪

代

鑄

代

鋸

代

并金貳拾五丈

并金三丈五重

并金五拾貳丈

并金五十五丈 小二百二十枚一投并金四十丈

一投并金六十八丈 小二百廿一枚一投并金五拾七丈 唐鍬大四百四十枚
或 小二百二十枚一投并金五十五丈

鎌

代

夜

具

代

一投一投并金十八丈 草新鎌二百二十枚一投并金十二丈
十枚一枚并金二四六十丈 三巾蒲團四百四十枚一枚并金二四三十丈

鍋

代

并金五十三丈 中二百二十枚一枚并金三十三丈 小二百二十枚一枚并

被服及帶具費

但下士卒被服費

移住費(比田移住費)

患 者 費

松五丈

二十三年中移着、二百二十名工上候工之被服及帶具費合金七百七十六兩十一匁五匁の内
金七百七十四匁五匁五匁、廿三年度工係又右に込に注崎上、御名、手、如也
本費、移住費、二十三年度に於て要るべき費用に代道に經崎上、御名、手、二十三年度工係上
支分、御名、手、由、如也

色目兵部

但一戸金二四三十五匁？二百二十戸分ノ十二分ノ十一ニテ如本文

八金百四拾九四四拾三匁五厘

埋葬料

但一戸金七拾四匁一厘？二百二十戸分ノ十二分ノ十一ニテ如本文

八金千百三拾六四五拾五匁六厘

諸器具費

内

八金貳百九拾九四九拾貳匁七厘

養蚕用器具

八金百八拾七四八拾五匁

製糸器具

八金百九拾四四八拾八匁五厘

機織器具

八金三百七拾九四六拾匁

麻製器具

八金八拾四四七拾匁

学校備器具

八金千八拾五四貳拾六匁

桶代

但千桶三百二十荷一荷金五拾匁 擔桶三百廿荷一荷金九十五匁 小桶二百廿荷

一荷金六十匁 培養桶三百廿荷一荷金七拾八匁八厘三厘

八金千四百三拾貳四貳拾匁

農具代

内

八金百四拾三四

筵二千二百枚

八金拾五四四拾匁

荒砥二百二十挺

八金拾九四八拾匁

中砥二百二十挺

八金百拾四

蚕卵紙五十五枚

八金千百四拾四四

蚕籠是下七四千四百枚

八金七百三拾七四

種物代

但一戸金三四三拾五匁？二百廿戸分

八金壹万五千五百拾四四八拾匁

招募兵旅費

内

八金四四

八金三四

支度料十五匁以上二八
一八匁金二四
全 十五匁未満三八
一八匁金拾四

金五十四貳拾八錢

陸路旅費七元以上四人
一八二廿金一四三十二錢

金六拾六錢

全上七才未滿 一八

金拾四四拾錢

駁 賃 四 日 分

金貳拾五錢

一日二廿金二四六十錢

金四四

一八二廿金五十四

小計金五拾肆四三拾四錢 但一戶分三才如斯此二百廿戶分

旅 船 料 二 十 日 分

合計八金五万六千七百六拾六四九拾九錢八厘

補年

一 金部万回

一 金部万回

一 金部万回

一 金部万回

一 金部万回

一 金部万回

一 金部万回

此万回は... 補年... 金部万回... 補年... 金部万回...

補年... 金部万回...

後分

然墳墓ノ地ヲ去リ互寒ノ地ニ骨ヲ埋ムルノ決心
アルヘク然レニ國家ノ為メ此愛諒スヘキ決心アリ

北五年

為美分月分

種代

肥料

一 全四万石以上

一 全三万石以上

一 全二万石

一 全一萬石以上

内

外

全六万石以上

法益

一 全一萬石以上

官舎維持法改正之件

従来將校以下ノ官舎ハ大隊長及中隊長ノ外ハ数戸
 連続ノ長屋立ニシテ居室敷地共ニ狭少ナルノミナ
 ラス住居上諸事大ナル不便アリ且又他ノ点ヨリ之
 ヲ見ルニ抑屯田兵轉科志願ノ將校ハ其精神一國
 ノ公ニシテハ我帝國北門ノ兵備一日モ忽クスヘ
 カラス北海道ノ地一步モ速ニ開拓ノ功ヲ養セラル
 ヘカラサルノ要點ニ着目シ自ラ奮テ其任ニ當ラン
 トスルニヤルヘク之ヲ一家ノ私ニシテハ老後ノ為
 メ子孫ノ為メ多少ノ不動産ヲ北海道ニ得他日公事
 ニ倒ルノ時アルモ全ク後顧ノ念ヲ断タントシ奮
 然墳墓ノ地ヲ去リ返寒ノ地ニ骨ヲ埋ムルノ決心ニ
 アルヘク然ルニ國家ノ為メ此愛諒スヘキ決心アリ

遠ク此地ニ歩行深ク不毛ノ地ニ入り自家ノ永住
地ニ頼ミ来ル好意ニ及シ一タヒ役来ノ官舎ニ入レ
ハ膏ニ自家永住ノ地ト為ス能ハカレノミナラス目下
ノ住居ニモ其不便甚大ナルヲ覺ユヘク其情實ニ察ス
ヘキモノアリ又更ニ他ノ点ヨリ之ヲ見ルニ特ニ將校
ノ如キハ其居宅分限ニ相應セシムルニ甚緊要ナ
ルヘシ然レニ之ヲ他ノ官舎ニ比スルニ武官官舎
ノ一等ナル大隊長ノ官舎ト云々判任官ノ官舎ヨリ
其結構尚劣ル如アルモ優レル如無^キカ^カハ^ハ是^レ將校
分限ニ對シテモ其權衡ヲ得ケルノ極無キニアラス
素ヨリ悉ク其例ニ倣ハントスルモノニアラスト云
氏為メニ其品位ヲ卑ムルカ如キハ宜ク避ケケルヘ
カラケルナリ今ヤ其權衡ヲ得セシメントスルハ

易シト云々其之ヲ實行セシムハ費用ノ点ニ制
セラル、患アリ依テ一種特別即實價年賦拂
下法及讓渡ニ關スル事項御制定相成候ハ膏ニ以
上ノ不利不使ヲ除キ得ケル、ノミナラス目下
ノ如ク始終官舎ニ住居セシメス拂下ヲ為シテ
自宅ト為スハ其修繕保存ノ為メニ要スル大
ナル手數ト失費ヲ省ク^テ得ルノ利益アリテ
一挙兩全ノ得^ルヘクト被存^テ別紙官舎
拂下法及賣貸規約御制定之上御實施相成候様
致度此段意見上申致^す也

將校下士官舎建築概算

但し因徒ヲ以テ建築セシムル見込

一金五百四

少佐官舎附屬家共一戸分
凡五十坪一坪一金於四

一金八十拾四

井戸門 矢前 面 囲

一金貳拾四

官舎地所一戸分二万坪
地代

計金六百四

之月賦上納一ヶ月金於四トス
即下年百貳拾四ト付五ヶ月皆納
大尉官舎附屬家共一戸分
凡三十五坪一坪一金八四

一金貳百八拾四

井戸門 柱 矢前 面 囲

一金大拾五四

官舎地所一戸分一万五千坪
地代

計金三百大拾四

之月賦上納一ヶ月金於四トス
即一ヶ月金七拾四ト付五ヶ月皆納
中少尉官舎附屬家共一戸分
凡二十五坪一坪一金八四

一金貳百四

井戸 矢前 面 囲 門 柱 共

一金大拾四

官舎地所一戸分一万坪
地代

計金貳百七拾四

之月賦上納一ヶ月金於四トス
即一ヶ月金五拾四ト付五ヶ月皆納

計金貳百七拾四

一金百四拾四
下土官舎附屬家共一戸分
九二十坪一坪毎金七四
 一金三拾五四
井戸門柱 宛 前面圍
官舎地所一戸分五千坪
之地代
 一金五 四
之ヲ月賦上納一ヶ月金三四トス
即一ヶ月三十六四有五ヶ年皆納
 計金百八拾四

官舎拂下法及賣貸規約抄案

一 將校以下ノ官舎ハ刃令部ニ於テ一定ノ方法ニ依
 リ建築シ其原價ヲ以テ最初ノ居住人ニ拂下ケ
 其代價ハ官等ニ應シ若干年間ニ月賦ヲ以テ上
 納ヲ許スモトス其豫定ノ費額等ハ別紙甲
 號ニ記スルカ如シ但シ附屬地処ハ一般ノ土地
 拂下規則ニ依ルモトス
 二 月賦上納未済中他ニ轉職スルハ續テ月賦上
 納シ皆納ル上ハ其所有主タルヲ得ヘシトモ
 後任者居宅他ニ適當ノモノ無キハ之ニ貸渡
 ス義勢アルモトス其備家科等ニ關スル
 諸件ハ双方兵隊中少クモ三名ヨリ成ル評
 價委員ノ定ムル如シ後ヲモトトス

但し評價委員之ヲ定ムル前後、係ラズ双
方示設、上其節ノ認可ヲ得テ之ヲ定メ或ハ
変更スルハ妨ケナシ

三年賦上納濟ニテ既ニ其所有主タル者他ニ轉職
スルキモ亦前ト同一ノ手續ニ依リ貸渡ス義
務アルモノトス

四前住ノモノ其隊ヲ膏ル、其居宅ヲ所有スルヲ
望マカレハ後住者ニ譲渡シ残余ノ上納金
アルハ後住者ヨリ上納スルモノトス其譲渡ノ
代價其他ノ諸件ハ前項同様評價委員ノ定ムル
如ク從フモノトス

但し評價委員ノ定ムル代價先住者或ハ後住
者ノ意ニ合ハカレハ讓渡ヲ止メ前二項ニ從

ヒ貸渡し或ハ前後兩位者、示設ニ依リ
其節ノ認可ヲ得テ幾干ノ價ヲ増減スル
ハ妨ケ無シ

五讓渡貸渡共家屋地処共ニ連帶スヘキモノトス
六評價委員讓渡代價及借家料ヲ定ムルニハ家
屋地所共所有年数保存ノ可否等ヲ参酌シ且
該時相當ノ時價ヲ標準トシ之ヨリ幾干カ後
住者ニ便宜ヲ興フル如ク定ムルモノトス
七家屋地処共所有主ノ何タルニ論無ク後任者
ノ外ハ總テ其節ノ許可ヲ得ルニテアウカレハ讓
渡ハ勿論後令ニ一時ト重ヒ他ニ之ヲ貸渡ス
ルヲ許サス

八讓渡貸渡共其相互ノ關係ハ一般人民ノ同一ノ

手續に拠り且前諸項の外ハ端々普通ノ契
約法ニ拠ルヘキ事

可設若隊長、諸問あり、政行ニお会規
則ヲ廢止ニ該規則、各主ニ其基キ若其おに於
合同規約ヲ以テ更ニ其村自治規則創設ノ儀
ニ付テ該隊長會議ノ所ニ在ル者主ノ振若中
隊長、則示シタル由テ起ルニ審議、末お母
子進儲正若中隊長ニ於テ其村會長及委員、
先以該會議示シ充テ基礎ヲ固メ而シテ其
一般ノ議ニ掛ケテ其長ニ以テ之ヲ中隊長、如キ
概若其おニ根據ヲ得現在ニ其お會長及委員、
其他互力議員ノ主ニ以テ其最中其お一般ノ議
ニ付テ其お其お、僅ニ其おニ付テ中隊長、其
中隊長、其お其お、其お其お、其お其お、其
其お其お其お其お其お其お其お其お其お其
其お其お其お其お其お其お其お其お其お其

田舎の事

記行 凡此... 川海濱... 規別創設... 目下兵村... 現行多お... 若くは... 於て直... 亦... 分... 川... 規別創設... 目下兵村... 現行多お... 若くは... 於て直... 亦... 分... 川...

凡此... 川海濱... 規別創設... 目下兵村... 現行多お... 若くは... 於て直... 亦... 分... 川...

半段、現在... 議... 一... 何... 況... 後... 別... 並... 立... 協... 協...

家お副月三友友

相由中使

凡此... 川海濱... 規別創設... 目下兵村... 現行多お... 若くは... 於て直... 亦... 分... 川...

ニシテ廿三日ノ一ヤルカスリヲ突ラアタマン付トウロウ
 ロフ中尉一行ヲ誘行し驛道ニ依ラシテ嶺南薩克
 兵村ヲ通過シ廿七日カラケニ直ス岩村馬車ヲ修メ馬ヲ
 換ルノ所ニ至レハ軍人ノ切滞アタマン以下子女ニ至ル迄皆
 出送迎ノ禮意ヲ表シ^中殊ニ^中此ノ^中一^中統^中ル^中ノ^中滿^中也^中ヲ^中得^中メ
 ルモノハラズドルスカヤニ直スル片方手隊ノ送迎アリコニス
 タレチノノースカヤニ^六テ^ハ練^兵及^兵行^會議^ヲ見^テキ^リ
 ヤスルカヤニ^テハ^ハ歩^兵隊^ノ練^兵ヲ^見テ^ハ村^長馬^車ヲ^格別
 ノ^懸待^シテ^ハ事^キニ^シテ^ハ領^地ヲ^ユラ^ル山^ヲ起^テ九^月九^日
 ガバイカ川ノチタニ達シアタマン不在ニテ參謀長
 ガツケルマン大佐以下ノ諸將校ニ會シ牙薩兵勇將官
 武備陣幕ヲ撤ス名聲ヲ一覽シ十二日チタヲ荒シ
 五日ステレチニスリ着カメイダツリフテル中佐ニ會シテ

此地ノ情状ヲ聞キニルカ川ヲ航スル新船ノ来ルヲ待チ廿二日
 ステレチニスリ突シ廿七日アムール川ノブラゴヘチニスリハ
 着陸タビ子フスキノ女將ニ會シ兵營及夏日幕營ニ
 所あり夏は九日新船ヲレクセイ号ニ格シテ突シ十
 月一日プリモルスカヤ川ハバロフカ着總隊ノ不在ニ
 テ諸令バラノフ女將以下各將校ノ傳信ニ格シ五日
 郵便ハシカ号ニ乗換スルガキヤヲ溯リ十百カメニ
 ルイハロフニ上陸大隊長グレン氏ニ面會シ此^中必^中可^中リ
 又馬車ニ駕馬^ニ具^ニ置^テ南^極新^船ニ^上陸^ス是^日中^隊ヲ
 洋^東ヨ^リ集^會シ^テ滿^洲ニ^入ル^ル也^ハ廿^八日^ハ使^船ニ^格シ^テ
 スラビヤンカ一隊ヲおシエツト、ノキーエフスコエヲ
 經テ國境ニ在リ騎兵中隊ニ至リツコロフスキノ大尉
 ノ懸待ヲ終リテ滿洲ニ入リ

今般多國内ヲ通過シ至ル処喜悅悦ニ堪ル人ノ復
待ヲ辱シタルノ恨畧如此官共ニ文但ノ親密ナリ
浮リ感銘ニ堪ラス右田下迄州群ヲ呈又

明治廿二年三月 日

日本 陸軍大將 永田 徳四郎

密国全權公使

閣下

上川原野ハ石狩川ノ上流ニ位スルモノニ殆ト全道ノ中心
ニ當ル四面皆山嶺ヲ以テ繞リ独リ西南隔僅カニ同
キ諸水悉ク石狩川ニ朝シテ爰ニ落ツ而メ其東ハ
ララフタテシゲル山脈ヲ以テ十勝ト界シ南ハ「エホロカ
ンベツ」山脈ヲ隔テ、空知郡トトプツ「原野」ト相
隣ル西ハ「エリモケツ」及「雨龍」山脈之ヲ擁シ北ハ
天塩ノ国岨山脈之ヲ蔽フ其中央平行ノ地ハ即上
川原野ノ存スル処タリ原野ノ入口「エタンベツ」ヨリ
凡一里半許上流 秩別太ノ近傍ニ測候処アリ其位
置ハ東経百十二度二十三分北緯四十三度四十五分ニメ
海面上三而四十一尺ノ高ヲ有ス即チ上川原野低地ノ
標高ニシテ之ヨリ札幌ノ標高九六十尺ヲ減シ之ヲ三十

八里ニ割レハ每一里僅カニ七尺可(千七百六十方一)トナル
 ヘシ実ニ少量ノ高依トムフヘキナリ
 ○京野ノ西端石狩川ノ右岸ニ嵐山アリ(元近文山ト称スル小山ナリ)左岸ヨリ之ヲ眺ムレハ其景状恰モ嵐山ノ如ク水亦桂水ニ似タリ本年九月小沢陸軍中將閣下旅次之ニタロク)即此山頂ニ登リ遠ク四方ヲ展望スレハ彼右各ナル石嶽嶽ハ東南方ニ屹立シ南方遙ニ黒烟ヲ吐クハ西ヲテフタテシゲレノ噴火山ニメ東北烟波ノ間ニ出沒スルモノハ天塩諸山ノ位スル処ナリ而メ京野ノ形状ハ恰モ其尾ノ快リ為ス即チ其尾端ノ東方ニ向フモノハ石狩本流ニ沿フ処ノ地ニメ他ノ尾端ノ南方ニ向フモノハ石狩ノ朝流ナル美瑛川ニ沿フ処ノ地ナリ

新幕府受渡手後書

第一章

総則

中系新幕府兵ニ其編入スヘキ中隊者久中隊ニ兵員受渡ヲ終ルルヲ後幕府官之ヲ統轄スルコト引キテスルモトス

中系新幕府兵受渡ハ移住地俾セ地場者久中隊本部又ハ中隊指揮官ニ於テスルモトス

但し時宜ニ知ラズ(年ヲ以テ)着船地又ハ泊泊地
 此記テ中系受渡ノ事スルヘシ

中系新幕府兵ニ其編入スヘキ中隊者久中隊ニ兵員受渡ハ移住地ニ向テスルヲ際シ以テ受渡ノ時刻トス

此記テ中系受渡ノ事スルヘシ

ノ二章

新兵隊ノ中準備

此田兵隊ノ中

ノ一 新兵ノ隊ヲ隊附將校ニ由テ多礼奉下シ、略長

ニ兵員ノ渡渡指定ノ場所ニ出テ兵員受取

濟ニテハ海隊ニテ給與品渡シテ方準備事ニ

從フヘシ

ノ二 若船也ニ宿泊也ニ於テ新兵受渡シ、時ニ其隊長

ニ令ニ抄隊附士官下士現場ニ出張シ、兵員受取

族引ニ年等事ニ從フヘシ

ノ三 隊附醫官總則ノ八条ニ抄テ新募兵員ニ宿族病者、

該所ノ一東セシメテ病者著テ各ヲ隨テ送テ品

田谷村ニ要意ニ現場ニ出張シ、病者治療ニ從フヘシ

ノ四 隊附七条、準備同各士但書ニ抄テ其隊ニ令セシ

該

ノ八 隊長ニ高登ノノ負リ派ニ地方部役所又ハ

長役場トお合セ諸事ヲ不都合ナキ様ニ配セシ

ムヘシ

ノ五 米多傷合ニ積取船上陸也到着ニ陸上宿泊

ノ時、宿泊所ニ負リ、宿泊所ニ宿泊セムヘシ

ノ六 若船也又宿泊也ニ於テ兵員受渡シ、病者

其隊ニテ之カ手配ヲ為スモノトス

其隊ニテ之カ手配ヲ為スモノトス

ノ三 章

徵募官ノ準備

ノ七 徵募官、徵募地ニ積取船到着セハ、移住者縣

此田兵隊ノ中

中田村第... 陸

別吸序ヲ立ラ之ニ拠ラニ案召シシムルモノトス

中ノ系徴算官ニ移住者陸地ニ着座セハ各自上陸

ノ準備ヲ為サシ其上陸順序ハ以前年私及對ノ

順序ヨリ縣別上陸セシムルモノトス

中ノ系徴算官航ノ中移住者ヲモテ他私ニ案換セシ

ル等ノ事アルハ前年ノ例ニ拠ル所ヲ以テ船中ノ序

別々可成混合セリト採注意スヘシ

中ノ系(積形私)移住者上陸地ニ到着セハ陸別ノ系ノ

書類ヲ携ヘ先ツ徴算官ノ自宅名上陸ニ向地

寄泊セシムル中ニ陸寄泊ノ負ト抗議シ各寄泊所

ニ負ツ(肥)別方ニ入ル所携帶ノ書類ハ其時スヘシ

長ニ移スヘシ

但本系書類必ズ積形地ニ到着マテ取廻セテ置

モノトス

中ノ系上陸地ニ付泊セシムル直ニ移住地ニ引年スル中初

上陸ノ徴算官ハ船私到着後吸序ニ携者ト

ナリトシ船中ニ在リテ各自負携帶ノ物入ルル

積物ヲ船中ニ置キ他ニ仕者ト移住地集居スル

中ノ系本船所駐徴算官ハ船中ニテ上陸ノ準備ヲ

為シタル多ク船中ノ指揮ニ際スル上陸ノ

順序ヲ整正シテ各寄泊所ニ着座シテ海難セザル

中ノ系上陸船中初ニ到着セハ取廻徴算官ハ船

中寄泊所ノ見計ヒ年移ノ負ニ引年不足ナキ採

取視スヘシ

積物ハ船中ニ置キ
モノトス

中田村第... 陸

予四日... 移住者悉皆船中... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房...

予五日... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房...

予六日... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房...

予七日... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房...

新嘉坡...

予八日... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房...

予九日... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房...

予十日... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房...

予十一日... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房... 移住者悉皆船中... 船中各房...

其手續...

約定之... 上

一十... 上

一三... 上

一三... 上

才五頃 富田村... 約定之... 上

一三... 上

才六頃 富田村... 約定之... 上

一三... 上

才七頃 富田村... 約定之... 上

一三... 上

一三... 上

一三... 上

才八頃 富田村... 約定之... 上

一三... 上

一三... 上

但... 約定之... 上

才九頃 富田村... 約定之... 上

一三... 上

一三... 上

才十頃 富田村... 約定之... 上

一三... 上

一三... 上

一三... 上

卯多し

移住者之實調表

| 縣名 | 何之縣 | 日 | 日 | 日 | 合計 | 備考 |
|----|-----|---|---|---|----|---|
| 六十 | 一 | 二 | 一 | 二 | 二 | 移住者、附籍并同居者、子ニシテ、 杜助ト爲テ、ケレモ、且、自費渡航者、 知書スヘシ |
| 上 | 二 | 一 | 二 | 一 | 二 | |
| 五 | 一 | 二 | 二 | 二 | 二 | |
| 七 | 一 | 三 | 一 | 一 | 三 | |
| 七 | 一 | 三 | 一 | 一 | 三 | |
| 三 | 一 | 三 | 一 | 一 | 三 | |
| 計 | 計 | 二 | 三 | 二 | 九 | |
| 合計 | 合計 | 八 | 八 | 七 | 二九 | |
| 姓 | 何ノ | 日 | 日 | 日 | | |
| 某 | 某 | | | | | |

移住者之實調表

卯多し

卯多し

卯多し

卯三月

| 年 月 日 | 何某 | | | | | | | | 縣名 數別 | 重病者 | 輕病者 | 遠路者 | 獨步者 | 戶主姓名 |
|-------------|----|---|---|---|---|---|---|---|----------|-----|-----|-----|-----|------|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | |

何某

徵考官之姓名

三月廿五日

徵考官之姓名

三月廿五日

和

老幼者之難之及禮表

| 何 | 何 | | 何 | | 何 | | 何 | 何 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | |
| 何 | | | | | | | 何 | 何 |
| 何 | | | | | | | 何 | 何 |
| 何 | | | | | | | 何 | 何 |
| 何 | | | | | | | 何 | 何 |
| 何 | | | | | | | 何 | 何 |

年

方

位

日

日

不

三何物何也五計物

合計何面何物何

四註

何縣

何百何物何

何縣

何物何物

何物何也五計物

年月日

主任

經理 官 姓 名

田...

田...

隊附医官定員軍医ヲ以テ充テシメテ被

裁ニ付申上

三田兵衛 隊附医官定員軍医ヲ以テ充テシメテ被裁ニ付申上
美向ノ軍医ノ缺員ハ備員ヲ以テ補ルルハキヤ古ノ意之レ
トモ經費又ハ人員ノ缺員ハ性之缺員ノ決ニ相成ル者
或ハ殊更ニ減員セラル、等ノ事ハ有リ又ハ存留不充者
ヲ以テ一時ヲ繰越シ置カレ、如キトモ有リ様神在ル元來此田
兵衛一大隊ノ編制表ノヒラハ四ヶ中隊ノ人員ハ師團制
兵一大隊ノ戦時ノ員ト美ヲキヤ實際ハ師團在共ニト異
ナリ各自家族ヲ有スルハ故ニ中隊ノ人口ハ家族共強ントテ
以上ニ及フノミナラス老幼婦女等皆弱者ノ數ハ強壯兵
員ノ數ニ倍シテ加フルニ遠ク生國ヲ高シテ不毛ノ地ニ移リ
美島ノ冒シケテ洞窟ニ這入ルルナレハ氣候不慣熟シ

三田兵衛

ルカ如キ感ナキ能ハサル誠ニ遺憾ノ至リ殊ニ師團名場ノ如キハ何
レモ便利ノ地方ニアリテ僅ニ三ヶ年間ノ在ルモ止マリ尤モ一定ノ壯丁
ノミテ幼婦女子等家族ノ無事累ナキニ尚ホ平時ノ員ノ大略ニ二名
ノ軍医ヲ附シ其外右衛門地ニ病院ヲ設ケテ専務ノ員ニ
ヲ附スル等注意保衛ヲ得ルナリ且ツ医官ノ員モ現令最
早缺員ヲサナキ迄ニ充テセシニ交通不充分ニテ新ノ迎候敷
里ニ良医ヲ遣ルノ便ナキ不毛ノ地ニ任スル屯田兵ニ却テ備員
ヲ付シ或ハ缺員ヲ補フニ違々多ク如キ師團ト云ルモ固ク言フ
皆同一軍団ニシテ普通籍任兵ニモ屯田兵ニモ比シテ日本國民ナルニ其
生命保護ノ上ニ彼我如キノ美ヲ見ルノミナラス或ハ其保護
ハ法ニ解シ津ヲ犯シタル在監囚送ニスラモ如キノ觀見ルハ
甚ク其當ヲ得サルモノト存スル者モ屯田兵ニ對シ公平ノ論断
ヲ下スルハ師團名場ニ戰時ノ員ハ豫備員ヲ以テ充ツルトシテ

三場ニ日世兵員四増

平時ノ缺員ハ一時漏算シ以テ補フトスル或ハ缺員トナシ置テ
凡一家ヲ帯テテ人情難ク墳墓ノ地ヲ捨テ深ク不毛ノ地ニ入
リ其没ノ外ニ拓地殖民ノ義務員トシテ國家ノ柱石トナリ一組
氏ノ率先者トシ屯田兵ニ必ス適當ノ軍医ヲ附スルハ勿論若
シ為シ得ハラシハ空員ノ外ニモ尚ホ相當ノ瘡医ヲ加ヘ以テ充分
ノ保護ヲ與ヘ壯年ヲ慰ムヘキヲ當テ存スル保シル如キ満
足ノ一ハ到底目ハ汗ハサレテ長一ハ解テ充分ノ一ハ望ミ申
サス後ハ其意ニ角現今ノ如ク各師團共軍医ノ人員精既ニ
全カラントスルニ至リしハ海軍艦上ニ一時ノ缺員ヲ生セシムル
トアルハ是非其際屯田兵名場ヘハ悉皆相當ノ軍医ヲ充テ
セシムルハ度尤候ハズラハ如何ニ為中々望願勸誘スルハ
如何哉産ニ保シ護テ疾フル民病者ヲ慰ムル途無クハ
充分ノ効績ヲ見ル能ハルハ勿論大ニ一師ノ一情ニ感ハリ

屯田兵名場大衆

屯田兵ヲ要道ニ分置シ警備駅務ヲ兼帯
セシノ度建議

書リ少將閣下ニ呈ス抑モ根室ハ当道ノ極端未闕ノ
地位ナルハ能ク人ノ知ル要ナレハ其喋々ヲ贅セス
トモ^{正苗}茲ニ一言以テ閣下ニ呈セント欲ス其要領
ヲ摘ンテ吐露センニ則テ札幌根室間道路開鑿ノ業
行ニシテ既ニ其工事ハ特ニ着手セラントスルノ秋
ニ際シ共ニ該道ヲ保護完全ナラシムルニアリ乃チ
屯田兵ヲ緊要ノ地位ニ配置シ<sup>屯田兵ヲ各所ニ分置シ
テ警備上ハ素ヨリ</sup>警備上ハ素ヨ
リ全道拓地殖民ノ政務ニ起回シ尋テ駅遞郵便ノ業
務ヲ屯田兵ニ兼ネシノ倍多ニ開墾シ應差ニ陸路ノ
至便ヲ發揚セハ人民歳月ヲ逐テ移任ノ精神ヲ喚起

鞏固ナラシメントス然ルハ至然ニ是ヲ慕フハ人
情ノ基ツクヤ亦疑フ容レサルナリ^{正苗}多年ノ經驗ヲ
以テ住民心裡ノ如何ヲ探究スレハ殖産興業ノ念ナ
ク一時ノ奇利ヲ目的トシ徒ニ高居ヲ試ミルモノ其
過半数ヲ占ムルト謂フモ豈ニ証言ニ非ラサルヤ少
セリ如斯狀況ニテハ殖民興業ノ旺盛ヲ將來ニ望ム
ヘキハ勿論月ニ歳ニ萎靡センモ又難計美ニ浩歎ニ
耐ヘサルナリ今ヤ第一着焦眉ノ急務タル屯田兵ヲ
シテ札幌根室間本道十里乃至六七里便宜樞要ノ地
ニ配置シ而シテ札幌本宮ニ連絡セシメ以テ警備上
ヨリ及馭造ニ郵便ニ前陳スル処ノ業務ヲ執ラシメ
ナハ國道ノ荒蕪ニ歸スル憂ナリ一般拓地殖民ノ精
神ヲ全フスルニ至ルヘシ然ラハ則テ民情モ一變シ

漸ク以テ殖民興業ノ端緒ヲ開クナラシメ否ラサレハ
獨リ道路ヲ開鑿シテ通行便ナラシムルニ忽テニレテ
荒レ下ナニシテ塞カリ終ニ道路ノ名アルモ亦道ナ
キヲ恨ムニ至ルヤ既往ノ盛蹟ニ徴シテ其例ナキヲ
得ス是ヲ以テ当道拓地殖民ヲ隆盛ナラシムルハ他
ナシ之レ道路ヲ開クニ在リトハ世人モ頻リニ唱論
スト策モ其道路ヲ通スルノミテハ容易ニ拓地殖民
ノ域ニ進マシムルニ至ラス唯計畫ノ一点ニ因ルモ
勞シテ切ナキモノニ齊シ能ク此ノ点ニ注射セサル
ヲ得ンヤ^{正苗}於是既往ト向來ノ得失ヲ顧ミ日夜熟考
スル要前願ノ計畫ヲ取ルニ非ラサレハ克ハス是レ
当道経論ノ機軸富國強兵ノ基礎則テ人生必需ノ供

給答斯業ノ外ニ出ス実ニ其美シ企望スルノ志氣勃
興ノ餘リ區々ノ萬一ヲ摘載シ敢テ建議ス幸ニ正苗亦
心惘納シ賜ハン丁果シテ採納ノ惠ヲ被ラハ正苗志望
ヲ遂ケルノミナラス即チ國家ノ美譽ヲラシムル此事
唯閣下ノ高明ニアリ伏チ冀クハ前陳ノ事情御採擇
アラシムルヲ誠惶誠恐頓首

明治十九年三月

屯田兵少佐和田正苗

屯田兵本部長

陸軍少將永山武四郎殿

仕込書

屯田兵本部長

方法之概略

札根西地ノ距離概テ百四十里ナリ以道十里毎
二地ノ景况ニヨリニ三里ノ平均ニカ隊(屯田兵)ヲ
二即チ一隊ニシテ置ルハ以テ彼レニ至ルノ
 數ニ十六カ隊ヲ要スルニシテ其ノ中隊ニ
 大レハ六中隊トシテ小隊トシテ其ノ大隊ニ改養ス
ルハ一大隊トシテ中隊ニカ隊ナリ然レニ
二止シテ戰友ニ名ニテ一馬ヲ蓄フルハニカ隊ノ
專教得テ五十五頭ナリ(其平均蓄養)此馬匹ヲ以テ
順取ノ傳馬ニ供スル務ヲ奉テテ屯田兵ニ移スル
一官民分牝ノ飼養益ヲ受クルモノナルヲ信スル
 其方法ノ略ヲ畫スルニ安ニカ隊團畜處ノ如キ一

札根西地ノ距離概テ百四十里ナリ以道十里毎
 二地ノ景况ニヨリニ三里ノ平均ニカ隊(屯田兵)ヲ
 二即チ一隊ニシテ置ルハ以テ彼レニ至ルノ
 數ニ十六カ隊ヲ要スルニシテ其ノ中隊ニ
 大レハ六中隊トシテ小隊トシテ其ノ大隊ニ改養ス
 ルハ一大隊トシテ中隊ニカ隊ナリ然レニ
 二止シテ戰友ニ名ニテ一馬ヲ蓄フルハニカ隊ノ
 專教得テ五十五頭ナリ(其平均蓄養)此馬匹ヲ以テ
 順取ノ傳馬ニ供スル務ヲ奉テテ屯田兵ニ移スル
 一官民分牝ノ飼養益ヲ受クルモノナルヲ信スル
 其方法ノ略ヲ畫スルニ安ニカ隊團畜處ノ如キ一

豫備ナリ 物役ハ帝ノ準ニ準シ 然ルニ女馬匹ノ餘力 中日
 ヲ表ニ仮ル所ハ大ニ準備事業ニ便宜ヲ興工ヘシ
 今日吾國境農産ノ振起セサルハ種々ノ原因アル
 ヘシ然レモ女馬力ヲ仮ルニ少ナル反動亦興カ
 ラサルナキヲ得ンヤ抑、運搬的ノ頻繁ナルハ蓋
 シ農方級ノ最ニ居ル、似タリ春耕夏耘秋獲冬藏
 也シニ由ラサルハナシ馬力ノ農業上要用ナル所
 ノ如シ置ニ事莫カル可ラサルモナリ
 蓋シ方今族招道ノ取馬ハ女馬三十頭ヨリ四十頭
 ニ至ルノ數ヲ蓄フルノ例ナリ 田圃皇馬 然ルニ
 其弊漸ク施リテ事亭充分ノ注意ヲ加ヘス判例是
 レ管ニ往々後也總稼時善養セサル等乗ニ欺ニ使
 且ツ任一モ可ナルモナシ是等班民界ノ常狀ナリ

〇ルニ是ラサレ凡畢竟物品ノ担綱旅客ノ支障ヲ
 醸生スルノ原ナルヲ念セン試ニ、函根ノ距高ト陸
 尾郵便物運着ノ一例ヲ擇ムルニ其運送ノ緩慢ナ
 ルハ其距離ノ程變ニ似ス大概冬分疾キハ十有二
 三日後ナハ世有余日ナラサレハ彼頃互ニ消息ヲ
 尋ニスル能ワス者世ニ在ツテ尚ホ桑葉ノ盛ヲ免
 レス故ニ是等知事ト男モ亦好妻ヲ蓄フノ其一ニ
 加ハサルヲ得ス偽ナ故ハ合イテ論セス今本旨
 ヲ果ナル、ナハ世田取々相連リ檢信往來大ニ軍
 容ヲ補ヒ其知也防ニ作民保護ニ殖産事業ニ道路
 ニ及好風易俗澤ニ其余沢ヲ被ラント不實ニ一舉
 万全殆ント庶幾スヘキナリ然ルニ其費用ヲ問ハ
 ハニカ隊ニ付僅カニ金九百五十円 馬五十五匹代金 八百
 廿五円 米糶四仙 金

六十四年... 超過ヲ見ルノ三... 其事
 第一歩退イテ... 計画ハルハ... 扶助三年ヲ
 二年半ニ改メ... 比較スルハ... 前全隊ニ付金四
 十元百四十元... 三十三元... 平均金四十二元二十元三
 各ノ乗ハル... 減少ヲ現ハルモ... 其計画ノ内
 譯ハ粗シク表ノ如シ

官白扶助三年半二年半比較之表

| 科目 | 三年高給費 | | 二年半高給費 | | 二年半低給費 | | 増 | 減 | 差 |
|-----|-------|----|--------|----|--------|---|---|---|---|
| | 元 | 角 | 元 | 角 | 元 | 角 | | | |
| 夜具代 | 二七 | 二五 | 二九 | 二四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 家具代 | 一〇 | 三七 | 一〇 | 三七 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 農具代 | 一七 | 四七 | 一七 | 四七 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 科 | 四三 | 〇〇 | 四三 | 〇〇 | 七 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 夜具代 | 二七 | 二五 | 二九 | 二四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 家具代 | 一〇 | 三七 | 一〇 | 三七 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 農具代 | 一七 | 四七 | 一七 | 四七 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 科 | 四三 | 〇〇 | 四三 | 〇〇 | 七 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

| 科目 | 三年高給費 | 二年半高給費 | 二年半低給費 | 増 | 減 | 差 |
|-----|-------|--------|--------|----|---|---|
| 夜具代 | 二七 | 二五 | 二九 | 二四 | 〇 | 〇 |
| 家具代 | 一〇 | 三七 | 一〇 | 三七 | 〇 | 〇 |
| 農具代 | 一七 | 四七 | 一七 | 四七 | 〇 | 〇 |
| 科 | 四三 | 〇〇 | 四三 | 〇〇 | 七 | 〇 |
| 夜具代 | 二七 | 二五 | 二九 | 二四 | 〇 | 〇 |
| 家具代 | 一〇 | 三七 | 一〇 | 三七 | 〇 | 〇 |
| 農具代 | 一七 | 四七 | 一七 | 四七 | 〇 | 〇 |
| 科 | 四三 | 〇〇 | 四三 | 〇〇 | 七 | 〇 |

トシ其羊翁ヲ説ス其馬代ハ最初ニ限リ恰與ス
 シモト見做コタリ而モ現金ヲ信スルモアテマ
 現馬ヲ備、付ケルモトス保ハ維持金、内ヨリ
 継立ツルモトス其馬傷ハ馬具等ヲ手帳ナルモ
 ノニテ車輪及鞍鞍等、備、付費昂ナ新設ニ係ル
 方ツ掲ケ増費ヲ特ニ最ス昂ノ仮設シタルモノナ
 リ而シテ車鞍一付全十五圓鞍鞍全全三圓ノ積

兵員軍族別已方人算表

| 類別 | 戸数 | 家数 | 計 |
|-----------|----|----|----|
| 大隊人員 | 一 | 三 | 四 |
| 中隊人員 | 一 | 六 | 七 |
| 大隊人員 | 一 | 二 | 三 |
| 一大隊ト中隊ニ分隊 | 一 | 三 | 四 |
| 計 | 四 | 八 | 一二 |

備考

一、中隊平均由人ノ見積リ四十五名共一各軍族三名

人算ノ算数ヲ里程ニ比較之表

| 里程 | 人員 | 馬匹 |
|-----|-----|----|
| 一〇 | 二〇 | 五 |
| 二〇 | 四〇 | 一〇 |
| 三〇 | 六〇 | 一五 |
| 四〇 | 八〇 | 二〇 |
| 五〇 | 一〇〇 | 二五 |
| 六〇 | 一二〇 | 三〇 |
| 七〇 | 一四〇 | 三五 |
| 八〇 | 一六〇 | 四〇 |
| 九〇 | 一八〇 | 四五 |
| 一〇〇 | 二〇〇 | 五〇 |

備考

札幌ヨリ距離十里ヨリ起リ頃次ニ中隊ヲ一隊、置ク所ハ女隊人
 馬ノ數里程、並隨追加ナル本表ノ如シ但根茎ニ至ルモノ
 札幌西面八員馬匹ノ概數(一隊ニ分隊ヨリ起ル)

| 隊名 | 分官 | 下官 | 平時隊員 | 戰時隊員 | 計 | 馬匹數 |
|-----|----|----|------|------|-----|-----|
| 一大隊 | 三 | 六 | 一〇 | 一三 | 二三 | 七 |
| 中隊 | 二 | 四 | 六 | 八 | 一四 | 四 |
| 二小隊 | 一 | 二 | 三 | 四 | 七 | 二 |
| 計 | 六 | 十二 | 十九 | 二十五 | 四十四 | 十三 |

備考

本表ハ二小隊人員ノ算ノタリ者ナレハ大

隊附、諸兵系、列外、復ハ、含有セズ、在、堀、内、余、地、少
 ナク、因テ、臣、職、名、ヲ、撰、ク、ニ、由、レ、テ、ナ、レ、ル、且、シ、ク、也
 ヲ、省、ク、依、令、ハ、ニ、也、隊、ノ、性、ニ、於、テ、學、ニ、士、官、ノ、堀、ニ
 ニ、ト、書、シ、アル、ハ、中、小、符、各、一、一、ル、ヲ、云、ヒ、軍、曹、ノ
 堀、ニ、於、テ、一、一、名、ニ、主、三、名、ト、ル、ヲ、云、ヒ、在、戦、時
 堀、長、ノ、堀、内、上、下、兵、ハ、如、率、一、古、兵、ハ、銃、卒、ニ、古、兵、ハ
 堀、以、卒、ヲ、云、フ、ノ、類、ナ、リ、但、屯、田、兵、色、才、四、十、二、号、
 大、月、廿、日、ニ、起、因、ス、
 招、明

畢

一也
 日
 兵
 卒

延建元年丁巳、何定之、の夜中、少後、ヲ、四、方、ノ、
 礼、書、ノ、存、在、之、セ、シ、ム、ル、由、キ、石、段、ヲ、藏、サ、ス、ル、事、也、
 秘、少、ノ、ヲ、ラ、ガ、ん、ハ、シ、石、ノ、性、也、ノ、依、リ、十、四、戸、ノ、火、
 災、ヲ、存、好、リ、故、置、セ、ラ、シ、ラ、ハ、如、何、

乞討部 四戸
 法外部 五戸
 軍医部 五戸
 (倉庫部 一戸)
 (副官部 五戸)

若し夫し改定せらるべし、トセハ、此、事、判、任、先、年、月、迄、ノ、初、
 限、ヲ、廢、シ、判、任、先、年、以、下、ノ、位、置、無、ク、ス、ル、丁、ノ、改、定、シ、而、
 シ、テ、左、ノ、制、限、ヲ、設、ケ、テ、タ、シ、

- 一、日、令、部、所、在、地、ノ、自、定、ヲ、有、ク、モ、ハ、位、置、無、ク、シ、テ、存、在、ス、
- 一、父、母、妻、子、兄、弟、姉、妹、ノ、間、當、地、ノ、現、在、セ、ル、ル、ハ、位、置、無、ク、ス、

明治六年十月、也、田、兵、設置、ノ、先、裁、ヲ、經、理、七、年、兵、屋、一、棟、拾、七、
 坪、五、合、ノ、建、坪、ニ、シ、テ、松、茸、土、壁、ノ、結、構、ヲ、以、テ、兵、屋、二、百、八、棟、ヲ、
 築、似、村、ノ、建、築、越、ヘ、テ、八、年、六、月、構、造、ノ、據、リ、若、手、村、ノ、三、
 拾、二、棟、山、鼻、村、ノ、二、百、四、拾、棟、兵、屋、ヲ、建、設、セ、リ、同、十、二、年、
 牛、馬、力、ヲ、利、用、シ、西洋、農、具、ヲ、使、用、シ、以、テ、大、ニ、農、業、ヲ、
 改、良、セ、ン、ト、ノ、議、アリ、乃、チ、米、田、北、部、ノ、農、佃、民、ノ、家、作、ノ、
 模、倣、シ、附、ス、ル、石、道、露、田、形、暖、室、爐、ヲ、装、置、シ、
 防、寒、ノ、具、ニ、供、シ、又、之、ノ、牛、馬、二、頭、ヲ、飼、養、ス、ル、ノ、厩、
 舎、ヲ、附、シ、以、テ、十、棟、ノ、兵、屋、ヲ、江、別、村、ノ、建、設、ス、ル、ト、シ、
 キ、露、田、田、サ、イ、ベ、リ、ヤ、五、合、地、コ、サ、ツ、ク、家、屋、ノ、模、倣、防、
 寒、ヲ、主、ト、シ、九、丁、組、兵、屋、二、拾、棟、ヲ、修、津、村、ノ、經、
 營、シ、附、ス、ル、ニ、テ、露、田、形、ノ、暖、室、爐、ヲ、以、テ、シ、之、ヲ、本、

道農家、家正建屋ノ模範トナセリ、同十六年より
十九年、至四年、各年、建屋セシ、兵屋ノ總
費、限アルヲ以テ、途ニ節減ヲ加ヘ、再々ヒ、其、今、似、島
方村、建、望、兵屋、形、復、セリ、當時、四、年、各、建
設、ノ、兵屋、ノ、戸、数、八、百、九、拾、六、戸、シ、ラ、兵屋、平均、金額、百
九、拾、七、圓、九、拾、六、角、九、厘、ヲ、要、セリ、同、末、年、々、以、成、ノ
經費、節、減、ヲ、者、トシ、増、殖、ニ、從、事、ス、ル、ヲ、以、テ、二十、年
以降、兵屋、ノ、建、築、ハ、勿、論、道、路、排、水、ノ、開、鑿、ニ、至
ル、マ、テ、大、ノ、節、減、ニ、節、減、ヲ、加、ヘ、經費、ノ、方、法、ヲ、改、正
特、兵屋、ノ、保、存、ハ、几、十、箇、年、ヲ、目的、ト、シ、之、が、構、造、ノ
如、キ、モ、地、方、積、蓄、ノ、重、量、ニ、勝、ズ、ル、ヲ、以、テ、程、度、ト、セリ
蓋、シ、也、同、兵、刺、殺、ノ、地、概、子、若、シ、若、シ、タ、ル、相、對、ニ、ア
ラ、サ、レ、ハ、荆、荆、繁、茂、ノ、土、タル、ヲ、以、テ、帯、人、路、ノ、到、ラ

サル、苦境、ニ、進、ニ、新、起、事、業、ニ、從、テ、サ、ル、ヲ、均、ス、故、ニ
也、同、兵屋、ノ、建、設、ハ、本、道、事、業、中、ニ、於、テ、最、モ、至、難
ニ、シ、テ、特、ニ、物、價、ノ、不、廉、ヲ、免、レ、サ、リ、キ、故、ニ、今、ヤ、多
年、ノ、實、験、ヲ、從、年、一、年、ニ、簡、易、輕、便、ノ、建、築、ホ、依
ル、ヲ、得、テ、當、時、二十、年、ヨリ、二十、三、年、ニ、至、ル、ノ、建、設、
兵屋、ハ、千、九、百、四、十、二、年、シ、テ、壹、戸、平均、百、五、圓、八、角、五、厘、
八、厘、ニ、減、サ、ス、ル、ヲ、得、タ、リ、キ、今、試、ニ、兵屋、改、造、費、途
節、減、ノ、一、班、ヲ、示、サ、ル、從、來、構、造、ニ、土、壁、ヲ、附、セ、シ、ラ、止
メ、板、壁、ニ、更、更、セ、ル、が、如、シ、若、シ、航、空、ノ、如、ク、土、壁、ト、セ、カ
本、道、統、米、ヲ、貯、ル、値、ハ、六、ヶ、月、間、余、ノ、期、節、ニ、於、テ、
數、百、ノ、家、屋、容、易、ニ、成、功、ヲ、見、ル、統、ハ、サ、ル、ヲ、以、テ、統
局、算、大、ノ、利、ハ、ソ、得、セ、シ、マ、カ、一、年、以、降、ハ、土、壁、ノ、與、ニ、
木、板、ヲ、以、テ、木、造、ス、ル、ト、ナ、レ、之、が、爲、メ、四、年、共、ニ、從

